

飯塚市第2次公共施設等のあり方に関する
基本方針
(公共施設等総合管理計画)

平成28年1月
飯塚市

目次構成

第1章 計画の策定にあたって	3
1. 背景と目的	3
2. 計画の位置づけ	4
3. 計画期間	5
4. 人口構造	6
5. 財政状況	7
(1) 平成 25 年度の歳入歳出	7
(2) 歳入歳出の推移	8
(3) 扶助費の推移	9
(4) 投資的経費の推移及び内訳	9
(5) 類似団体との比較	10
第2章 公共施設等の状況	11
1. 対象施設	11
2. 建築物	12
(1) 保有状況	12
(2) 築年数	12
(3) 類似団体との比較	13
(4) コストシミュレーション	14
3. インフラ	16
(1) 道路	16
(2) 橋りょう	16
(3) 上水道	17
(4) 下水道	18
(5) 公園	19
(6) 農業施設	19
第3章 公共施設等利用状況	20
1. 調査概要	20
2. 飯塚市全域の利用状況	21
(1) 回答者の属性	21
(2) 施設の利用状況	22
(3) 公共施設等の維持について	35
(4) 公共施設等の場所について	36
(5) 自由回答	38
第4章 施設の運営状況	53
1. 市民施設	53
(1) 駐車場	53
2. スポーツ・レクリエーション系施設	53
(1) 屋内運動施設	53

(2) 屋外運動施設	55
(3) プール	55
(4) 野球場	56
(5) テニスコート	56
3. 学校施設	57
(1) 小学校（小中一貫校含む）	57
(2) 中学校	57
4. 子育て支援施設	58
(1) 保育所・こども園	58
(2) 児童館・児童センター	58
(3) 子育て支援施設	59
5. 市民・文化・社会教育系施設	59
(1) 文化施設	59
(2) 公民館（生涯学習施設）	60
(3) 図書館	63
6. 保健・福祉施設	63
7. 産業系施設	65
(1) 歴史・観光施設	65
(2) オートレース場	65
(3) 庄内農産物加工所	66
(4) 新産業創出支援センター	66
8. 環境施設	66
(1) 排水処理施設	66
9. その他	67
(1) 防災センター	67
(2) 飯塚市リサイクルプラザ工房棟（エコ工房）	67
第5章 施設の老朽化	68
1. 対象施設	68
2. 調査方法	69
3. 劣化状況の総合評価	70
第6章 公共施設等のあり方に関する基本的な考え方	72
1. 計画策定に向けて前提となる課題	72
2. 課題の解決に向けた基本方針	73
3. 施設類型別の方針	80
第7章 推進体制及び今後の取組み	82
1. 推進体制	82
2. 進行管理	82
3. 具体的な取組み	82

第1章 計画の策定にあたって

1. 背景と目的

①公共施設等のあり方に関する新たな方針の必要性について

本市は、合併直後の平成18年度に、大幅な財政収支の不均衡が生じ、このままでは、次年度の予算編成が危ぶまれる状況にありました。このような市財政の危機的状況を打開し、将来にわたり安定し、充実した市民との協働のまちづくりを進めていくために、行財政改革に取り組んできました。その取組みの大きなテーマである公共施設等の見直しについては、公共インフラを除く全ての公共施設等を対象にした「公共施設等のあり方に関する基本方針」を平成20年3月に策定しました。この方針の基本的な考え方は、表1のとおりであり、この考え方にに基づき、平成21年2月に「公共施設等のあり方に関する第1次実施計画」、及び平成23年3月には「公共施設等のあり方に関する第2次実施計画」を策定し、公共施設等のあり方について検討を行ってきました。

しかしながら現段階においても老朽化、耐震化などの課題を抱えながらも、今後の方針が決まっていない公共施設等が存在すること、さらに市の主要な財源である市民税は人口減などの理由により今後減少することが見込まれます。地方交付税は、市町村合併の特例措置の終了により、加算分が平成28年度から段階的に減額されることから、市民に対し、安全で安心な公共施設等のサービスを提供するためには、引き続き公共施設等のあり方について検討する必要があるため、「第2次公共施設等のあり方に関する基本方針（公共施設等総合管理計画）」を策定することとしました。

表1 「公共施設等のあり方に関する基本方針」の基本的な考え方

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">(1) 施設重視からサービス内容重視へ(2) 将来人口を見据え、地域の実情等も勘案した適正な配置等(3) 利用者の視点に立った施設運営の改善(4) 施設の複合化・多機能化及びコミュニティ形成型の施設への転換(5) 配置転換後の施設や空き(余裕)スペースの有効利活用(6) 施設の延命化(7) 効果的かつ効率的な管理運営主体の選択(8) 市民負担の公平性の確保(9) 広域的な連携（近隣自治体施設（サービス）の相互利活用） |
|--|

②「公共施設等総合管理計画」策定の背景と必要性

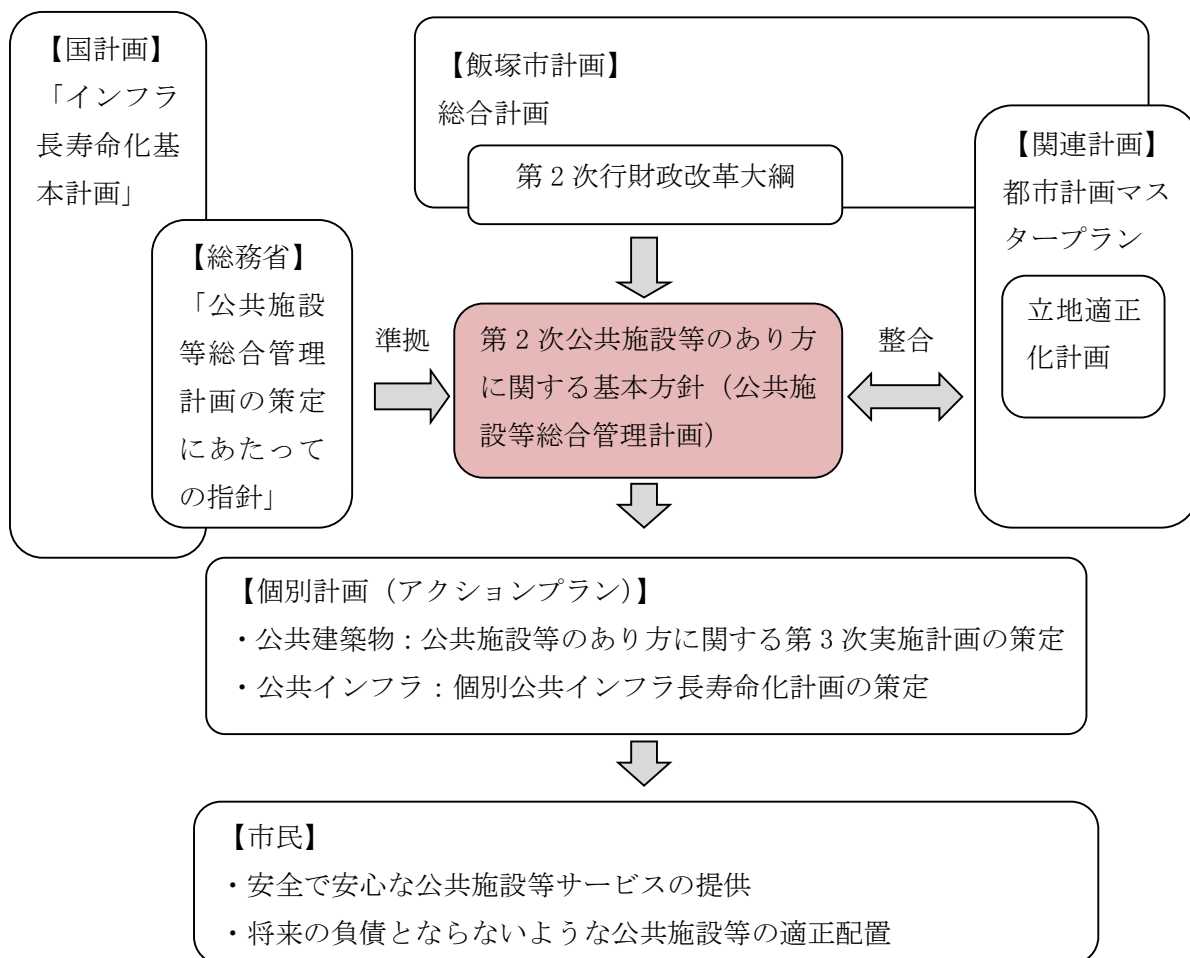
国においては、インフラの老朽化が急速に進展する中、「新しく造ること」から「賢く使うこと」への重点化が課題であることから、平成25年11月に「インフラ長寿命化基本計画」が策定されました。この基本計画に基づく行動計画として位置づ

けられる「公共施設等総合管理計画」の策定が平成26年4月に総務大臣から要請されました。この総合管理計画では、地方公共団体は依然として厳しい財政状況が続く中で、今後人口減少等により公共インフラも含む公共施設等の利用需要が変化していくことが予想され、早急に公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化するとともに、公共施設等の最適な配置を実現することが必要であるとされています。本市においても公共施設等の市民一人当たり延べ床面積は類似団体と比較して約1.8倍多いこと、将来人口も全国の平均と比較して早いスピードで減少することから、長期的視点に立って、将来の市民の負債とならないような公共施設等の維持管理、適正配置を計画的に行なう必要があります。

2. 計画の位置づけ

本方針は、本市の総合計画及び第2次行財政改革推進大綱を上位計画として位置づけ、関連する行政計画との整合性を図りながら進めるものとします。また総務省から要請のあった「公共施設等総合管理計画」として位置づけることから、平成26年4月22日総務省が示した「公共施設等総合管理計画の策定にあたっての指針」に準拠した項目設定とします。

上位計画



3. 計画期間

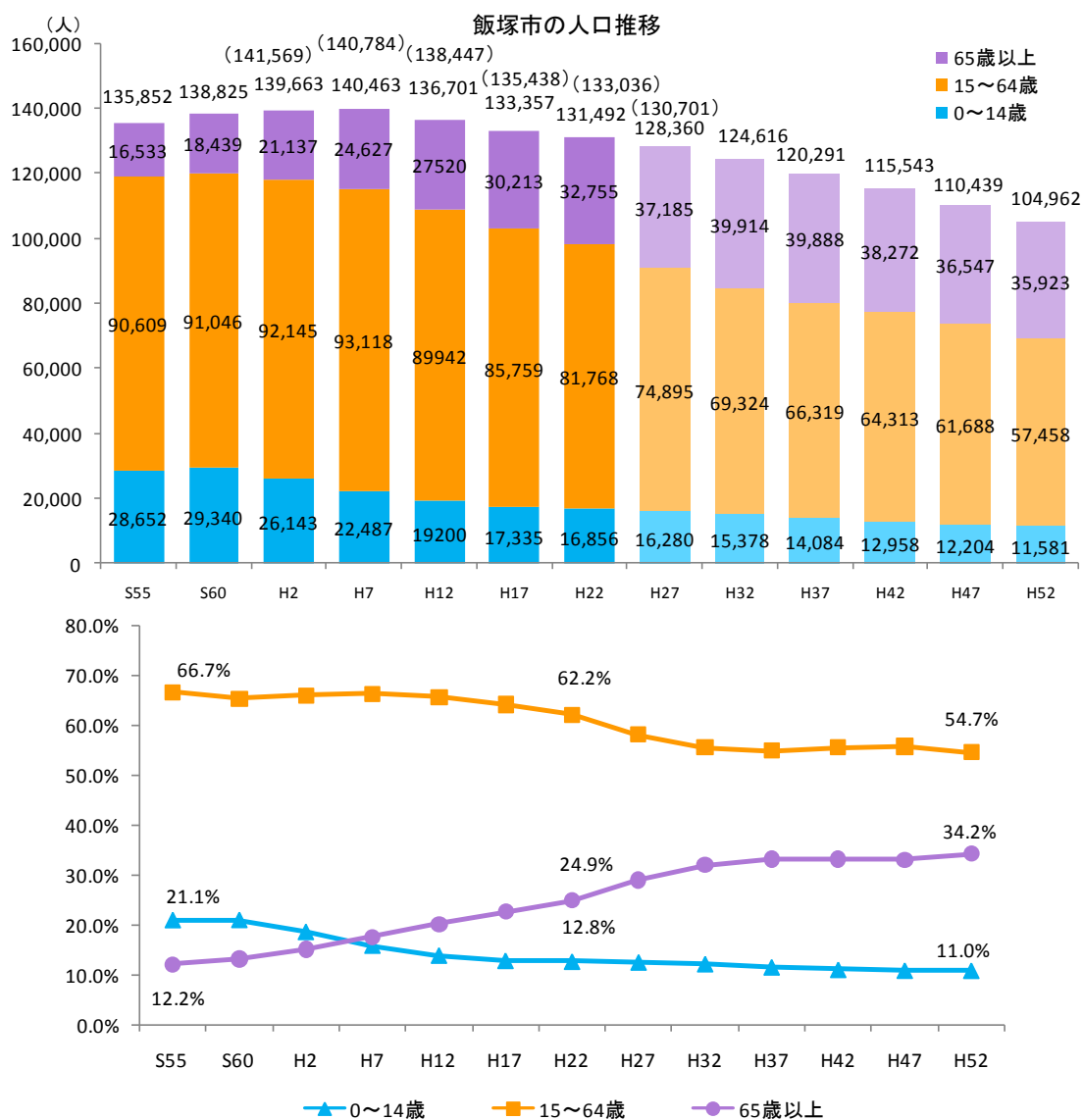
- ・本方針の計画期間は、平成 28 年度から平成 37 年度までの 10 年間とします。
- ・財政状況や公共施設等の統廃合等により、基礎データ等の変化が想定されることから、5 年後（平成 32 年度）に中間見直しを行います。
- ・なお、長期的な視点での検討が必要であることから、コストシミュレーション及び予防保全のための年次計画は 30 年間としています。

4. 人口構造

本市の人口推移を国勢調査の数字でみると、平成7年の140,463人をピークに減少に転じており、平成22年時点で131,492人と8,971人の減少となっています。同じ期間中、高齢者は8,128人増加しているのに対し生産年齢人口（15歳以上65歳未満）は11,350人、15歳未満人口は5,631人の減少となっています。

今後も人口減少は続く見込まれており、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、平成52年に本市の人口総数は約105千人になると予想されています。平成22年から30年間で約27千人（20.2%）の人口が減少する見通しです。

高齢者の数は平成32年の約40千人をピークに減少に転じることが見込まれていますが、平成52年には高齢化率は34.2%、生産年齢人口は約57千人（54.7%）まで減少するものと見込まれています。



資料：国勢調査（S55～H22）、国立社会保障・人口問題研究所推計（H27～）

※カッコ内の数値は、各年度末現在の住民基本台帳登録人口

5. 財政状況

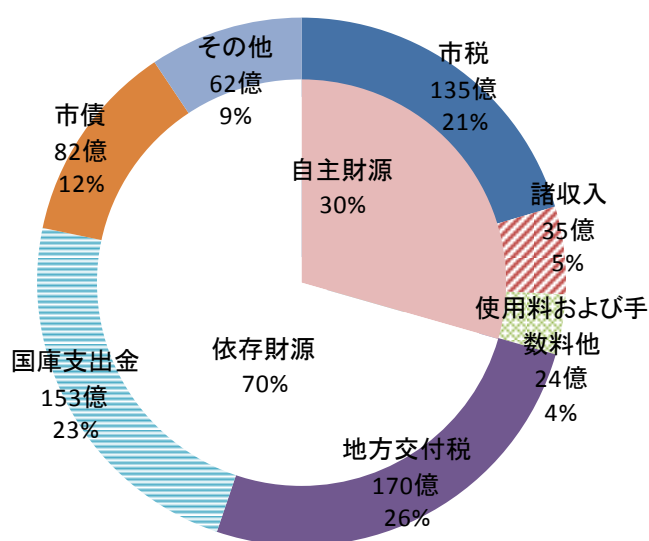
(1) 平成 25 年度の歳入歳出

平成 25 年度普通会計決算の歳入は、661 億円です。内訳をみると、地方交付税が 170 億円、国庫支出金が 153 億円、市税は 135 億円、その他の自主財源が 59 億円（諸収入と使用料および手数料他）となっています。歳入に占める市税の割合は 21%です。

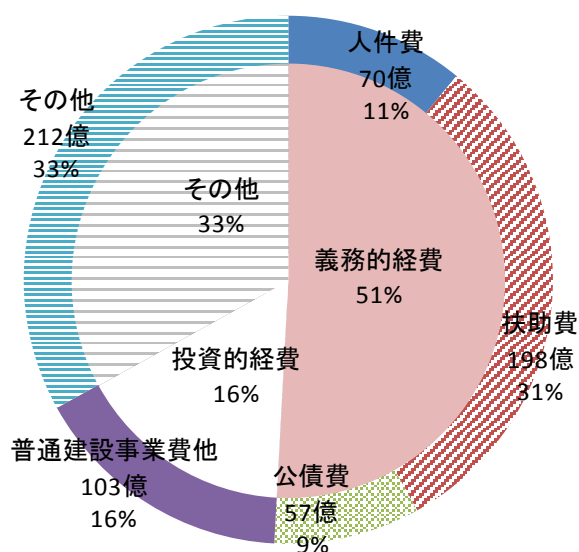
一方歳出は、641 億円です。内訳をみると、人件費が 70 億円、扶助費が 198 億円、公債費が 57 億円、普通建設事業費他が 103 億円、その他が 212 億円となっています。

歳出に占める義務的経費（人件費、扶助費、公債費）の割合が 51%です。

歳入内訳（平成 25 年度決算）



歳出内訳（平成 25 年度決算）

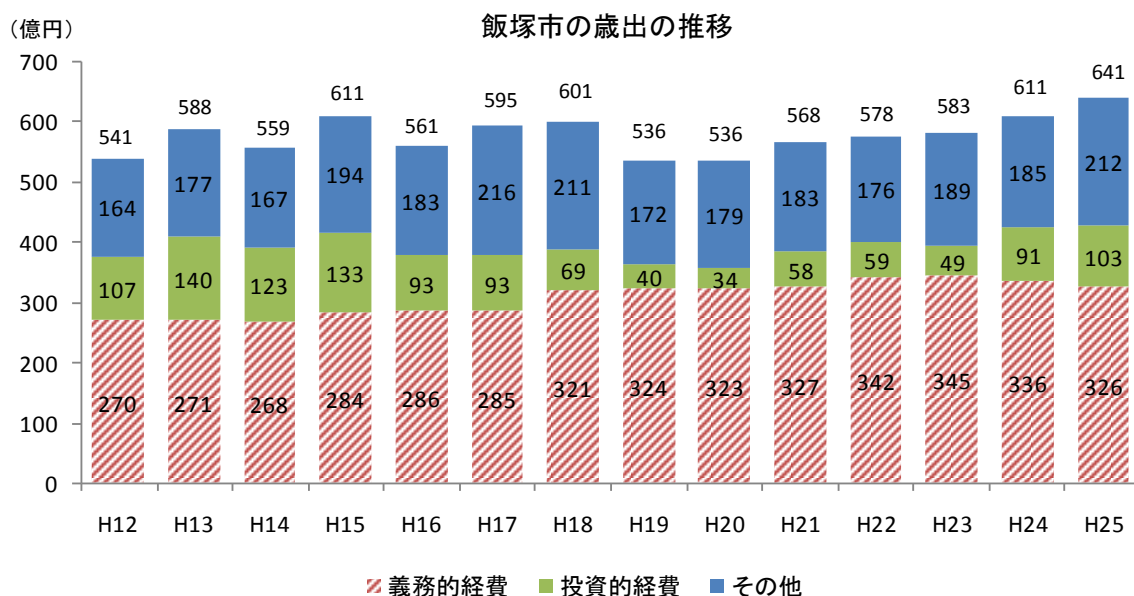
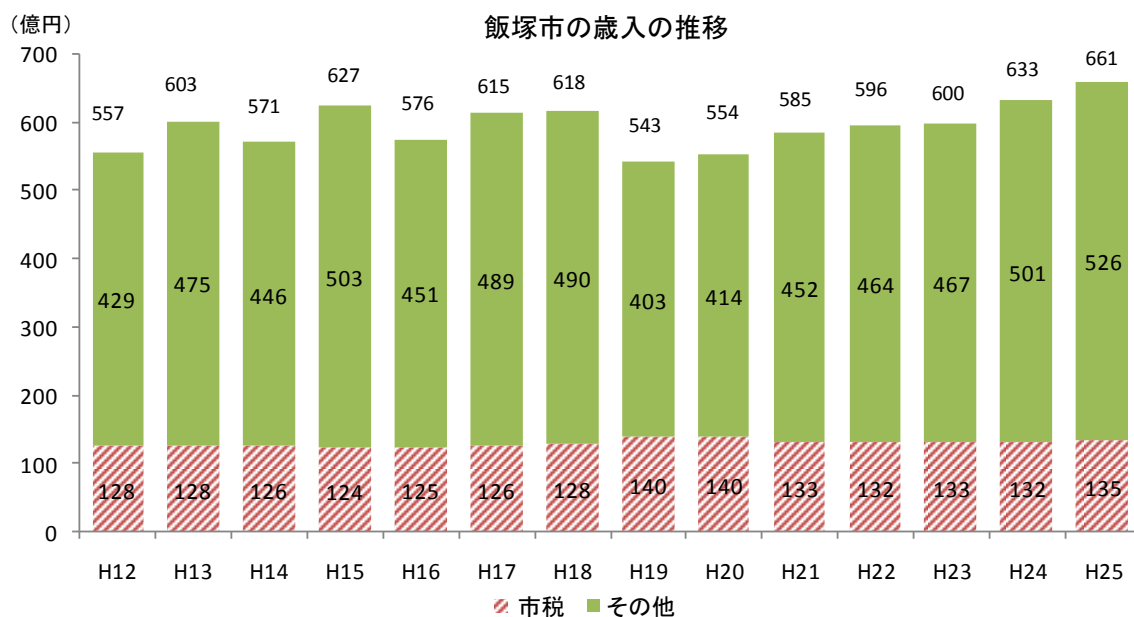


※四捨五入のため、合計が次頁と一致しない場合があります。

(2) 歳入歳出の推移

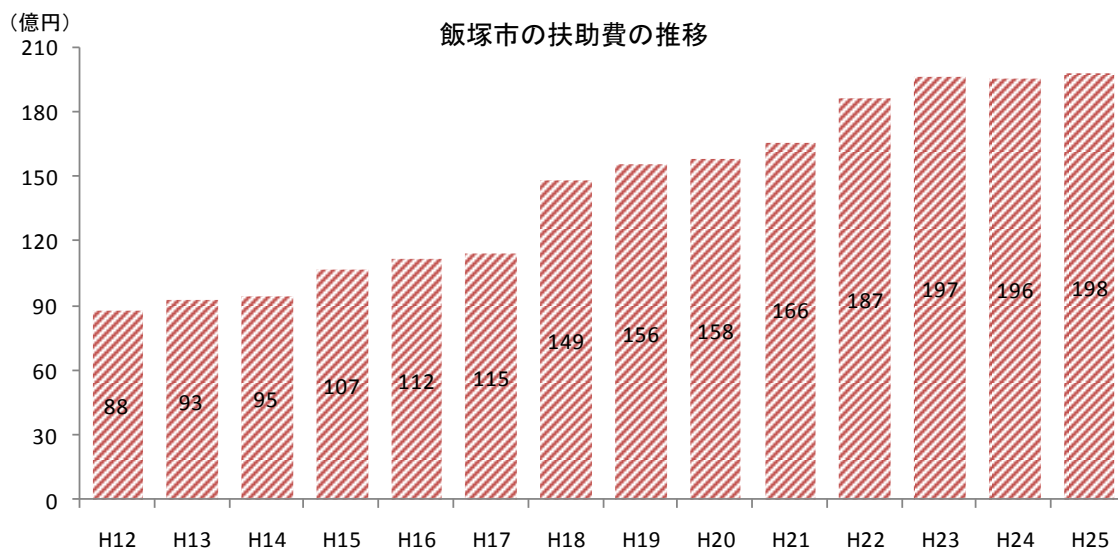
歳入の推移をみると、自主財源の根幹である市税の収入は、平成 19 年度に税源移譲により一時的に増加したものの、平成 20 年度からはほぼ横ばいで推移しています。今後、生産年齢人口の減少に伴い、市税収入の減少も予想されます。

一方、歳出の推移をみると、義務的経費が増加しており、平成 12 年度の 270 億円から平成 25 年度には 326 億円と 20%増加しています。



(3) 扶助費の推移

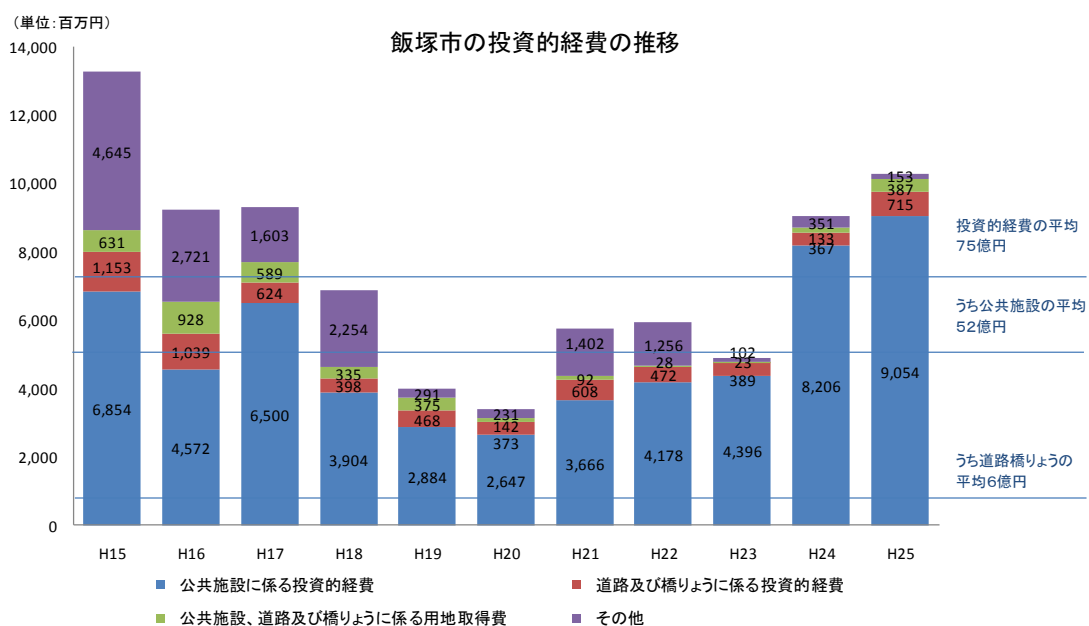
社会保障の費用である扶助費の推移をみると、平成12年度以降増加を続けており、平成25年度には平成12年度の2倍以上である198億円となっています。



(4) 投資的経費の推移及び内訳

インフラ等の維持改修・更新も含む投資的経費の推移をみると、投資的経費の内訳が把握できている平成15年度から平成25年度までの11年間で約821億円であり、年平均にすると約75億円となっています。そのうち、公共施設等に係る費用が52億円であり、全体の約7割を占めています。道路、橋りょうに係る費用は年平均6億円で、全体の0.8割程度となっています。

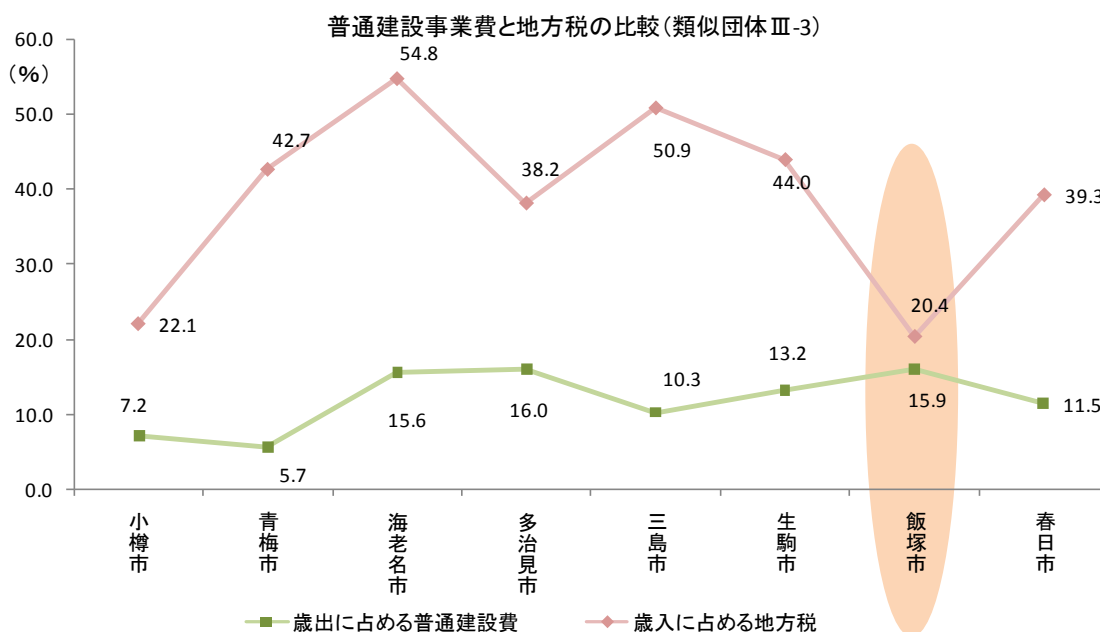
平成15年度から平成22年度にかけては、その他の事業（災害復旧、失業対策事業等）が行われていましたが、平成23年度以降はほとんどなく、公共施設等に係る費用が9割近くを占めるようになっていきます。



資料：飯塚市資料

(5) 類似団体との比較

平成 25 年度の総務省の資料から、歳入に占める地方税の割合を類似団体と比較すると、本市は 20%と類似団体の 36%を大きく下回っています。また、歳出に占める普通建設事業費の割合を比較すると 16%と類似団体の 12%を上回っています。他都市と比べて自主財源が乏しく、建設事業費の占める割合は高い構造となっています。また、実質公債費比率も他都市と比べて高い状況です。



資料: 総務省統計資料(2013年)

類似団体別歳入歳出比較 2013(H25)年度

都道府県	自治体	a.人口 (H26.3.31)	b.床面積 (㎡)	床面積/ 人口(b/a)	c.歳入合計 (千円)	d.地方税 (千円)	構成比 (d/e)	e.歳出合計 (千円)	f.義務的経費 (千円)	構成比 (f/e)	g.普通建設 事業費(千円)	構成比 (g/e)	実質公債 費比率
平均		123,091	415,138	3.35	44,185,293	16,098,514	36.4	42,718,426	21,672,390	50.7	5,007,800	11.7	4.6
北海道	小樽市	126,420	633,625	5.01	61,103,926	13,519,360	22.1	60,817,422	32,727,418	53.8	4,366,860	7.2	13.7
東京都	青梅市	137,608	348,652	2.53	47,518,683	20,276,032	42.7	46,341,425	24,809,838	53.5	2,623,977	5.7	2.2
神奈川県	海老名市	129,953	241,700	1.86	38,432,357	21,055,834	54.8	36,617,982	17,832,583	48.7	5,716,823	15.6	0.7
岐阜県	多治見市	114,457	402,487	3.52	37,281,239	14,235,208	38.2	35,161,284	15,520,155	44.1	5,638,082	16.0	△ 0.7
静岡県	三島市	112,395	329,160	2.93	33,864,167	17,237,559	50.9	33,067,404	17,356,084	52.5	3,389,732	10.3	7.2
奈良県	生駒市	121,185	320,875	2.65	37,881,032	16,673,005	44.0	35,542,667	18,208,401	51.2	4,690,727	13.2	2.1
福岡県	飯塚市	131,046	790,703	6.03	66,119,469	13,493,395	20.4	64,054,593	32,570,296	50.8	10,156,274	15.9	8.2
福岡県	春日市	111,663	253,899	2.27	31,281,468	12,297,717	39.3	30,144,631	14,354,343	47.6	3,479,927	11.5	3.2

資料: 公共施設状況調経年比較表市町村経年比較表(2013年) 総務省、平成26年住民基本台帳人口

類似団体: 市町村の「人口」と「産業構造(産業別就業人口の構成比)」から類似する市区町村をグループに分け(類型区分)を行ったもの。下記の表は一般市のグループ分けで、飯塚市はⅢ-3に該当。

産業構造		Ⅱ次, Ⅲ次 95%以上		Ⅱ次, Ⅲ次 95%未満	
		Ⅲ次 65%以上	Ⅲ次 65%未満	Ⅲ次 55%以上	Ⅲ次 55%未満
人口	0 以上～ 50,000 未満	I-3	I-2	I-1	I-0
	50,000 以上～ 100,000 未満	II-3	II-2	II-1	II-0
	100,000 以上～ 150,000 未満	III-3	III-2	III-1	III-0
	150,000 以上～	IV-3	IV-2	IV-1	IV-0

第2章 公共施設等の状況

1. 対象施設

本計画では、本市が保有する以下の施設を対象とします。なお、施設の分類は総務省の簡易推計モデルの区分を基にしています。

	用途分類	施設数等	延床面積(m ²)	今後30年間の維持更新費用(億円)	
公共建築物	市民施設(集会所等)	63	20,169	57.6	
	社会教育系施設	22	47,600	142.6	
	学校教育系施設	32	240,142	671.2	
	スポーツ・レクリエーション系施設	21	27,033	84.3	
	産業系施設(筑豊ハイツ、農産物加工所等)	27	84,734	296.0	
	子育て支援施設	29	14,816	37.8	
	保健・福祉施設	9	10,749	28.8	
	医療施設	2	19,544	76.5	
	行政系施設(市役所庁舎、消防施設等)	51	39,723	129.7	
	公営住宅	71	244,125	604.9	
	公園	2	523	1.2	
	供給処理施設(汚水処理施設、環境センター等)	10	28,789	60.6	
	その他(納骨堂等)	32	3,090	8.1	
	建築物合計	371	781,038	2,199.3	
インフラ資産	道路・橋梁	道路(m)	1,029,655m	6,279,311	597.9
		歩道(m)	228,405m	569,476	30.8
		橋梁	626 橋	42,647	142.6
	上水道施設	管路延長(m)	909,648m		593.0
		配水施設	36 箇所		
		導、送水施設	26 箇所		
	下水道施設	管路延長(m)	266,838m		188.6
		ポンプ場	9 箇所		
		下水処理センター	1 箇所		
	公園	都市公園	62 箇所	125.1ha	9.0
		児童遊園	57 箇所	5.9ha	
		開発遊園	115 箇所	5.5ha	
		その他の遊園	69 箇所	57.7ha	
	農業施設	農道(m)	31,780m		37.4
ため池		399 箇所			
インフラ合計				1599.3	
総合計				3798.6	

※延床面積 50 m²以下の施設は除く。合計は四捨五入のため、一致しない場合があります。

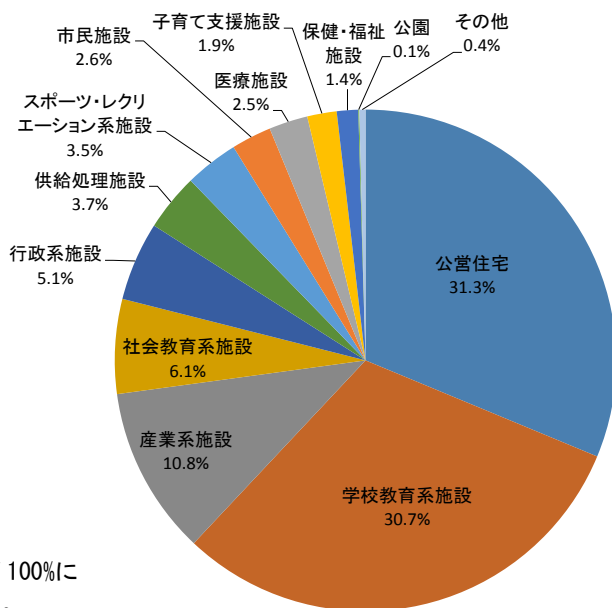
※平成 26 年度現在

2. 建築物

(1) 保有状況

本市が保有する建築物の総延床面積は平成26年3月末時点で781,038㎡となっています。その内訳をみると、公営住宅が31.3% (24.4万㎡)、学校教育系施設が30.7% (24.0万㎡) となっており、全体の6割を占めています。ついで産業系施設10.8% (8.5万㎡)、社会教育系施設6.1% (4.8万㎡) となっています。

建物の保有床面積の内訳

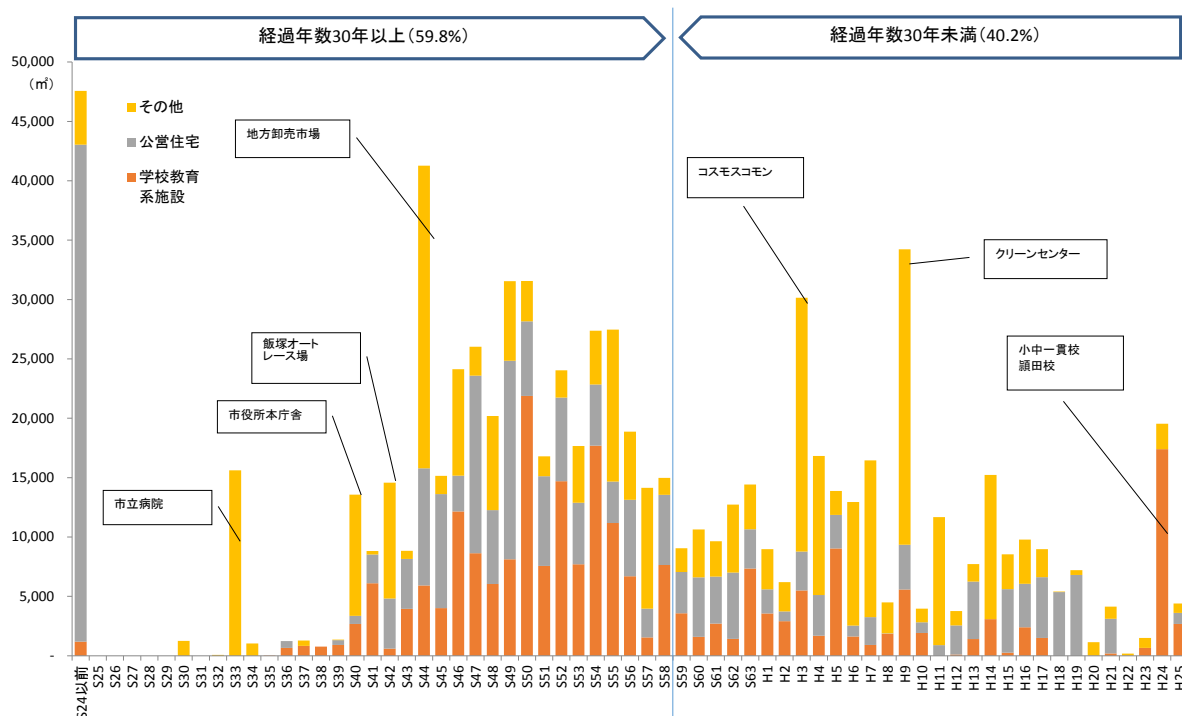


※四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

(2) 築年数

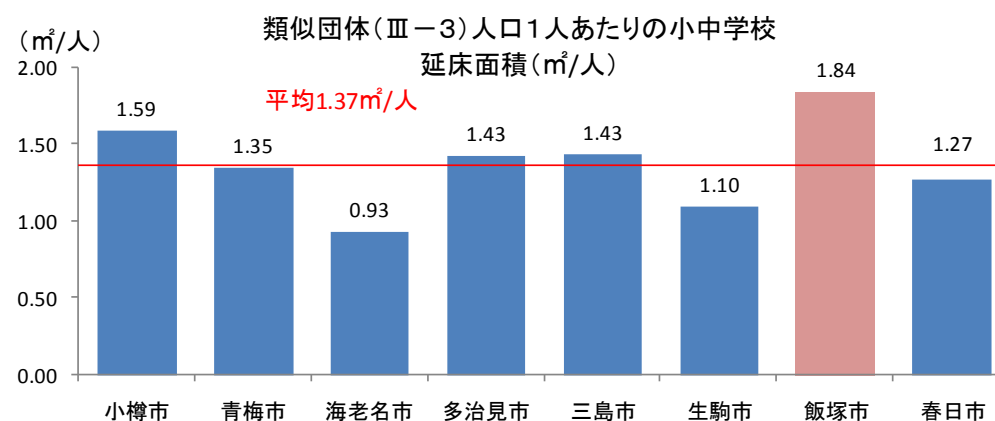
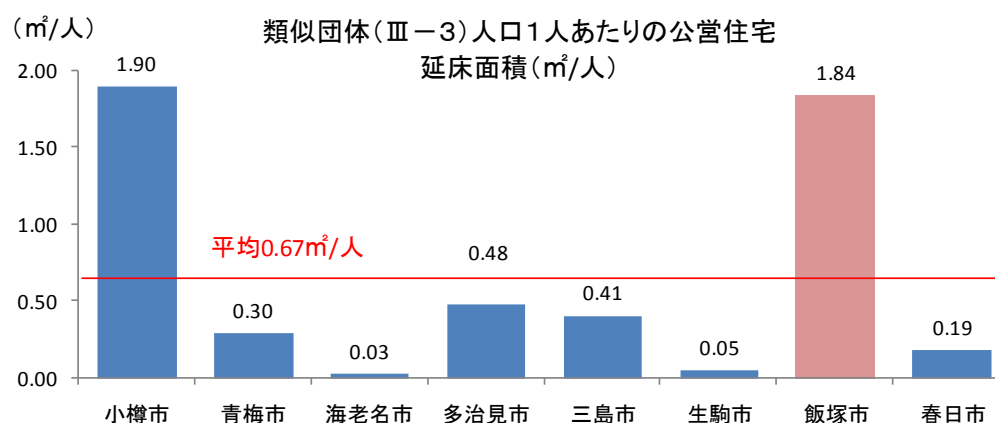
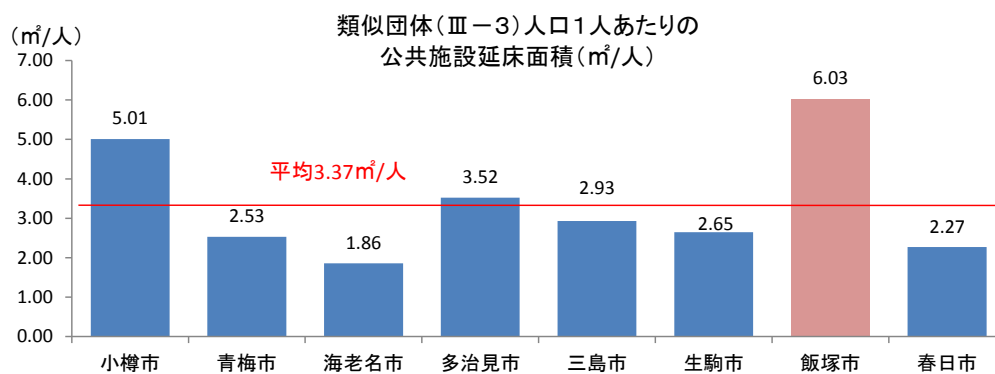
本市が保有する建築物の築年別の延床面積の状況を見ると、全体の59.8%が建築後30年以上経過しています。

建設年別の公共施設延床面積



(3) 類似団体との比較

本市が保有する建築物の人口1人あたりの公共施設等の延床面積をみると6.03 m²/人であり、類似団体(Ⅲ-3)と比較すると、平均値3.37 m²/人の約1.8倍となっています。特に公営住宅の延床面積が類似団体の平均値の約2.7倍になっています。小中学校の延床面積も他都市と比べて最も多い状況です。

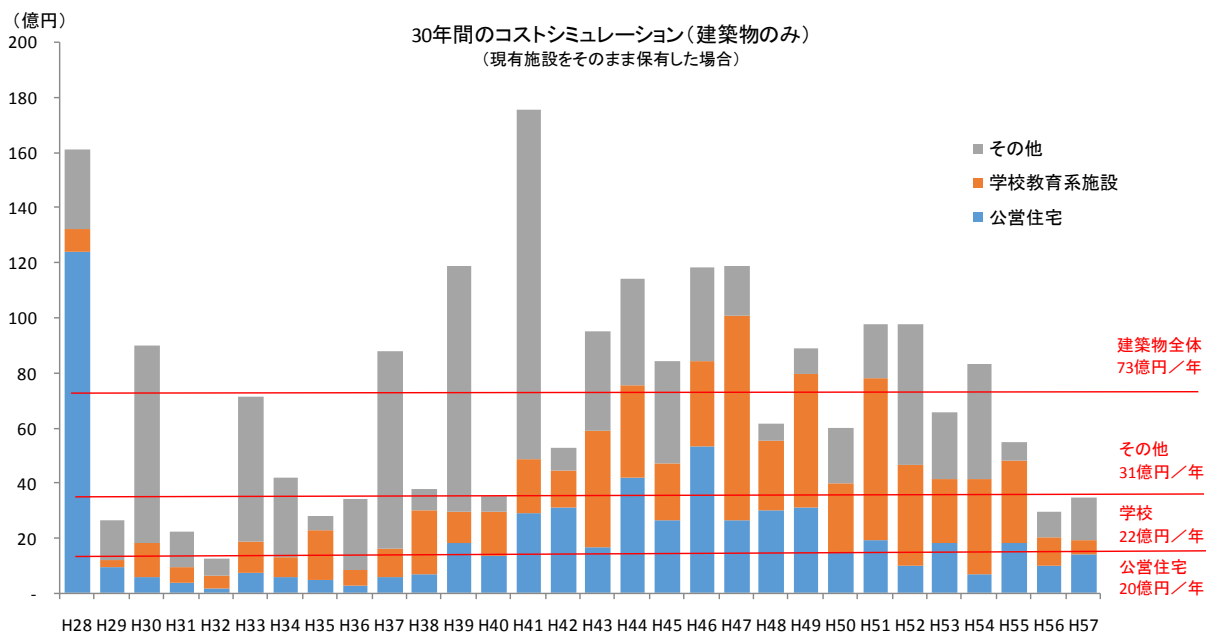


資料：公共施設状況調経年比較表市町村経年比較表(2013、2012年)総務省

(4) コストシミュレーション

総務省の簡易推計モデルで建築物の今後 30 年間の大規模改修・更新費用を算出すると、総額で 2,199 億円（市立病院、卸売市場、オートレース場含む）となっています。平均すると年間 73 億円が必要となります。

内訳としては、公営住宅で 20 億円、学校教育施設で 22 億円、その他で 31 億円となっています。現在の投資的経費の平均は年間 52 億円（建築物のみ）であり、年間 21 億円が不足することから、現有施設をそのまま維持更新することは困難な状況です。



【建築物の算出条件】

- ・公共施設等の種類ごとに、耐用年数経過後に現在と同じ延床面積等で更新すると仮定し、延床面積等の数量に更新単価を乗じることにより、試算の翌年度から30年度分の更新費用を試算する。
- ・公共施設等の建築物については、建替及び改修のシナリオとして標準的な耐用年数（日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」）とされる60年を採用することとする。
- ・建築物の耐用年数は60年と仮定するが、建物附属設備（電気設備、昇降機設備等）及び配管の耐用年数が概ね15年であることから2回目の改修である建設後30年で建築物の大規模改修を行い、その後30年で建替ると仮定する。
- ・公共施設等の建築物の種類ごとの更新（建替）と大規模改修の単価については、公共施設等の建築物の種類により建物構造等が異なることから、できる限り現実に即したものとするために、既に更新費用の試算に取り組んでいる地方公共団体の調査実績、設定単価等を基に用途別に4段階の単価を設定する。
- ・大規模改修の単価は、通常建替の5～6割であるが、本試算では6割と想定し、この想定単価を設定する。

（参考）更新（建替）及び大規模改修の単価

用途分類	主要施設名	建替え	大規模改修
市民文化系施設	市民会館、コミュニティーセンター、公民館	40万円/㎡	25万円/㎡
社会教育系施設	図書館、博物館、美術館	40万円/㎡	25万円/㎡
スポーツ・レクリエーション系施設	体育館、武道館、プール	36万円/㎡	20万円/㎡
産業系施設	労働会館、産業振興センター	40万円/㎡	25万円/㎡
学校教育系施設	小学校、中学校	33万円/㎡	17万円/㎡
子育て支援施設	幼稚園、保育所、児童館	33万円/㎡	17万円/㎡
保健・福祉施設	老人福祉センター、保健所	36万円/㎡	20万円/㎡
医療施設	市民病院	40万円/㎡	25万円/㎡
行政系施設	市庁舎、支所、消防署	40万円/㎡	25万円/㎡
公営住宅		28万円/㎡	17万円/㎡
公園	管理棟、便所	33万円/㎡	17万円/㎡
供給処理施設	ゴミ処理場、浄化センター	36万円/㎡	20万円/㎡
その他	駐車場、卸売市場	36万円/㎡	20万円/㎡

※調査実績値及び各自治体設定単価等による。

※大規模改修単価は建替え単価の60%相当。

※建替費用は解体費含む（社会教育系施設、学校教育系施設はグラウンド整備費含む）。

※学校教育系施設、医療施設はトイレ改修等社会的改修含む。それ以外の施設はバリアフリー対応等社会的改修含む。

出典：自治総合センター「地方公共団体の財政分析等に関する調査研究会報告書」

3. インフラ

(1) 道路

道路の総延長は平成 26 年度末時点で 6,279,311 m²です。総務省の簡易推計モデルの試算では、現在の道路の総面積を舗装の耐用年数 15 年で割ったものを 1 年間の舗装更新量と仮定し試算しています。この試算によると今後 30 年間で必要となる更新費用は 629 億円、年平均 21 億円となります。

【道路の算出条件】

- ・道路の更新単価については、「道路統計年報 2009」（全国道路利用者会議）で示されている平成 19 年度の舗装補修事業費（決算額）を舗装補修事業量で割って算定されたものから設定する。
- ・自転車歩行者道は、一般的に通常の車道の舗装版厚の半分程度であることを踏まえ、道路単価に道路打換え工の m²単価（土木工事費積算基準単価）の比率を乗じたものを単価として設定する。

(参考) 更新単価

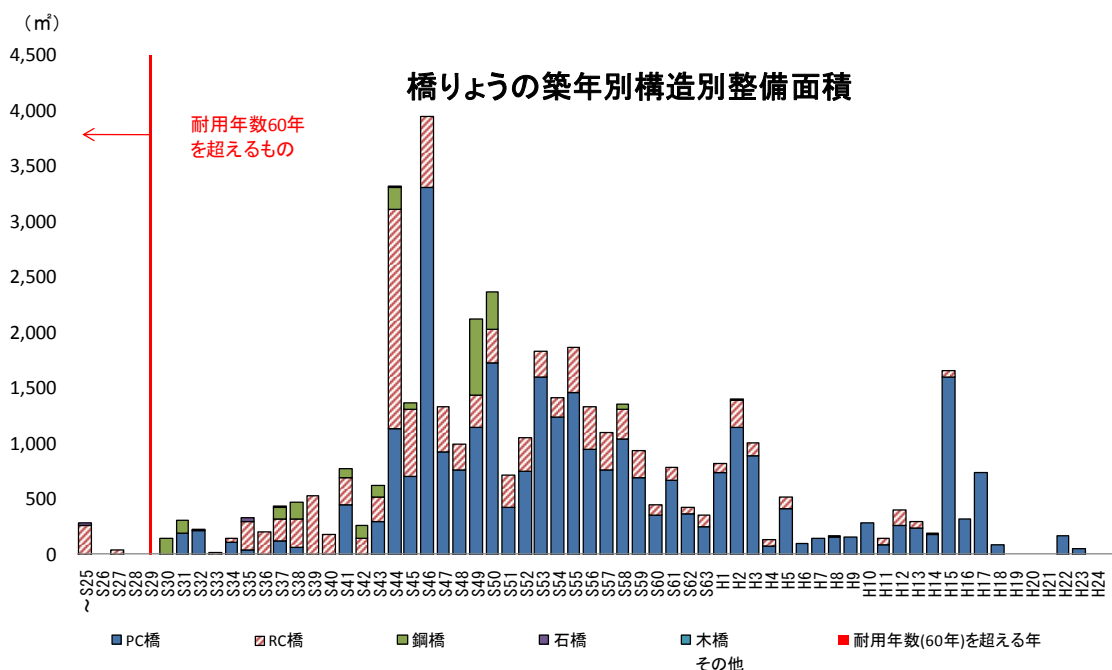
一般道路	4,700円/m ²
自転車歩行者道	2,700円/m ²

出典：自治総合センター「地方公共団体の財政分析等に関する調査研究会報告書」

(2) 橋りょう

橋りょう数は、平成 26 年度末時点で 626 橋、総面積は 42,647 m²です。構造別では、PC（プレストレス・コンクリート）橋と RC（鉄筋コンクリート）橋がほとんどを占めています。

耐用年数（60 年）を経過した橋りょうは 10 橋、314 m²ですが、今後 30 年間で 499 橋、31,623 m²が更新時期を迎えます。



総務省の簡易推計モデルの試算では、今後30年間で必要となる更新費用は143億円、年平均4.8億円となります。多くの橋りょうが更新時期を迎える平成40年度以降に、費用の増加が想定されます。

平成25年度に作成された「飯塚市橋りょう長寿命化実施計画」では、健全度が低く、社会的な影響の大きな18橋については、優先的な補修を行っていくこととしています。

【橋りょうの算出条件】

- ・橋りょうの更新単価については、橋長が15m未満のものと15m以上のものに分けて、道路橋の工事実績（道路橋年報）より、総量のみ把握の場合はすべて448千円/㎡とし、年度別・構造別で把握ができる場合はPC（プレストレスト・コンクリート）橋、RC（鉄筋コンクリート）橋は425千円/㎡、鋼橋は500千円/㎡とする。

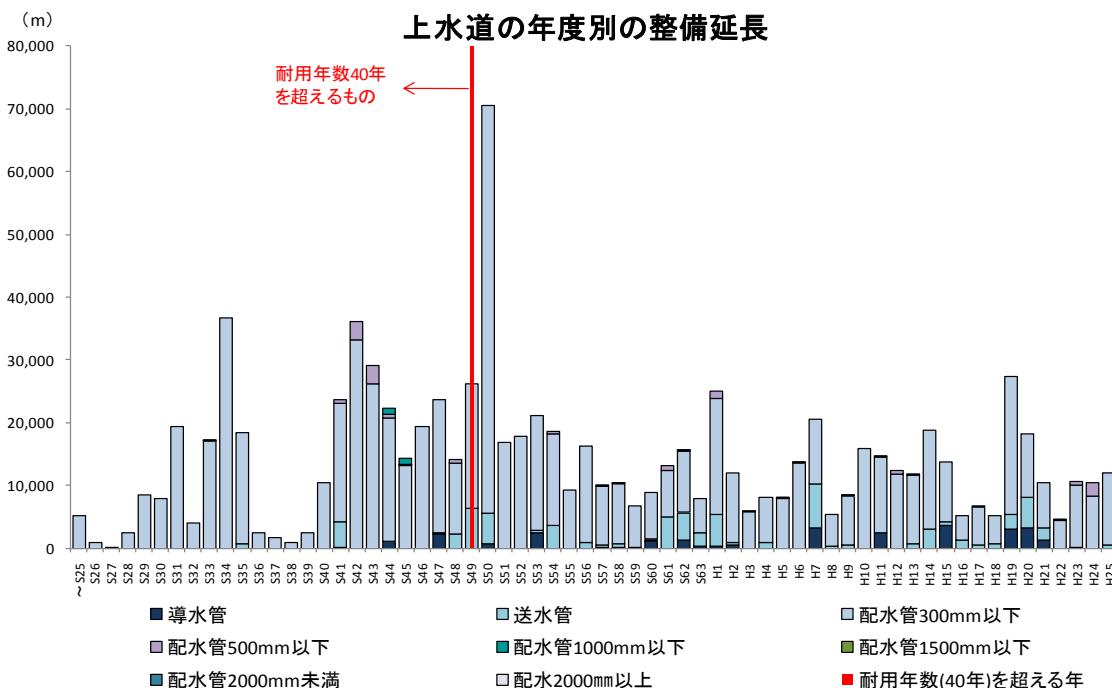
出典：自治総合センター「地方公共団体の財政分析等に関する調査研究会報告書」

（3）上水道

上水道管は、昭和50年度に突出して整備が行われていますが、年平均14,000mの整備が行われています。平成24年度末時点で総延長909,648mとなっています。平成27年度時点では、耐用年数（40年）を経過した管は418,951m（46.1%）となっています。

固定資産台帳の取得価格から物価変動を考慮した再調達価格を算出すると、今後30年間で必要となる管路の更新費用は370億円、年平均12.3億円となります。

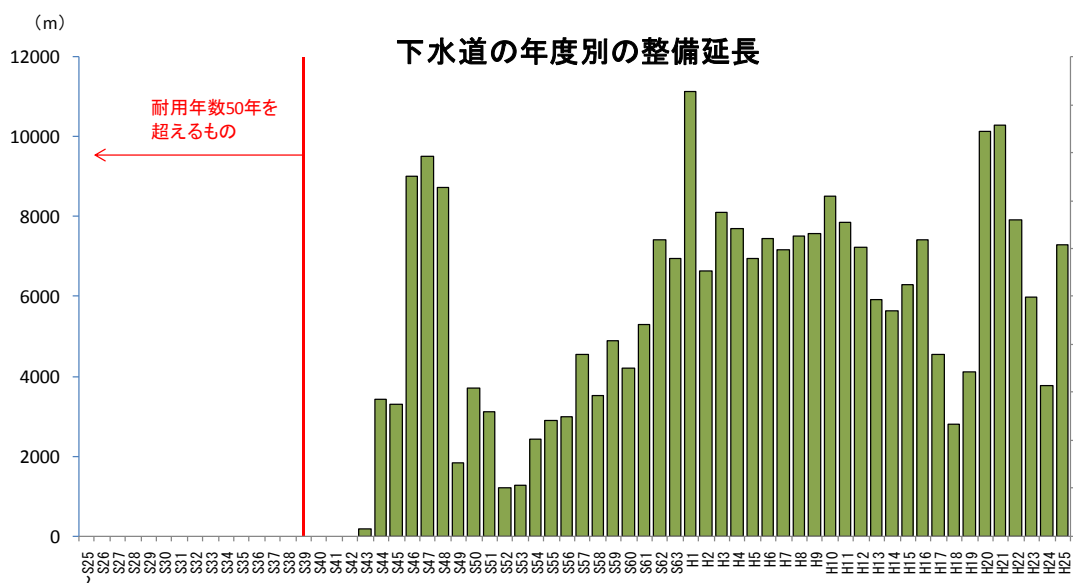
また、上水道管以外の上水道施設は、30年間で223億円、年平均7.4億円となります。



(4) 下水道

下水道管は、昭和 43 年度から整備が行われており、平成 25 年度末時点で総延長 266,838m となっています。平成 27 年時点では、耐用年数（50 年）を経過した管はない状況ですが、今後 30 年間で 138,672m ほどが更新時期を迎えます。今後 30 年間で必要となる更新費用は 189 億円、年平均 6.3 億円となります。

飯塚市汚水処理構想によると、処理場、ポンプ場、管渠の建設費として今後 20 年間で 192 億円、年間あたり 9.6 億円の費用を見込んでいます。



【下水道の算出条件】

- ・コンクリート管、陶管、塩ビ管については「更生工法」を前提とする。
- ・総量把握による単価設定は、更生管比率が低いため、更生工法による単価をそのまま使用する。
- ・更生工法のm当たり単価は、14種類の施工方法を対象にメーカーに問い合わせた直接工事費の中間値を採用し、諸経費率を80%として設定する。

参考（更新単価）

管種	耐用年数	総量把握 更新単価	更新単価	備考
コンクリート管	50年	124千円/m	124千円/m	更生工法を前提
陶管				
塩ビ管			134千円/m	布設替えを前提
更生管				

出典：自治総合センター「地方公共団体の財政分析等に関する調査研究会報告書」

(5) 公園

公園面積は、平成 26 年度末時点で 194.2ha です。公園長寿命化計画によると、遊具等の長寿命化で必要となる費用は 30 年間で 9 億円であり、年平均 0.3 億円となっています。

(6) 農業施設

農業施設は、農道延長が 31,780m、ため池数が 399 箇所となっています。平成 22 年度～平成 26 年度の農業施設の維持費用は年平均約 1.2 億円であり、30 年間で約 37 億円となっています。

第3章 公共施設等利用状況

1.調査概要

飯塚市内にある公民館やスポーツ・レクリレーション施設などの市民の利用状況を把握するためにアンケート調査を実施しました。

本調査は、飯塚市内在住の 6,000 人（無作為抽出）を対象にアンケートを送付し、1,916 票（31.9%）の回答を得ました。地区別の回収率もほぼ3割となっています。

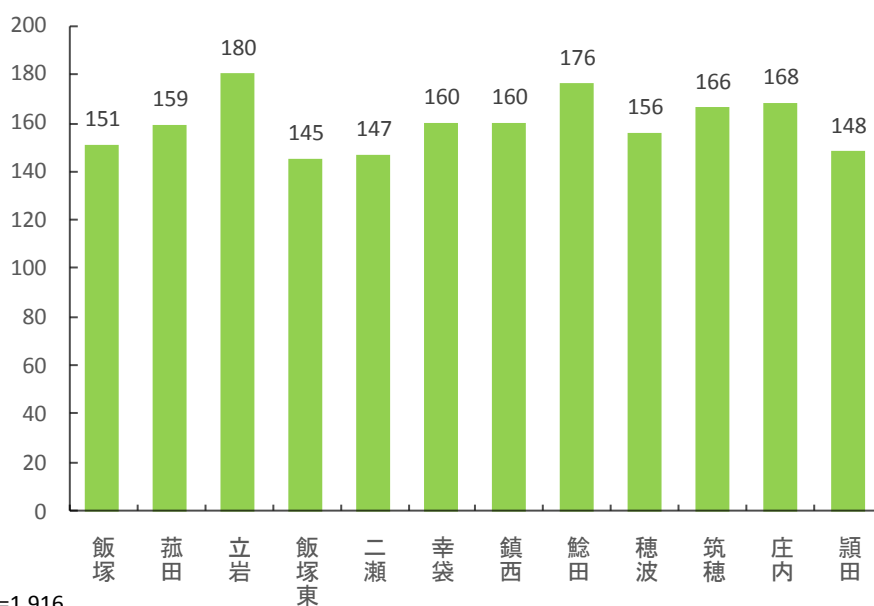
【調査対象】 飯塚市に居住する住民

【調査期間】 平成 27 年 6 月 1 日（月）～平成 27 年 6 月 30 日（火）

【調査方法】 飯塚市に居住する住民に対し、まちづくり協議会が設置された 12 地区ごとにそれぞれ 500 票ずつ（合計 6,000 票）を配布した。配布先の抽出は地区別年齢別に無作為抽出によって選定し、郵送によるアンケートの配布、回収を行った。

【回収状況】 1,916 票／6,000 票（回収率 31.9%）。地区別の回収状況は以下の通り。

(人)



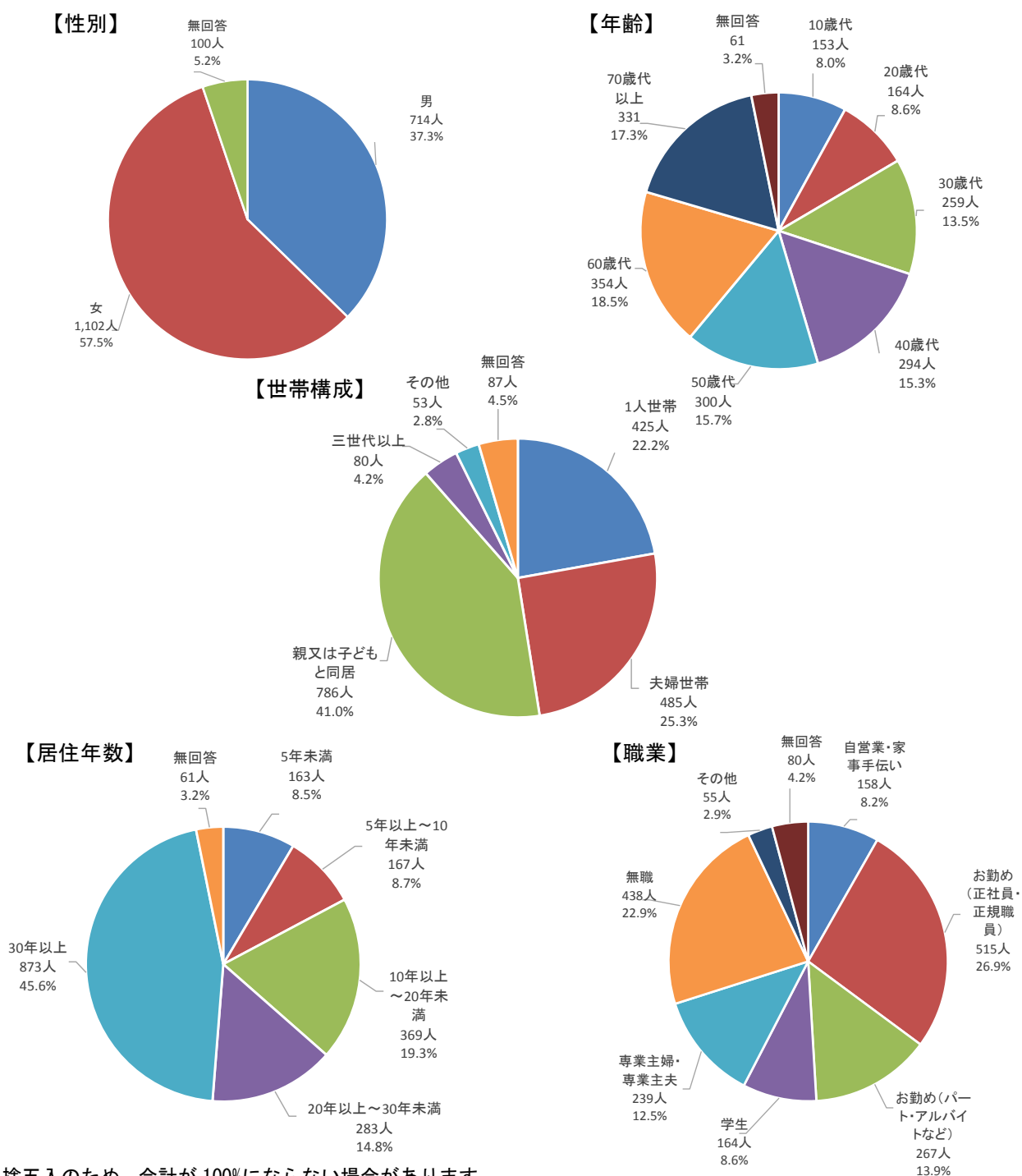
n=1,916

地区	配布数	回答数	割合
飯塚	500	151	30.2%
菰田	500	159	31.8%
立岩	500	180	36.0%
飯塚東	500	145	29.0%
二瀬	500	147	29.4%
幸袋	500	160	32.0%
鎮西	500	160	32.0%
鯉田	500	176	35.2%
穂波	500	156	31.2%
筑穂	500	166	33.2%
庄内	500	168	33.6%
穎田	500	148	29.6%
総計	6,000	1,916	平均 31.9%

2.飯塚市全域の利用状況

(1) 回答者の属性

回答者の性別をみると、女性が1,102人(57.5%)と多くなっています。年齢別では、各年代がまんべんなく回答していますが、60歳代が354人(18.5%)、70歳代331人(17.3%)と多く、10歳代153人(8.0%)、20歳代164人(8.6%)と少なくなっています。世帯構成をみると、「親又は子どもと同居」が786人(41.0%)と最も多く、居住年数は「30年以上」が873人(45.6%)と多くなっています。職業は、「お勤め(正社員)」が515人(26.9%)と多く、ついで「無職」が438人(22.9%)となっています。



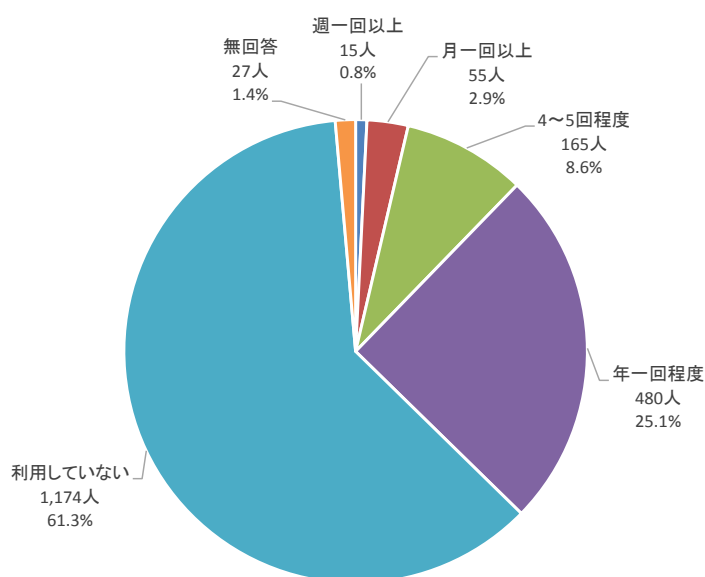
※四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

(2) 施設の利用状況

■文化会館（コスモスコモン）の利用状況（単数回答）

利用状況の回答では、「利用していない」が1,174人（61.3%）と最も多く、次いで「年一回程度」が480人（25.1%）、「4～5回程度」が165人（8.6%）、「月一回以上」が55人（2.9%）、「週一回以上」が15人（0.8%）となっています。「年一回程度」までの利用率は4割程度です。

地区別の利用状況を見ると、颯田地区で「利用していない」の回答が72.3%と高くなっており、筑穂地区も68.1%となっています。文化会館（コスモスコモン）から離れた地区での利用率が低い傾向が見られました。



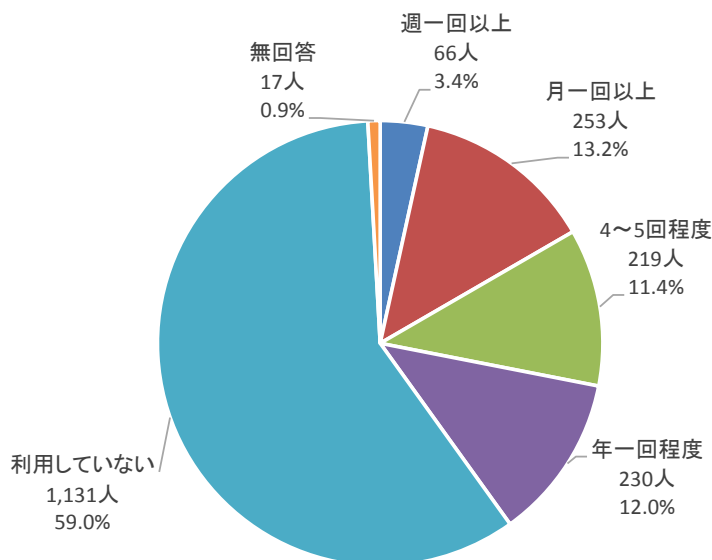
※四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

コスモスコモン	飯塚	菰田	立岩	飯塚東	二瀬	幸袋	鎮西	鯉田	穂波	筑穂	庄内	颯田	総計
週一回以上	3	2	1	4	3	1	0	1	0	0	0	0	15
割合	2.0%	1.3%	0.6%	2.8%	2.0%	0.6%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%
月一回以上	9	7	6	5	3	4	6	3	4	1	4	3	55
割合	6.0%	4.4%	3.3%	3.4%	2.0%	2.5%	3.8%	1.7%	2.6%	0.6%	2.4%	2.0%	2.9%
4～5回程度	11	12	19	15	15	9	14	18	11	12	20	9	165
割合	7.3%	7.5%	10.6%	10.3%	10.2%	5.6%	8.8%	10.2%	7.1%	7.2%	11.9%	6.1%	8.6%
年一回程度	41	39	52	24	36	40	38	50	46	37	51	26	480
割合	27.2%	24.5%	28.9%	16.6%	24.5%	25.0%	23.8%	28.4%	29.5%	22.3%	30.4%	17.6%	25.1%
利用していない	84	97	102	96	90	102	101	99	92	113	91	107	1,174
割合	55.6%	61.0%	56.7%	66.2%	61.2%	63.8%	63.1%	56.3%	59.0%	68.1%	54.2%	72.3%	61.3%
無回答	3	2	0	1	0	4	1	5	3	3	2	3	27
割合	2.0%	1.3%	0.0%	0.7%	0.0%	2.5%	0.6%	2.8%	1.9%	1.8%	1.2%	2.0%	1.4%
総計	151	159	180	145	147	160	160	176	156	166	168	148	1,916
割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。。

■図書館の利用状況（単数回答）

利用状況の回答では、「利用していない」が 1,131 人（59.0%）と最も多く、次いで、「月一回以上」が 253 人（13.2%）、「年一回程度」が 230 人（12.0%）、「4～5 回程度」が 219 人（11.4%）、「週一回以上」が 66 人（3.4%）となっています。「年一回程度」までの利用率は 4 割程度です。



※四捨五入のため、合計が 100%にならない場合があります。

■主に利用する図書館（複数回答）

図書館の利用者に対し、主に利用している図書館を聞いたところ、「飯塚市立図書館」の利用が全体では 7 割以上の利用があります。

地区別にみると庄内地区、筑穂地区でそれぞれ「庄内館」、「筑穂館」の利用が 9 割近くになっています。一方、穎田地区では「飯塚市立図書館」6 割、「穎田館」5 割、「庄内館」3 割と利用が分散しています。

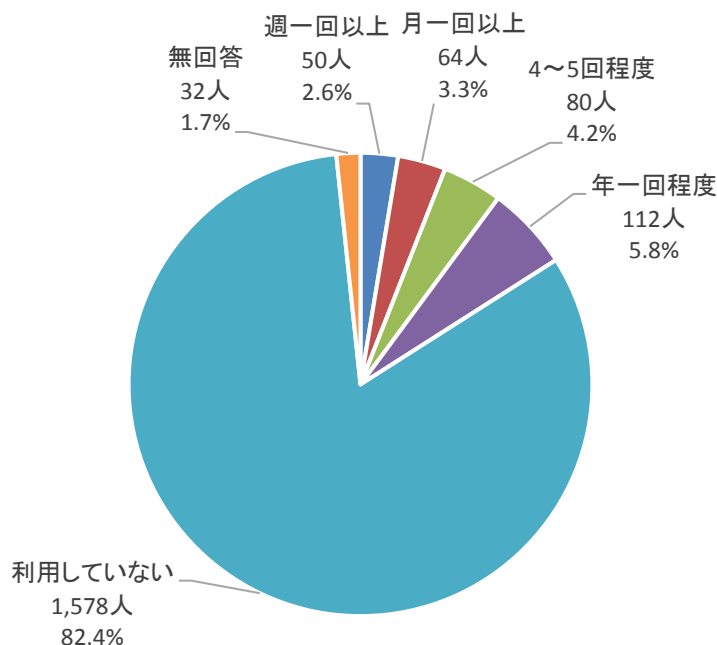
また、飯塚東地区や鯉田地区など庄内地区の隣接地区では、「庄内館」の利用が多くなっています。

図書館	飯塚	菰田	立岩	飯塚東	二瀬	幸袋	鎮西	鯉田	穂波	筑穂	庄内	穎田	総計
飯塚市図書館	73	59	75	42	53	41	53	60	52	25	25	25	583
割合	97.3%	90.8%	92.6%	80.8%	96.4%	80.4%	96.4%	82.2%	78.8%	33.3%	31.6%	61.0%	75.9%
穂波館	1	5	1	1	3	1	1	2	20	1	1	0	37
割合	1.3%	7.7%	1.2%	1.9%	5.5%	2.0%	1.8%	2.7%	30.3%	1.3%	1.3%	0.0%	4.8%
筑穂館	3	4	3	0	3	0	4	1	7	67	0	0	92
割合	4.0%	6.2%	3.7%	0.0%	5.5%	0.0%	7.3%	1.4%	10.6%	89.3%	0.0%	0.0%	12.0%
庄内館	3	2	8	25	0	1	1	23	2	0	69	14	148
割合	4.0%	3.1%	9.9%	48.1%	0.0%	2.0%	1.8%	31.5%	3.0%	0.0%	87.3%	34.1%	19.3%
穎田館	0	0	1	0	0	1	0	4	0	0	0	20	26
割合	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	5.5%	0.0%	0.0%	0.0%	48.8%	3.4%
その他	1	2	0	0	0	4	0	3	2	2	0	0	14
割合	1.3%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	7.8%	0.0%	4.1%	3.0%	2.7%	0.0%	0.0%	1.8%
回答者数	75	65	81	52	55	51	55	73	66	75	79	41	768

※複数回答のため、合計が 100%になりません。

■屋外運動施設の利用状況（単数回答）

利用状況の回答では、「利用していない」が 1,578 人（82.4%）と最も多く、次いで、「年一回程度」が 112 人（5.8%）、「4～5 回程度」が 80 人（4.2%）、「月一回以上」が 64 人（3.3%）、「週一回以上」が 50 人（2.6%）となっています。「利用していない」人の割合が 8 割を超えています。



※四捨五入のため、合計が 100%にならない場合があります。

■主に利用する屋外運動施設（複数回答）

屋外運動施設の利用者に対し、主に利用している施設を聞いたところ、全体では「県営筑豊緑地運動公園」の利用が 4 割を超えています。

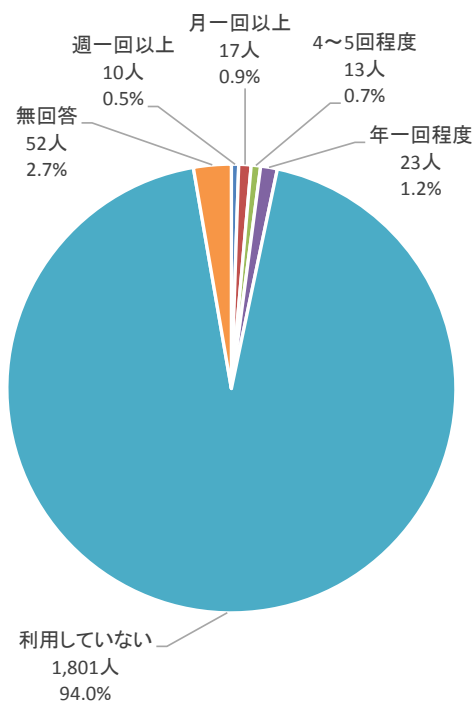
地区別にみると、同地区内に存在するグラウンドの利用や小中学校の運動場の利用が多くなっています。庄内地区では、「県営筑豊緑地運動公園」の利用が 7 割を超えるなど、利用が集中しています。

屋外運動施設	飯塚	菰田	立岩	飯塚東	二瀬	幸袋	鎮西	鯉田	穂波	筑穂	庄内	颯田	総計
市民公園運動広場	0	3	8	4	2	5	3	11	1	2	1	0	40
割合	0.0%	12.5%	21.6%	15.4%	11.1%	20.8%	13.0%	39.3%	4.2%	8.0%	2.8%	0.0%	13.1%
市民公園健幸広場	4	2	2	2	1	6	2	9	2	3	2	2	37
割合	20.0%	8.3%	5.4%	7.7%	5.6%	25.0%	8.7%	32.1%	8.3%	12.0%	5.6%	9.5%	12.1%
健康の森多目的広場	5	5	5	4	8	14	5	3	4	3	5	2	63
割合	25.0%	20.8%	13.5%	15.4%	44.4%	58.3%	21.7%	10.7%	16.7%	12.0%	13.9%	9.5%	20.6%
穂波グラウンド	3	9	4	4	1	2	2	1	14	2	1	0	43
割合	15.0%	37.5%	10.8%	15.4%	5.6%	8.3%	8.7%	3.6%	58.3%	8.0%	2.8%	0.0%	14.1%
筑穂グラウンド	0	2	2	0	0	0	2	0	3	11	4	0	24
割合	0.0%	8.3%	5.4%	0.0%	0.0%	0.0%	8.7%	0.0%	12.5%	44.0%	11.1%	0.0%	7.8%
筑穂多目的グラウンド	0	1	1	0	0	0	1	0	3	6	1	0	13
割合	0.0%	4.2%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%	12.5%	24.0%	2.8%	0.0%	4.2%
庄内グラウンド	1	2	2	1	0	1	1	0	1	0	9	1	19
割合	5.0%	8.3%	5.4%	3.8%	0.0%	4.2%	4.3%	0.0%	4.2%	0.0%	25.0%	4.8%	6.2%
庄内工場団地グラウンド	0	2	2	6	0	0	0	1	0	2	7	1	21
割合	0.0%	8.3%	5.4%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	8.0%	19.4%	4.8%	6.9%
颯田グラウンド	1	1	3	2	1	1	1	0	1	0	1	11	23
割合	5.0%	4.2%	8.1%	7.7%	5.6%	4.2%	4.3%	0.0%	4.2%	0.0%	2.8%	52.4%	7.5%
椿運動広場	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
県営筑豊緑地運動広場	9	9	18	13	8	7	9	11	8	9	27	7	135
割合	45.0%	37.5%	48.6%	50.0%	44.4%	29.2%	39.1%	39.3%	33.3%	36.0%	75.0%	33.3%	44.1%
小中学校の運動場	3	10	13	7	5	4	7	1	3	9	4	3	69
割合	15.0%	41.7%	35.1%	26.9%	27.8%	16.7%	30.4%	3.6%	12.5%	36.0%	11.1%	14.3%	22.5%
その他	0	1	0	1	1	0	0	0	2	0	1	2	8
割合	0.0%	4.2%	0.0%	3.8%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	2.8%	9.5%	2.6%
回答者数	20	24	37	26	18	24	23	28	24	25	36	21	306

※複数回答のため、合計が 100%になりません。

■野球場の利用状況（単数回答）

利用状況の回答は、「利用していない」が1,801人（94.0%）と最も多く、次いで、「年一回程度」が23人（1.2%）、「4～5回程度」が13人（0.7%）、「月一回以上」が17人（0.9%）、「4～5回程度」が13人（0.7%）、「週一回以上」が10人（0.5%）となっています。「利用していない」人の割合が9割を超えています。利用する対象者や年齢が限られているためと思われます。



※四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

■主に利用する野球場（複数回答）

野球場の利用者に主に利用している施設を聞いたところ、全体では「颯田野球場」が多く、次いで「飯塚野球場」が多くなっています。

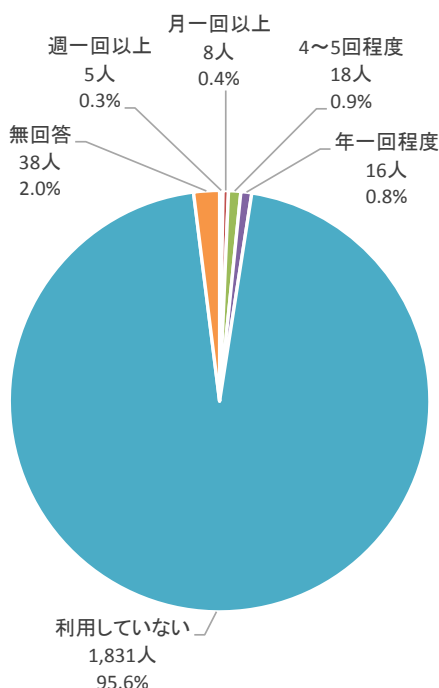
地区別にみると、回答数が少ないものの、颯田、庄内、筑穂地区でそれぞれの地区内にある野球場の利用が多くなっています。また幸袋、飯塚東地区で「飯塚野球場」が利用されています。

野球場	飯塚	菰田	立岩	飯塚東	二瀬	幸袋	鎮西	鯉田	穂波	筑穂	庄内	颯田	総計
飯塚野球場	2	3	3	3	1	7	0	1	0	0	1	1	22
割合	66.7%	42.9%	37.5%	42.9%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	25.0%	9.1%	34.9%
穂波野球場	0	1	2	1	0	1	1	0	4	1	2	0	13
割合	0.0%	14.3%	25.0%	14.3%	0.0%	14.3%	25.0%	0.0%	100.0%	16.7%	50.0%	0.0%	20.6%
筑穂野球場	0	2	1	0	0	1	1	0	1	5	2	0	13
割合	0.0%	28.6%	12.5%	0.0%	0.0%	14.3%	25.0%	0.0%	25.0%	83.3%	50.0%	0.0%	20.6%
庄内野球場	1	2	1	1	0	1	0	0	2	0	4	0	12
割合	33.3%	28.6%	12.5%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%	0.0%	19.0%
颯田野球場	1	4	3	2	0	1	0	0	1	1	2	10	25
割合	33.3%	57.1%	37.5%	28.6%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	25.0%	16.7%	50.0%	90.9%	39.7%
県営筑豊緑地野球場	2	2	2	0	1	0	2	0	2	0	2	0	13
割合	66.7%	28.6%	25.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	20.6%
その他	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
割合	33.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	4.8%
回答者数	3	7	8	7	1	7	4	1	4	6	4	11	63

※複数回答のため、合計が100%になりません。

■テニスコートの利用状況（単数回答）

利用状況の回答では、「利用していない」が1,831人（95.6%）と最も多く、次いで、「4～5回程度」が18人（0.9%）、「年一回程度」が16人（0.8%）、「月一回以上」が8人（0.4%）、「週一回以上」が5人（0.3%）、「無回答」が38人（2.0%）となっています。「利用していない」人の割合が9割を超えていますが、利用する対象者や年齢が限られているためと思われます。



※四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

■主に利用するテニスコート（複数回答）

テニスコートの利用者に主に利用している施設を聞いたところ、全体では「筑豊ハイッツテニスコート」が最も多く、次いで「県営筑豊緑地テニスコート」となっています。

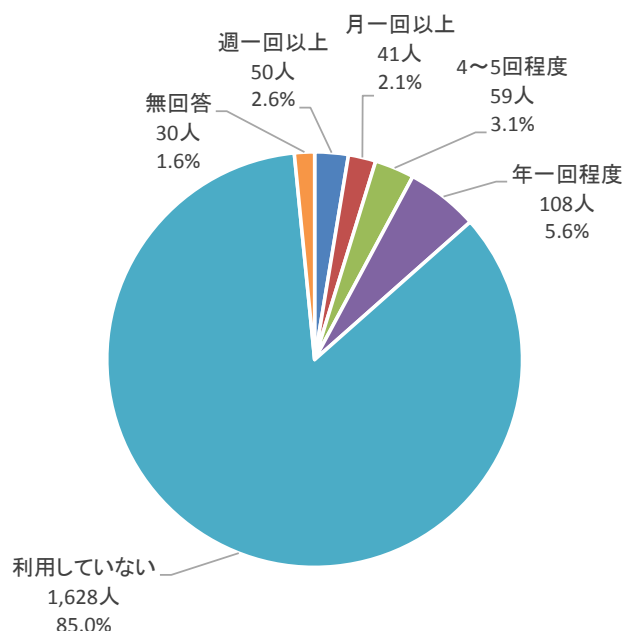
地区別にみると、回答数が少ないため、傾向が読み取れませんが、幸袋地区で「市民公園テニスコート」、鎮西地区で「筑豊ハイッツテニスコート」の利用が多くみられます。

テニスコート	飯塚	菰田	立岩	飯塚東	二瀬	幸袋	鎮西	鯉田	穂波	筑穂	庄内	顛田	総計
市民公園テニスコート	1	0	0	1	0	5	2	0	0	0	1	0	10
割合	20.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	71.4%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	21.3%
穂波テニスコート	0	0	0	0	0	1	2	0	1	3	0	0	7
割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	33.3%	0.0%	50.0%	75.0%	0.0%	0.0%	14.9%
顛田テニスコート	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
割合	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	4.3%
筑豊ハイッツテニスコート	3	2	1	2	1	0	5	3	1	1	2	1	22
割合	60.0%	66.7%	33.3%	50.0%	50.0%	0.0%	83.3%	100.0%	50.0%	25.0%	50.0%	25.0%	46.8%
県営筑豊緑地テニスコート	1	1	2	1	1	3	4	2	0	0	3	1	19
割合	20.0%	33.3%	66.7%	25.0%	50.0%	42.9%	66.7%	66.7%	0.0%	0.0%	75.0%	25.0%	40.4%
その他	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
割合	20.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.5%
回答者数	5	3	3	4	2	7	6	3	2	4	4	4	47

※複数回答のため、合計が100%になりません。

■ 体育館・武道場の利用状況（単数回答）

利用状況の回答では、「利用していない」が1,628人（85.0%）と最も多く、次いで、「年一回程度」が108人（5.6%）、「4～5回程度」が59人（3.1%）、「週一回以上」が50人（2.6%）、「月一回以上」が41人（2.1%）、「週一回以上」が50人（2.6%）、「月一回以上」が41人（2.1%）となっています。「利用していない」人の割合が8割を超えています。



※四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

■ 主に利用する体育館・武道場（複数回答）

体育館・武道館の利用者に主に利用している施設を聞いたところ、全体では「飯塚第1体育館」が最も多く、次いで「穂波体育館」が多くなっています。

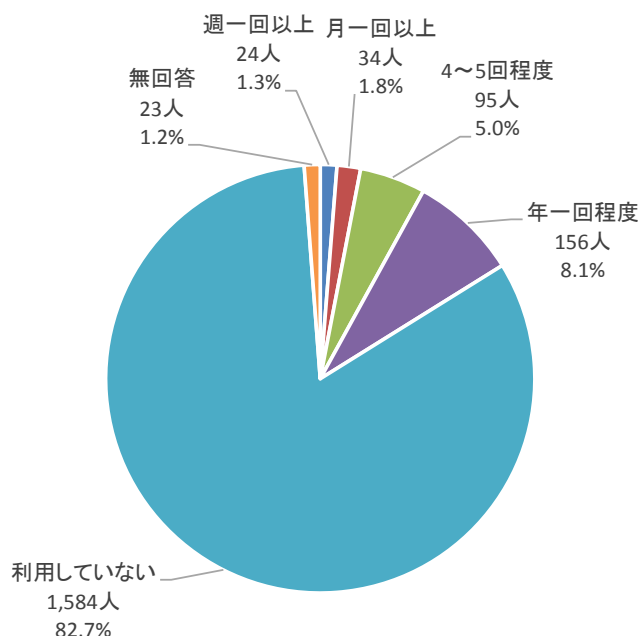
地区別にみると、颯田、庄内、筑穂、穂波地区でそれぞれの地区の体育館の利用が最も多くなっています。菰田地区では「穂波体育館」と「小中学校の体育館」の利用が多くなっています。

体育館・武道場	飯塚	菰田	立岩	飯塚東	二瀬	幸袋	鎮西	鯉田	穂波	筑穂	庄内	颯田	総計
飯塚第1体育館	16	2	12	9	14	13	15	8	5	3	2	1	100
割合	57.1%	15.4%	52.2%	47.4%	58.3%	72.2%	57.7%	57.1%	20.8%	13.0%	7.7%	5.0%	38.8%
飯塚第2体育館	7	1	6	2	9	5	4	5	2	1	1	1	44
割合	25.0%	7.7%	26.1%	10.5%	37.5%	27.8%	15.4%	35.7%	8.3%	4.3%	3.8%	5.0%	17.1%
穂波体育館	6	6	4	1	4	2	10	3	12	1	2	2	53
割合	21.4%	46.2%	17.4%	5.3%	16.7%	11.1%	38.5%	21.4%	50.0%	4.3%	7.7%	10.0%	20.5%
穂波B&G体育館	4	1	2	1	2	2	2	1	6	0	1	1	23
割合	14.3%	7.7%	8.7%	5.3%	8.3%	11.1%	7.7%	7.1%	25.0%	0.0%	3.8%	5.0%	8.9%
筑穂体育館	0	0	0	0	1	1	1	0	2	15	0	0	20
割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	5.6%	3.8%	0.0%	8.3%	65.2%	0.0%	0.0%	7.8%
庄内体育館	1	0	1	2	0	1	0	3	1	0	21	2	32
割合	3.6%	0.0%	4.3%	10.5%	0.0%	5.6%	0.0%	21.4%	4.2%	0.0%	80.8%	10.0%	12.4%
颯田体育館	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	11	15
割合	3.6%	0.0%	4.3%	5.3%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	55.0%	5.8%
穂波武道館	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	6
割合	3.6%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	4.3%	0.0%	5.0%	2.3%
颯田武道館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	1.9%
市民公園弓道場	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
割合	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
小中学校の体育館	2	6	7	6	3	3	4	5	3	5	1	1	46
割合	7.1%	46.2%	30.4%	31.6%	12.5%	16.7%	15.4%	35.7%	12.5%	21.7%	3.8%	5.0%	17.8%
その他	2	1	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	7
割合	7.1%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	8.3%	4.3%	0.0%	0.0%	2.7%
回答者数	28	13	23	19	24	18	26	14	24	23	26	20	258

※複数回答のため、合計が100%になりません。

■プールの利用状況（単数回答）

利用状況の回答では、「利用していない」が1,584人（82.7%）と最も多く、次いで、「年一回程度」が156人（8.1%）、「4～5回程度」が95人（5.0%）、「月一回以上」が34人（1.8%）、「週一回以上」が24人（1.3%）、「無回答」が23人（1.2%）となっています。「利用していない」人の割合が8割を超えています。



※四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

■主に利用するプール（複数回答）

プールの利用者に主に利用している施設を聞いたところ、「健康の森公園市民プール」が最も多く、次いで「県営筑豊緑地プール」が多くなっています。

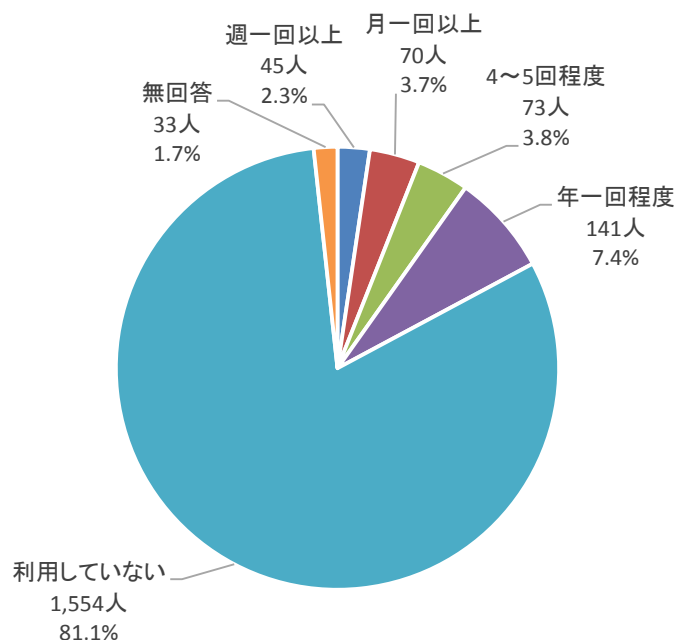
地域差はほとんど見られないものの、庄内地区では「健康の森公園市民プール」の利用が少なくなっています。

プール	飯塚	菰田	立岩	飯塚東	二瀬	幸袋	鎮西	鯉田	穂波	筑穂	庄内	顕田	総計
健康の森公園市民プール	18	18	25	13	25	42	25	18	14	15	5	12	230
割合	94.7%	78.3%	73.5%	68.4%	86.2%	97.7%	96.2%	60.0%	70.0%	75.0%	19.2%	60.0%	74.4%
穂波B&Gプール	4	4	0	0	1	0	1	1	6	2	2	0	21
割合	21.1%	17.4%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	3.8%	3.3%	30.0%	10.0%	7.7%	0.0%	6.8%
県営筑豊緑地プール	3	5	13	10	2	2	2	16	5	5	22	13	98
割合	15.8%	21.7%	38.2%	52.6%	6.9%	4.7%	7.7%	53.3%	25.0%	25.0%	84.6%	65.0%	31.7%
その他	0	3	0	1	2	2	0	0	1	0	1	0	10
割合	0.0%	13.0%	0.0%	5.3%	6.9%	4.7%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	3.8%	0.0%	3.2%
回答者数	19	23	34	19	29	43	26	30	20	20	26	20	309

※複数回答のため、合計が100%になりません。

■保健・福祉施設の利用状況（単数回答）

利用状況の回答では、「利用していない」が1,554人（81.1%）と最も多く、次いで、「年一回程度」が141人（7.4%）、「4～5回程度」が73人（3.8%）、「月一回以上」が70人（3.7%）、「週一回以上」が45人（2.3%）、「無回答」が33人（1.7%）となっています。「利用していない」人の割合が8割を超えています。



※四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

■主に利用する保健・福祉施設（複数回答）

保健・福祉施設の利用者に主に利用している施設を聞いたところ、全体では「穂波福祉センター」が最も多く、次いで「庄内保健福祉センター」が多くなっています。

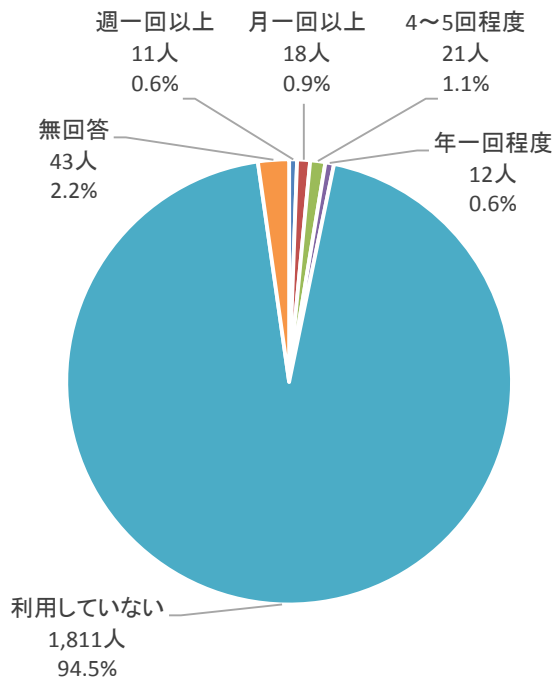
地区別にみると、穎田、幸袋、庄内、筑穂地区でそれぞれの地区内にある施設の利用が最も多くなっています。飯塚東地区では「庄内保健福祉センター」の利用が多くなっています。

保健・福祉施設	飯塚	菰田	立岩	飯塚東	二瀬	幸袋	鎮西	鯉田	穂波	筑穂	庄内	穎田	総計
穂波福祉総合センター	17	17	11	5	13	12	28	9	29	13	3	7	164
割合	81.0%	85.0%	52.4%	21.7%	86.7%	41.4%	77.8%	45.0%	82.9%	30.2%	7.0%	30.4%	49.8%
筑穂保健福祉総合センター	1	0	4	1	0	0	2	1	2	32	0	0	43
割合	4.8%	0.0%	19.0%	4.3%	0.0%	0.0%	5.6%	5.0%	5.7%	74.4%	0.0%	0.0%	13.1%
庄内保健福祉総合センター	3	3	8	16	1	3	0	4	1	1	41	3	84
割合	14.3%	15.0%	38.1%	69.6%	6.7%	10.3%	0.0%	20.0%	2.9%	2.3%	95.3%	13.0%	25.5%
穎田高齢者福祉センター	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	10	13
割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	2.8%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	43.5%	4.0%
健康の森公園多目的施設	3	1	2	1	3	15	4	7	5	3	3	4	51
割合	14.3%	5.0%	9.5%	4.3%	20.0%	51.7%	11.1%	35.0%	14.3%	7.0%	7.0%	17.4%	15.5%
その他	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	4
割合	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	2.8%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%
回答者数	21	20	21	23	15	29	36	20	35	43	43	23	329

※複数回答のため、合計が100%になりません。

■子育て支援施設の利用状況（単数回答）

利用状況の回答では、「利用していない」が1,811人（94.5%）と最も多く、次いで、「4～5回程度」が21人（1.1%）、「月一回以上」が18人（0.9%）、「年一回程度」が12人（0.6%）、「週一回以上」が11人（0.6%）となっています。「利用していない」人の割合は9割を超えていますが、利用する対象者や年齢が限られているためと思われます。



※四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

■主に利用する子育て支援施設（複数回答）

子育て支援施設の利用者に主に利用している施設を聞いたところ、全体では「街なか子育て広場」が最も多くなっています。

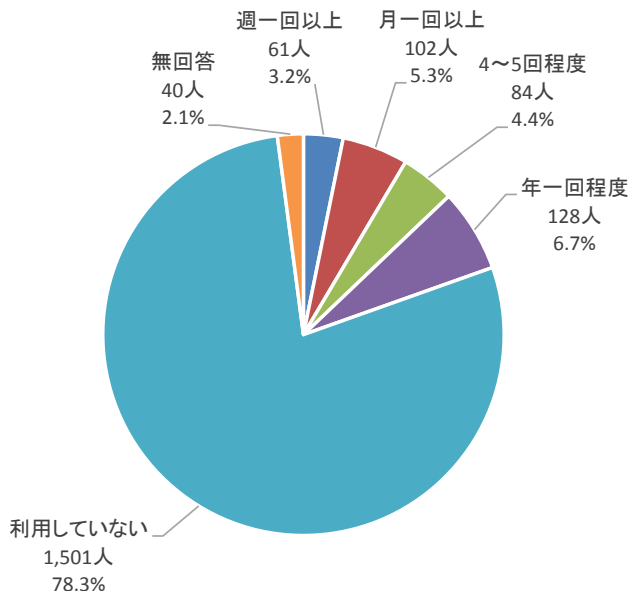
地区別にみると、回答数が少ないため、傾向が読み取れませんが、菰田、飯塚、立岩地区で「街なか子育てひろば」の利用が多く、庄内地区で「庄内子育て支援センター」の利用が多く行われています。

子育て支援施設	飯塚	菰田	立岩	飯塚東	二瀬	幸袋	鎮西	鯉田	穂波	筑穂	庄内	颯田	総計
飯塚子育て支援センター	2	3	1	0	1	0	2	1	0	0	2	0	12
割合	40.0%	37.5%	14.3%	0.0%	25.0%	0.0%	33.3%	20.0%	0.0%	0.0%	18.2%	0.0%	19.4%
筑穂子育て支援センター	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5	0	0	6
割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	9.7%
庄内子育て支援センター	0	1	3	1	0	1	0	1	0	0	9	0	16
割合	0.0%	12.5%	42.9%	33.3%	0.0%	50.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	81.8%	0.0%	25.8%
颯田子育て支援センター	0	0	2	0	1	0	2	1	0	1	0	3	10
割合	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	25.0%	0.0%	33.3%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	75.0%	16.1%
街なか子育てひろば	5	6	7	2	3	1	4	3	1	1	4	1	38
割合	100.0%	75.0%	100.0%	66.7%	75.0%	50.0%	66.7%	60.0%	50.0%	20.0%	36.4%	25.0%	61.3%
その他	0	1	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	5
割合	0.0%	12.5%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.1%
回答者数	5	8	7	3	4	2	6	5	2	5	11	4	62

※複数回答のため、合計が100%になりません。

■公民館（生涯学習施設）の利用状況（単数回答）

利用状況の回答では、「利用していない」が1,501人（78.3%）と最も多く、次いで「年一回程度」が128人（6.7%）、「月一回以上」が102人（5.3%）、「4～5回程度」が84人（4.4%）、「週一回以上」が61人（3.2%）となっています。「利用していない」人の割合が8割近くに及んでいます。



※四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

■主に利用する公民館（生涯学習施設）（複数回答）

公民館（生涯学習施設）の利用者に主に利用している施設を聞いたところ、全体としては「立岩公民館」が最も多く、次いで「飯塚公民館」が多くなっています。

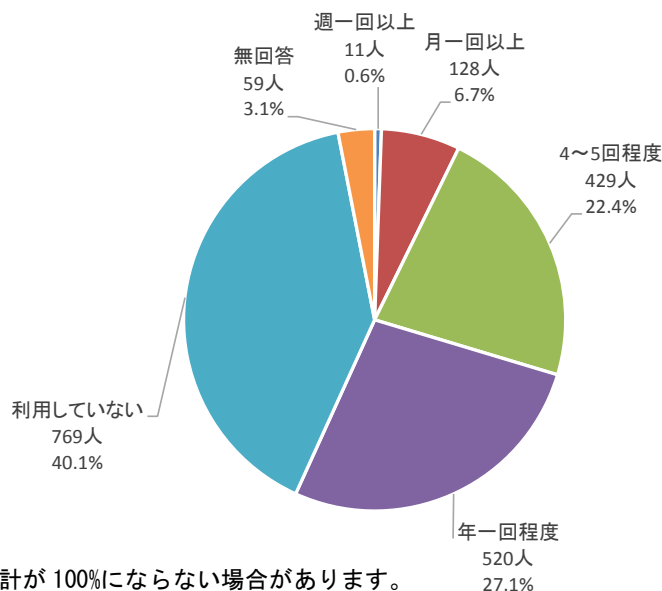
地区別にみると、各12地区それぞれの公民館の利用が4割を超えています。

公民館(生涯学習施設)	飯塚	菟田	立岩	飯塚東	二瀬	幸袋	鎮西	鯉田	穂波	筑穂	庄内	顛田	総計
中央公民館	3	1	2	5	2	4	3	0	1	8	2	1	32
割合	10.7%	3.2%	5.3%	16.7%	9.5%	12.5%	10.7%	0.0%	4.3%	18.2%	8.3%	2.6%	8.5%
二瀬公民館	2	0	1	0	15	3	4	0	2	0	0	0	27
割合	7.1%	0.0%	2.6%	0.0%	71.4%	9.4%	14.3%	0.0%	8.7%	0.0%	0.0%	0.0%	7.2%
幸袋公民館	1	2	0	1	0	19	2	1	0	1	0	4	31
割合	3.6%	6.5%	0.0%	3.3%	0.0%	59.4%	7.1%	2.6%	0.0%	2.3%	0.0%	10.5%	8.3%
鎮西公民館	0	2	0	0	0	0	20	0	1	0	0	0	23
割合	0.0%	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	71.4%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	6.1%
菟田公民館	0	24	1	0	1	1	0	0	0	1	1	0	29
割合	0.0%	77.4%	2.6%	0.0%	4.8%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	4.2%	0.0%	7.7%
立岩公民館	7	3	26	3	1	2	3	5	3	1	2	2	58
割合	25.0%	9.7%	68.4%	10.0%	4.8%	6.3%	10.7%	13.2%	13.0%	2.3%	8.3%	5.3%	15.5%
飯塚東公民館	1	0	2	23	0	0	0	0	0	1	0	0	27
割合	3.6%	0.0%	5.3%	76.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	7.2%
飯塚公民館	19	3	4	1	1	2	2	4	1	0	0	0	37
割合	67.9%	9.7%	10.5%	3.3%	4.8%	6.3%	7.1%	10.5%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	9.9%
鯉田公民館	1	0	2	0	0	0	0	25	2	0	0	0	30
割合	3.6%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	65.8%	8.7%	0.0%	0.0%	0.0%	8.0%
穂波公民館	1	4	1	0	2	1	0	0	13	2	0	0	24
割合	3.6%	12.9%	2.6%	0.0%	9.5%	3.1%	0.0%	0.0%	56.5%	4.5%	0.0%	0.0%	6.4%
筑穂公民館	1	0	1	0	1	1	0	0	2	31	0	0	37
割合	3.6%	0.0%	2.6%	0.0%	4.8%	3.1%	0.0%	0.0%	8.7%	70.5%	0.0%	0.0%	9.9%
庄内公民館	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	13	0	17
割合	0.0%	0.0%	2.6%	6.7%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	54.2%	0.0%	4.5%
顛田公民館	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2	21	26
割合	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	8.3%	55.3%	6.9%
旧庄内生涯学習交流館	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	6	0	8
割合	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	2.1%
男女共同参画推進センター	0	0	1	1	0	0	1	3	1	2	0	1	10
割合	0.0%	0.0%	2.6%	3.3%	0.0%	0.0%	3.6%	7.9%	4.3%	4.5%	0.0%	2.6%	2.7%
サンシャインかいた	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	14	17
割合	0.0%	0.0%	2.6%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	36.8%	4.5%
市民交流プラザ	3	0	2	0	0	0	0	1	0	1	1	1	9
割合	10.7%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	2.3%	4.2%	2.6%	2.4%
その他	2	4	3	3	3	2	1	2	1	2	2	2	27
割合	7.1%	12.9%	7.9%	10.0%	14.3%	6.3%	3.6%	5.3%	4.3%	4.5%	8.3%	5.3%	7.2%
回答者数	28	31	38	30	21	32	28	38	23	44	24	38	375

※複数回答のため、合計が100%になりません。

■市庁舎等の利用状況（単数回答）

利用状況の回答では、「利用していない」が769人（40.1%）と最も多く、次いで「年一回程度」が520人（27.1%）、「4～5回程度」が429人（22.4%）、「月一回以上」が128人（6.7%）、「週一回以上」が11人（0.6%）となっています。「年一回程度」までの利用率は6割程度です。



※四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

■主に利用する市庁舎等（複数回答）

市の庁舎の利用者に主に利用している施設を聞いたところ、全体としては「市役所本庁舎」が最も多く、次いで「穂波支所」が多くなっています。

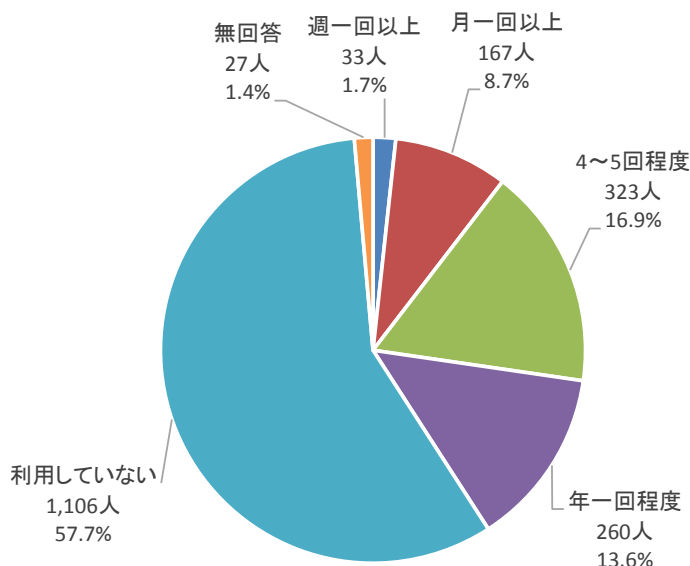
地区別にみると、颯田、庄内、筑穂、穂波地区のそれぞれで地元の支所の利用が6割以上となっています。

市庁舎	飯塚	菰田	立岩	飯塚東	二瀬	幸袋	鎮西	鯉田	穂波	筑穂	庄内	颯田	総計
市役所本庁舎	72	76	102	69	68	86	74	95	34	25	31	11	743
割合	88.9%	79.2%	95.3%	90.8%	84.0%	90.5%	83.1%	87.2%	36.2%	25.3%	35.2%	15.1%	68.3%
穂波支所	11	47	8	5	10	3	19	5	78	11	5	2	204
割合	13.6%	49.0%	7.5%	6.6%	12.3%	3.2%	21.3%	4.6%	83.0%	11.1%	5.7%	2.7%	18.8%
筑穂支所	2	1	2	1	0	1	1	0	5	90	0	1	104
割合	2.5%	1.0%	1.9%	1.3%	0.0%	1.1%	1.1%	0.0%	5.3%	90.9%	0.0%	1.4%	9.6%
庄内支所	0	3	1	12	0	0	2	5	2	1	75	0	101
割合	0.0%	3.1%	0.9%	15.8%	0.0%	0.0%	2.2%	4.6%	2.1%	1.0%	85.2%	0.0%	9.3%
颯田支所	2	0	2	0	1	5	2	5	0	0	0	45	62
割合	2.5%	0.0%	1.9%	0.0%	1.2%	5.3%	2.2%	4.6%	0.0%	0.0%	0.0%	61.6%	5.7%
二瀬出張所	0	0	1	0	24	5	5	0	1	0	0	0	36
割合	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	29.6%	5.3%	5.6%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%
幸袋出張所	0	0	2	0	1	21	0	1	0	0	0	0	25
割合	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	1.2%	22.1%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%
鎮西出張所	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	17
割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	19.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%
鯉田出張所	0	0	1	0	0	0	0	22	1	0	0	1	25
割合	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.2%	1.1%	0.0%	0.0%	1.4%	2.3%
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
回答者数	81	96	107	76	81	95	89	109	94	99	88	73	1088

※複数回答のため、合計が100%になりません。

■市営駐車場の利用状況（単数回答）

利用状況の回答では、「利用していない」が1,106人（57.7%）と最も多く、次いで「4～5回程度」が323人（16.9%）、「年一回程度」が260人（13.6%）、「月一回以上」が167人（8.7%）、「週一回以上」が33人（1.7%）、「無回答」が27人（1.4%）となっています。「年1回程度」までの利用率は4割程度です。



※四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

■主に利用する市営駐車場（複数回答）

市営の駐車場の利用者に主に利用している施設を聞いたところ、全体では「立体駐車場」が最も多く、次いで「本町駐車場」が多くなっています。

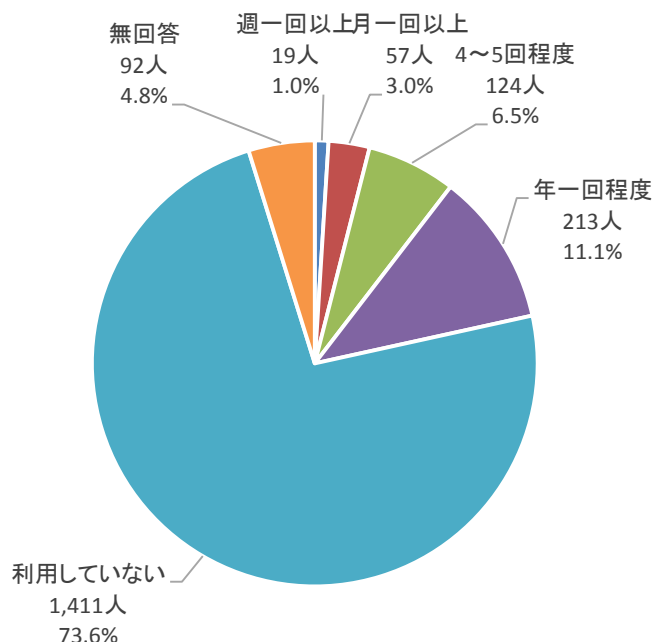
地区別にみると、地域による利用の差はほとんどみられず、全体と同様の利用状況となっています。

市営駐車場	飯塚	菰田	立岩	飯塚東	二瀬	幸袋	鎮西	鯉田	穂波	筑穂	庄内	顛田	総計
立体駐車場	34	58	66	49	52	53	68	68	53	57	53	37	648
割合	73.9%	89.2%	81.5%	83.1%	85.2%	86.9%	88.3%	81.9%	80.3%	80.3%	79.1%	80.4%	82.8%
本町駐車場	16	18	20	18	16	15	19	26	18	16	19	13	214
割合	34.8%	27.7%	24.7%	30.5%	26.2%	24.6%	24.7%	31.3%	27.3%	22.5%	28.4%	28.3%	27.3%
東町駐車場	6	11	5	8	7	4	5	8	11	8	10	2	85
割合	13.0%	16.9%	6.2%	13.6%	11.5%	6.6%	6.5%	9.6%	16.7%	11.3%	14.9%	4.3%	10.9%
回答者数	46	65	81	59	61	61	77	83	66	71	67	46	783

※複数回答のため、合計が100%になりません。

■その他の施設の利用状況（単数回答）

利用状況の回答では、「利用していない」が1,411人（73.6%）と最も多く、次いで「年一回程度」が213人（11.1%）、「4～5回程度」が124人（6.5%）、「月一回以上」が57人（3.0%）、「週一回以上」が19人（1.0%）となっています。「利用していない」人の割合が7割を超えています



※四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

■主に利用する施設（複数回答）

その他の施設の利用者に主に利用している施設を聞いたところ、全体では「歴史資料館」が最も多く、次いで「サンビレッジ茜」が多くなっています。

地区別にみると、筑穂地区以外のすべての地区で「歴史資料館」の利用が多くなっています。筑穂地区では、「サンビレッジ茜」の利用が多くなっています。

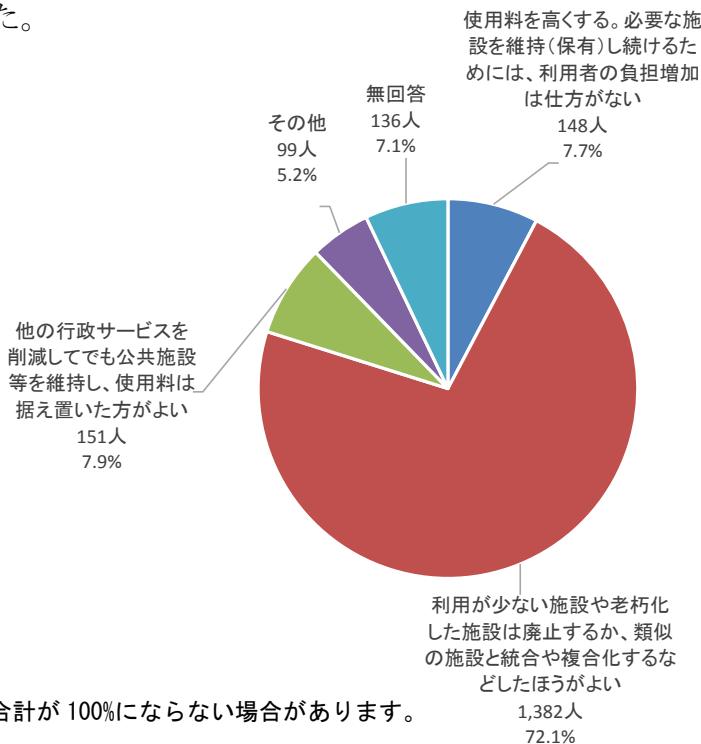
その他の施設	飯塚	菰田	立岩	飯塚東	二瀬	幸袋	鎮西	鯉田	穂波	筑穂	庄内	頼田	総計
筑穂ふれあい交流センター	0	1	0	1	1	2	1	1	0	4	1	0	12
割合	0.0%	4.0%	0.0%	2.9%	5.6%	6.1%	2.9%	1.9%	0.0%	9.5%	2.1%	0.0%	2.9%
サンビレッジ茜	4	7	5	5	4	4	6	4	6	19	6	3	73
割合	15.4%	28.0%	13.9%	14.3%	22.2%	12.1%	17.1%	7.7%	18.8%	45.2%	12.5%	9.7%	17.7%
サン・アビリティーズいづか	3	1	9	8	1	2	4	3	2	2	3	4	42
割合	11.5%	4.0%	25.0%	22.9%	5.6%	6.1%	11.4%	5.8%	6.3%	4.8%	6.3%	12.9%	10.2%
エコ工房	3	0	3	1	0	3	4	1	2	2	2	0	21
割合	11.5%	0.0%	8.3%	2.9%	0.0%	9.1%	11.4%	1.9%	6.3%	4.8%	4.2%	0.0%	5.1%
筑豊ハイツ	3	3	9	5	1	6	5	8	3	4	4	6	57
割合	11.5%	12.0%	25.0%	14.3%	5.6%	18.2%	14.3%	15.4%	9.4%	9.5%	8.3%	19.4%	13.8%
歴史資料館	19	14	20	17	11	24	25	35	16	18	43	27	269
割合	73.1%	56.0%	55.6%	48.6%	61.1%	72.7%	71.4%	67.3%	50.0%	42.9%	89.6%	87.1%	65.1%
立岩会館	2	0	1	3	3	2	4	3	4	4	3	1	30
割合	7.7%	0.0%	2.8%	8.6%	16.7%	6.1%	11.4%	5.8%	12.5%	9.5%	6.3%	3.2%	7.3%
穂波人権啓発センター	0	0	0	0	1	1	1	1	3	2	1	0	10
割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	3.0%	2.9%	1.9%	9.4%	4.8%	2.1%	0.0%	2.4%
筑穂人権啓発センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	6
割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	1.5%
その他	1	1	1	1	0	0	0	2	0	1	0	0	7
割合	3.8%	4.0%	2.8%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	1.7%
回答者数	26	25	36	35	18	33	35	52	32	42	48	31	413

※複数回答のため、合計が100%になりません。

(3) 公共施設等の維持について

■公共施設等を維持し続けるために必要な取り組み（単数回答）

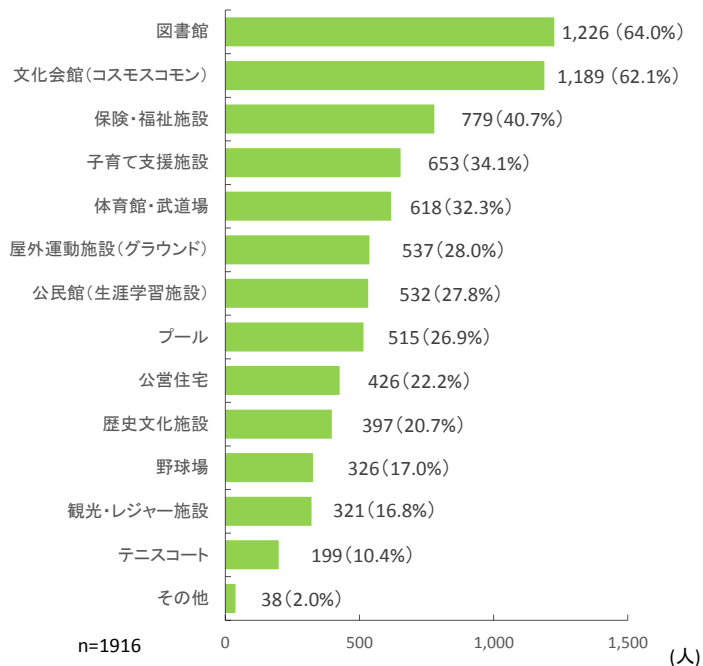
維持するために必要な取組は「利用が少ない施設や老朽化した施設の統廃合」の意見が1,382人（72.1%）と最も多く、次いで「行政サービスを削減して使用料を据え置く」の意見が151人（7.9%）、「使用料高くして施設を維持する」の意見が148人（7.7%）でした。



※四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

■優先的に保持していきべきだと考える公共施設等（複数回答）

優先的に保持していきべきだと考える施設について聞いたところ、「図書館」1,226人（64.0%）、「文化会館（コスモスコモン）」1,189人（62.1%）に、6割を超える回答がありました。また、「保健・福祉施設」779人（40.7%）や「子育て支援施設」が653人（34.1%）、「体育館・武道場」618人（32.3%）への回答も多くなっています。

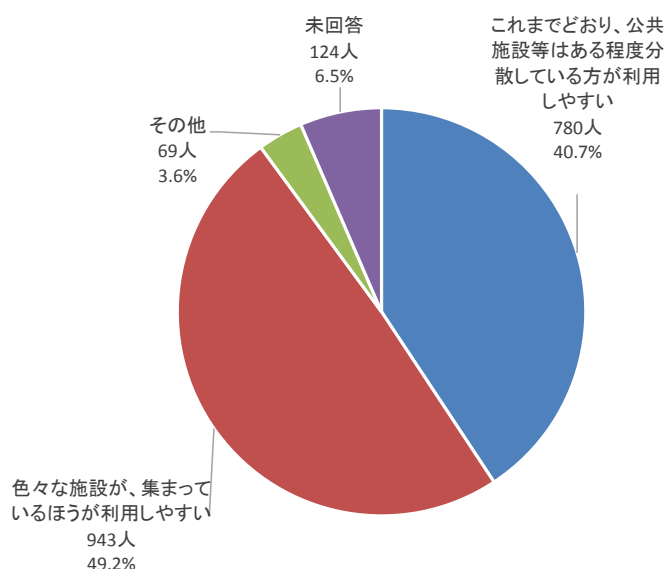


(4) 公共施設等の場所について

■公共施設等があるとよい場所（単数回答）

公共施設等のあるとよい場所については、「色々な施設が集まっているほうが利用しやすい」943人（49.2%）と、「ある程度分散している方が利用しやすい」780人（40.7%）がともに4割以上の回答となっており、意見が割れています。

地区別に見ると、全地区でも意見が割れているものの、庄内、筑穂地区では「ある程度分散している方が利用しやすい」と回答した人の割合が「色々な施設が集まっているほうが利用しやすい」の割合よりも高くなっています。



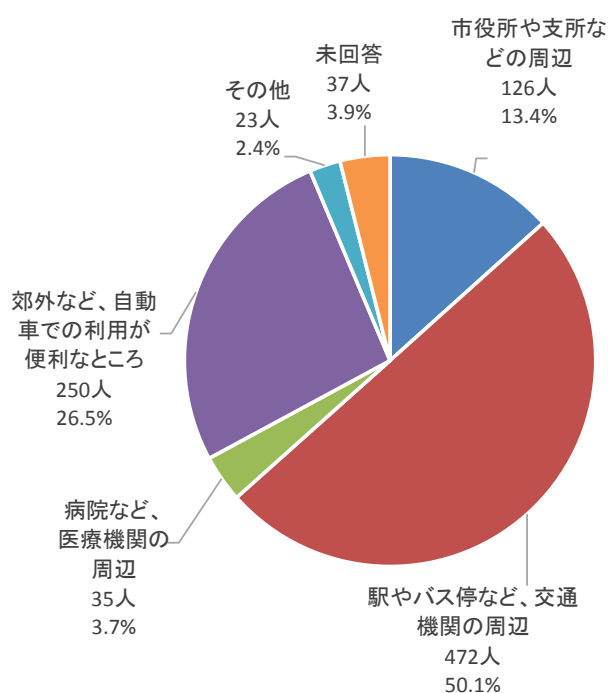
	飯塚	菰田	立岩	飯塚東	二瀬	幸袋	鎮西	鯉田	穂波	筑穂	庄内	顛田	総計
これまでどおり、公共施設等はある程度分散している方が利用しやすい	58	61	64	53	56	66	62	76	66	86	80	52	780
割合	38.4%	38.4%	35.6%	36.6%	38.4%	41.5%	38.8%	43.4%	42.3%	51.8%	47.6%	35.1%	40.7%
色々な施設が、集まっているほうが利用しやすい	77	78	95	72	79	81	83	81	74	66	72	85	943
割合	51.0%	49.1%	52.8%	49.7%	54.1%	50.9%	51.9%	46.3%	47.4%	39.8%	42.9%	57.4%	49.2%
その他	7	7	11	7	2	5	6	6	7	6	2	3	69
割合	4.6%	4.4%	6.1%	4.8%	1.4%	3.1%	3.8%	3.4%	4.5%	3.6%	1.2%	2.0%	3.6%
無回答	9	13	10	13	9	7	9	12	9	8	14	8	121
割合	6.0%	8.2%	5.6%	9.0%	6.2%	4.4%	5.6%	6.9%	5.8%	4.8%	8.3%	5.4%	6.3%
総計	151	159	180	145	146	159	160	175	156	166	168	148	1916
割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

■公共施設等の集積について（単数回答）

「色々な施設が集まっているほうが利用しやすい」と回答した人に公共施設等の利用しやすい場所について聞いたところ、「駅やバス停など交通機関の周辺」が472人（50.1%）で最も多く、次いで「郊外など自動車での利用が便利なところ」が250人（26.5%）となっています。

地区別にみると、どの地区でも「駅やバス停など交通機関の周辺」の回答が最も多くなっています。特に菰田、立岩地区での回答者の割合が6割を超えています。一方で、鎮西、穂波地区では、「郊外など自動車での利用が便利なところ」の回答が3割を超えています。



	飯塚	菰田	立岩	飯塚東	二瀬	幸袋	鎮西	鯉田	穂波	筑穂	庄内	顛田	総計
市役所や支所などの周辺	8	6	10	8	10	11	8	19	11	11	12	12	126
割合	10.4%	7.7%	10.5%	11.1%	12.7%	13.6%	9.6%	23.2%	14.9%	16.7%	16.7%	14.1%	13.3%
駅やバス停など、交通機関の周辺	45	49	60	33	39	39	40	36	30	32	27	42	472
割合	58.4%	62.8%	63.2%	45.8%	49.4%	48.1%	48.2%	43.9%	40.5%	48.5%	37.5%	49.4%	50.0%
病院など、医療機関の周辺	1	2	3	6	4	3	2	0	1	3	5	5	35
割合	1.3%	2.6%	3.2%	8.3%	5.1%	3.7%	2.4%	0.0%	1.4%	4.5%	6.9%	5.9%	3.7%
郊外など、自動車での利用が便利なところ	20	16	19	21	20	24	27	22	27	16	20	18	250
割合	26.0%	20.5%	20.0%	29.2%	25.3%	29.6%	32.5%	26.8%	36.5%	24.2%	27.8%	21.2%	26.5%
その他	1	3	1	3	3	2	2	1	1	1	2	3	23
割合	1.3%	3.8%	1.1%	4.2%	3.8%	2.5%	2.4%	1.2%	1.4%	1.5%	2.8%	3.5%	2.4%
無回答	2	2	2	1	3	2	4	4	4	3	6	5	38
割合	2.6%	2.6%	2.1%	1.4%	3.8%	2.5%	4.8%	4.9%	5.4%	4.5%	8.3%	5.9%	4.0%
総計	77	78	95	72	79	81	83	82	74	66	72	85	944
割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

(5) 自由回答

■全体について

性別	年代	意見
男性	50歳代	使用目的などがはっきりしているものを存続していかないと何でも廃止は後々困る事になる。(例、八木山青年の家や庄内キャンプ場など、今となっては非常にあいまいな理由の廃止であったと思われる。)
女性	40歳代	駐車場の確保をし、色々な施設が集まっていたほうが良い。例えばプールに行った帰りにランチができたり、ランチを食べながらスポーツする様子が見られたり、また、図書館に本を返却しに来るついでにパンが買えるなど。
女性	40歳代	高齢者の多い飯塚市であるため高齢者が病院通いを日課にするのではなく、健康のために散歩をしたり、趣味を楽しむよう健康に関する公共施設は廃止しないで欲しい。
女性	40歳代	今後、高齢化社会に向けて、健康で生きるために、また介護予防のためにも、公共施設を利用して体操教室や、各自が運動できる施設などは残すべき。医療費・介護保険利用の減に繋がる。
男性	40歳代	行政サービス等の質を落とす事なく公共施設を維持して欲しいし、むしろ今以上に充実させるべき。目先の税收減少から安易に公共施設の廃止を実行すれば、今後飯塚市に住もうと思う方々がより少なくなり更に税收が減少するという悪循環に陥る可能性が高く、企業及び人口の流出にもつながるのではないかと。当面は、人件費を含めた、市民に負担のかからないコストカットを行い維持し、知恵を絞って税收アップにつながる魅力ある街づくりをスピードを持って実行して欲しい。
男性	70歳以上	民営化に出来るものは早くすべき!
男性	30歳代	1. 公共施設がイメージ的に暗く、入りにくい。2. トイレ等が汚い。3. 駐車場が停めにくく駐車場が少ない。1に関してあてはまる施設の一つがコスモスコモンである。利用料に関して、上げて良いが、もっと民間企業や他の地域の公共施設の良い所を参考に検討してからすべき。
男性	40歳代	健康の森多目的広場は交通の便が悪く、利用しにくい。若者(中学～大学生)や、高齢者に目を向けた施設を多くし、もっと身近に感じる利用しやすい施設を整備してはどうか。子ども用の公園の整備も必要である。
女性	50歳代	アンケートに回答することでこのようにたくさんいろいろな公共施設があることを知った。数十年飯塚にいたが名前の施設がどこにあるのか知らない。
女性	20歳代	今は独身で仕事も忙しく、施設利用はほぼ無いが、子どもの頃は市民プール、テニスコート、グラウンドを利用していた。合併によって公共施設等が人口に対して多いことには納得できるが、老朽化の理由でどんどん減らすようなことはしてほしくない。全ての施設について、枠にとらわれないイベントの開催や利用方法の周知など施設稼働率の増加にも取り組むべき。また今回のアンケートで気付いたが、保健福祉施設では何が出来る場所か分からない。必要になった時に知らなかったからという理由だけで、利用できないのは残念なので広報にも力を入れるべき。どんな人でも気軽に利用できるような公共施設であってほしい。最後にこのアンケートが単なる多数決の結果として用いられることのないよう願う。
女性	60歳代	気軽に利用出来る様にして欲しい。
女性	30歳代	公共施設を立て直しも大事だとは思いますが職員の数なども見直すべき。行っても、何もしてない職員も目につくことが多く、対応の悪さも目につく。そういうお金を市民が払っているのが腹立つ。見なおすべきところはもっとあるのだから、もっと市民の意見を親身に聞くべき。建て直すなら子どもからお年寄りまで使えるような身近で使用しやすくしてほしい。
女性	40歳代	飯塚は治安もあまり良くなく、子どもが安心して遊べる場所が少ない。立派な施設はあっても、気軽に利用できなかったり手続きが面倒であったり利用しにくい。また、バスも中心部しか走っておらず、必ず車で移動しなければならないため、駐車料金を取られる場所でのイベントには参加したいと思わない。伊藤衛門などで集客に成功しているのに公共トイレの整備がなされていなかったり、健康の森公園等、人が集まる工夫がない。どうせ車でいくなら遠方へ、と思う人は多いと思う。食事が出来る所も中央に集まっているだけで、子ども連れではめったに行かない。家族で利用できる場所が少なすぎるし、イベントも内容がイマイチ。図書館は絶対2時間は無料にすべき!! 本を借りて街中をぶらついてお茶するヒマもない!!
女性	40歳代	行政としてまだまだやれる事はたくさんあると思う。町おこしや企業の誘致など魅力ある街づくりで町が元気になり、子どももお年寄りにも働く世代にもやさしい町になれるよう新庁舎よりもお金の使い方を考えたり(新しい庁舎になっても利用は変わらない)、公共施設のよりよい運営を行ってほしい。中学校等の統廃合も進んではいるものの、運動場等が狭いため、運動会(体育祭)は見物するのも困難で、お年寄りには見に行く事ができない、一極化ではなく町や市全体としての活性化を期待する。
女性	50歳代	合併後、飯塚市内と言ってもとても広範囲になっているので移動手段がない高齢者などのためにも各地域に施設があった方がよい。プールなどの利用料金は65才以上とその他の利用者の使用料金があまりにも違いすぎる。図書館の本はあまり種類がなくて借りたいと思うような本がない。子ども向けのDVDなどももう少し新しい物があればと思う。皆が飯塚市民で良かった!と言える街にしてほしい。
女性	70歳以上	本当に今ある公共施設全てが住民にとって必要なのかわかり吟味して今後のあり方を考えてほしい。超高齢化目前に、まじめに働いて税金をしっかりと納めている側としては今後が心配。
女性	40歳代	市役所、図書館等駐車場に困る。近くにあるといってもやはり、子どもや親など歩いて大変。建て直す時には施設と駐車場を一体化させてほしい。市民プールも夏の間はバス等もう少し考えてもらえるとう利用者は増えると思う。小学高学年・中学生・高校生など子どもたちだけでプールに行くとなるとバスがなくて不便。図書館での学習スペースもほしい。コミュニティセンターでの学習室も、もっと子どもたちが利用できるように増やしてほしい。せっかく行っても勉強できずに帰宅する子どもたちがとても多い事を知ってほしい。
女性	40歳代	何でも新しくつくらず、今ある建物を使う。スーパーとか学校とか、使っていない空き店舗などなど。どこかの県は大型スーパーを市役所として使ってるのをテレビで見ました! とってもいい考えだと思う。飯塚市も見直すべき!! 税金を使いすぎ!!

性別	年代	意見
女性	20歳代	もう少し、利用しやすくしてほしい。子どものおもちゃを増やしてもらうなど・・・授乳室を作るなど・・・。あと、公共施設には、子ども用のトイレを必ず作ってほしい。大人用のトイレでは便座も大きすぎる(男用も女用も)。親子で利用するのが公共の施設なので、今のままでは”親子で”は難しい。もう少し、子どもの目線での施設にしてほしい。
女性	30歳代	今後の飯塚市に期待する事は、お年寄り子どもが住みやすい事なので、お年寄りが集まれる公共施設と子どもと遊べる公園等を統合してほしい。お年寄りは車の運転ができない方が多いと思うので、乗り合いバスが停まれるように考慮するなど工夫すれば、みんなが集まる公共施設になる。
女性	70歳以上	公共施設や道路の道ぞいに雑草やゴミがあり、飯塚市内がきたない。
女性	50歳代	民営化できるものはできるだけ民営化する
女性	30歳代	”そこに行けばいつも何か楽しいことがあっている”と思うような、常に活気のあるところになればいいと思う。
女性	40歳代	施設はあっても公共である必要はない。会社や個人を募っていかせるべき。採算がとれる工夫が必要。
女性	30歳代	どの施設においても言えますが・・・。充実性に欠けている。図書館にしても文献が少なかったり、運動施設にしてももっと充実していれば使用頻度は増加すると思う。個人的には、これからプールなど始めたいと思っているのでプールは残して頂きたいと思っています。
女性	30歳代	筑穂図書館のように利用者を応援するような施設が増えると良い。
女性	30歳代	子供が安全に遊べる施設をもっと増やしてほしい。
男性	50歳代	基本的に統合や廃止を前提に考えるのは今後の飯塚市にとってマイナスになると思う。みんな(市民も交えて)で話し合い、広く考えを求めたい。まずそのためには住民の行政参加と発言権を高めることに加えて、市民の教育(財政、法律など)の必要性も大きいと考える。いずれにしても、何もしないで統合や廃止前提で物事を考えていると飯塚市そのものが倒産・つぶれると思う。
男性	40歳代	利益を考えた経営、人件費の軽減、利用者の満足度の追及
女性	50歳代	その地区・地域の特徴のある公共施設で掃除等に力を入れて、古い建物でも気持ちよく利用できるものにしてほしい。人件費もかかるかもしれませんが、多くの人を雇って市民が明るく楽しく生活できる様な近未来的な都市を目指してお年寄りも人生に疲れるのではなく、はつらつと生活できる様な仕組みを考え出していってもらいたい。
女性	10歳代	若い人がもっと公共施設に興味をもて楽しい場所にすれば、人がたくさん集まると思う。
男性	40歳代	民間による設立、経営が行えるもの(福祉関連施設、住宅等民間経営があるもの)は縮小した方が良く思う。
男性	70歳以上	未来を見据えて計画を実行してほしい。公共施設等で働く人数・給料を市の財政が厳しいならば削減すべきだ。
女性	20歳代	必要のない施設は廃止して、飯塚市民のためになることにお金を使ってほしい。
女性	50歳代	公共施設等に皆が自由に集まれ、自由に使い、交通の便がよく、市に負担が少なく将来にわたって保有でき、役に立ち喜ばれるような施設等になればよい。
女性	60歳代	少人数のサークルでも利用できる施設がほしい。
女性	30歳代	子どもやお年寄りに寄り添うような施設は地域ごとにあつたほうが利用しやすい。
男性	20歳代	どの施設でも職員の方がやさしく、はじめてでも教えてもらえるので、今のまま維持できると嬉しい。
男性	40歳代	施設収入が増加する施策を立てるべき。
女性	30歳代	老朽化で建替えの必要な施設は税金だけでなく、市民に寄付などを募って市民の善意で改良していくような対応でも良いのではないかと。本当に市民が必要と思っているなら実現できると思う。
女性	70歳以上	緑地野球場、筑豊レクリエーションセンター、テニスコート、コスモスコン等、市外からも利用されている施設等はキッチンとした規格に合った欲を言えば贅沢さも少しある他に誇れる施設をつくって欲しい。過疎化する街に活気を呼ぶような。市役所は殊に少しお金をかけても明るくモダンな次世代へ繋げる内容にしてもらいたい。公民館は統廃合を。年に数回しか利用しない所もある。保健センターを拡充し、高齢者の健康保持・増進に力を注ぐための循環バスの拡充を民間と連携して実施してもらいたい。図書館も市の施設しかわからないが、読書スペースが少ないのではないかと。休憩所になることを避けているようだが、工夫して利用者には1日でも居れるようにしてもらいたい。市体育館内の運動施設は機具がお粗末。体育館共々、もっと立派なモノを整備してはどうか。公共施設はあれば便利で有り難いが、市民は自分中心で考えるので無ければそれなりにという所もある。対極的、且つ合理性を考慮し、そのための有限の少しだけの増税も止むを得ない。
女性	50歳代	今後の公共施設増加に反対
男性	70歳以上	これから少子高齢化が益々加速する。それに見合ったお金のかけられない施設に変えていく方向を早く打ちだしてもらいたい。
女性	30歳代	無駄をはぶいて飯塚市の繁栄のために必要なところには十分に投資すべき。全ての希望に添うことは難しいと思うが、最善の方法を見つけてもらいたい。
女性	50歳代	市民が利用するサービスとして、また、観光に柱を置く市への転換を見据えて、市の公共施設は美しい外観にもこだわって欲しいと思う。勝盛公園の花見は、提灯だけで夜桜を見れるので他では味わえない美しさだ。出店に集う人たちがルノアールの絵のように見える。飯塚らしい演出も必要。勝盛公園周辺を買収し、整備して子どもの施設や美術館にしてはどうか。

性別	年代	意見
男性	70歳以上	若者の施設をつくるよりも、高齢化が進み、医療費などが少しでもかからないような施設を整備すべき。例えば、皆で集まっておしゃべりしたり、お茶したり、また軽い運動ができるような施設。高齢者は病院が社交場になっている。
女性	70歳以上	前から思っていたがことだが、足腰の衰えた高齢者が集まって体操等を指導していただく場所があったら行きたいと思っている。近くの公民館では夜あっているようだが、高齢者はやはり昼間の開催が良い。公民館から出された資料などよく見て決めたいと思う。古くなった施設は取り壊すなりして隣接した地域に共同の物を新しく造るなどしていただきたい。どうか家事ができていない高齢者の運動の場が欲しい。
女性	40歳代	利用の少ない施設は廃止し、人件費も削減すべきではないか。
女性	60歳代	市民の利用が少ない施設と及び管理責任を負う施設の廃止は仕方ないと思う。また、天下り行政の退職者を多く採用している施設も他の方法を検討されたい。
女性	60歳代	年を重ねると車の運転も出来なくなり買い物へ行くのも不自由になる。公共施設の利用等も地域の公民館にすら行けなくなるのも目下だ。無駄をなくすことも大切だが、自分たちに何か出来ないかを考えることも必要だと思う。人の意見をまとめるのは至難の業だとは思いますが、合併してから本庁ばかりに力を入れるのではなく各支所も大切にしていきたい。
男性	60歳代	計画的に公共施設が更新されていないため利用者減少に繋がっているのではないかと。他自治体の施設は飯塚市よりも良い施設が多い。
女性	50歳代	人員や運営団体等を見直し、市民がより使いやすい施設にすべき。
女性	10歳代	具体案がある訳ではないが、公共施設は昔からあるという暖かさが好きなのでなくなって欲しくない。私もこれから公共施設をもっと利用して行こうと思っている。
女性	30歳代	公共施設の削減には反対。公共施設があるから地域の方々も運動や地域活動がしやすいと思う。そのために医療費などが抑えられている部分もあるのではないかと。もっと地域の人が行きやすい方法や行きたくなるイベントなどを企画すべきだと思う。
女性	40歳代	市町の合併によって1人当たりの公共施設延べ床面積も広いのだと思うが、それにしても平均よりはるかに上回っていることに驚いた。維持管理にも費用がかかるので老朽化した施設は取り壊し、駐車場などにして収入が見込めるものに変えていくか、認知症子育て支援、介護などで悩む方の交流の場などとして活用するか。市民の意見を取り入れて、有効に活用していくようにしてほしい。
男性	50歳代	まずは収支ありきで検討すべきだと思う。施設の一つひとつの独立予算でやっていけるような企画を考えたり募集すべき。今の公共施設の配置は、市町合併によって仕方がない事とは思いますが、コンセプトがないように思える。なぜこの場所なのか、誰に利用してほしいのか、その利用して欲しい人へ情報が確かに届いているのか、その検証は誰が行い、責任は誰が取るのかなど、「公共」であるものの「私立」と同様に考えるべきだと思う。
女性	30歳代	飯塚は車いすテニス大会を実施しており特色のある事業である。そのため「飯塚」という地名を広く知ってもらうためにも、これに関する施設は維持していくべきと思う。老朽化した施設は廃止して、今ある新しい施設を残していく方が良いと思うが、その際の交通面も十分に検討してもらいたい。
女性	50歳代	50歳代の夫婦だがあまり使用することはない。若い世代が必要とする施設や、私たちの年代でも必要とする方がいるのなら今まで通り施設はあっても良いと思う。コスモスコモンや図書館、あのあたりに行く事や近くを通ることもあまりない。
女性	50歳代	子どもが小さければ子育て支援センターやプールは必要と思う。
男性	50歳代	高齢化も進んでおり、市町合併で地域も広がっているので、それぞれの地域にある公共施設はできるかぎり存続させ、それぞれの地域の方が利用しやすい形で維持すべきだと思う。市役所の機能についても現状のそれぞれの庁舎を存続させていただきたい。
女性	50歳代	利用がほとんどない施設が本当に必要なのか検討して欲しい。
女性	70歳以上	飯塚市は中途半端な施設が多いような気がする。他市町村で成功している例等を参考にすべきと思う。

■配置について

性別	年代	意見
男性	40歳代	公共施設にお金を使いすぎるのはいけない。公共的に市民のためになってなければ、ならないものについては仕方が無いが、公共施設を無駄にお金を使って建てるのも考えるべきでは無いか。公共施設が集中すると交通の妨げや事故が多発するのではないかと。また、分散してある方が、市内が広いので現行の各方面に施設があった方が良いのでは。
女性	40歳代	郊外に、公共施設がまとまってると利用しやすい。巡回バス等を利用できれば自動車に乗らない方も便利で、他年齢の方と交流する機会も増える。利用頻度の少ない老朽化した施設を維持していくのは安全性にも問題があり、維持費が勿体無い。
男性	10歳代	公共施設は地域の方々と交流を深める事が出来る大切な場所であるため、なるべく一つでも多く残して頂きたいと思う。
女性	40歳代	利便性の悪い場所が多いため、自家用車を保持しない高齢者、子ども、障がいをお持ちでサポートする家族のいない方等にとっては利用したくてもできない現状がある。シャトルバスは分かりづらく、本数が少ないこともあり利用しにくい。施設を利用頻度有無で廃止するのではなく、まずは市民のだれでも公共施設を利用できる方法を最優先して考え、取り組むべき。
女性	30歳代	車を所持していないため、子育て支援センターを利用したいが出来ない状況である。
女性	60歳代	市町村合併に伴い、市域が広くなり、公共施設もある程度分散し存在する必要がある。利用するに当たり、高齢化に伴い施設へのアクセスが不便であると、利用したくても利用できないことが予想される。
女性	50歳代	子ども達が利用しやすい場所にある事が大事。子ども達のため運動場やスポーツの出来る施設の充実を望む。
男性	70歳以上	公共施設を利用するためのコミュニティバスが必要。高齢の為、移動方法が無い。
男性	40歳代	地理地形、交通機関、人口分布など総合的に検討すべきと考える。
女性	60歳代	施設を利用したいが、予約乗合タクシーは移動できる施設が市立病院、せき損センター等で、コミュニティバスにいたっては鎮西公民館迄乗合タクシーで行かなければならず、交通手段が無いため施設の利用ができない。
女性	50歳代	公共施設が分散しているので利用しにくい。健康の森多目的施設を利用したいが交通の便が悪く利用できない。
女性	50歳代	公共交通機関が利用できる範囲内に公共施設を設置して欲しい。
男性	40歳代	公共施設は車がなくても利用しやすいようにJRの駅やバスセンターなどの周辺にまとめていくことが好ましい。
女性	40歳代	公共施設設置にあたり駐車場の確保と公共交通機関が利用可能な場所を今後検討してほしい。両方が整備されないと利用者が限定され利用者減に繋がる。
女性	50歳代	公共施設には駐車場が必要であり、公共施設周辺も美しく整備すれば、利用者も増えるのではないかと。市内の道路事情が悪い。歩道が狭く、無いこともあり、自転車で通行できない。プールは場所が悪いので利用したことがない。子どもだけで行けないため不便。
女性	40歳代	粕屋町の公共施設を参考にすべき。駕与丁公園を中心に施設が隣接し、利用しやすく住みやすい町になっている。飯塚市は、体育館はスポーツセンターとしての役割を果たさず、健康の森公園は不便な場所のうら暗いイメージがあり安全面が低く利用しようとは思わない。
女性	60歳代	図書館を利用したいがバス停から遠く不便のため利用できない。便利の良い場所に設置すべき。
女性	40歳代	飯塚市は他の市町に比べて公共施設が充実していない。施設を集約し新たに建てるよりも莫大なお金がかかる。集約した場合渋滞が発生するので現状態で見直し改善していくべき。
女性	30歳代	駅やバスセンター、病院等と隣接していると利用しやすい。施設内やすぐそばにカフェ・パン屋等あれば利用する。
女性	70歳以上	バス、交通に便利な所で、帰りに買い物が出来立地に公共施設を建設して欲しい。
女性	70歳以上	会議をしたりイベントをしても、交通機関が不便な場所の施設では参加者が少なくなる。特に高齢者は。
女性	40歳代	筑豊ハイツ、エコ工房、健康の森公園の場所をipadで調べた。あまり良くない所にある。
女性	30歳代	人が多く行き来する所(スーパーなど)で、寄って買い物など利用できる所に公共施設が集中できる事が一番良い。(例えば)筑穂、頼田になると遠く感じる人もいるので、そういった地区が利用している所、デパート付近であることについて利用するのは・・・。公民館など年配の方が習い事する場所などは、今まで通りあったほうが良い。グラウンドなど利用料金が安い所があると多く利用する若者は増えると思う。
女性	30歳代	一ヶ所に集めるのであれば、わざわざ行く・行きたい場所にしてほしい。
女性	60歳代	文化施設、スポーツ施設等が分散しており利用しにくい。合併し、各地の特色を生かした場所で集合し、一日ゆっくりくつろげるような施設に公園の併設を希望する。新たに造られる建物には、公民館事業を併設し、合理的にすべきと考える。
女性	60歳代	各世代によって、利用の目的は違ってくるはず。私は60才退職してますから在宅時間が増え、当然健康問題が最大のテーマ。これから、やっとなら公共施設を利用し健康維持を心掛けたいと思うので、軽スポーツができる場所は残してもらいたい。さらに、これからは運転免許を持っている人が増えていくばかりなので、利用場所は分散せずともいいと思う。効率合理化して良いと思う。

性別	年代	意見
女性	40歳代	移動手段のない高齢者や共働き家族が行きやすいような施設が良い。目的のことだけではなく、ちょっとした休けいスペースやスポーツと子育て支援、歴史と図書室など、一ヶ所でいろんな楽しみがあるとちょっと公共利用者は増える。
女性	60歳代	一点集中されたらその周辺は繁盛するが他所は過疎化が進み車に乗れない人達は全てにおいて不便になる。公共の乗り物も本数が少なく、病院の近く、駅の近く等があると便利も良く使用出来るが、自分達の住んでるい所が若者世帯から遠くなって行く気がする。全体のバランス、自然の豊かさを残す等、良く良く考えてほしい。
女性	10歳代	アンケートを受けて意外に利用していないことが分った。庁舎や図書館は利用する事も多いし、書類を取りに行くときに便利なので自転車で行ける範囲が良い。
女性	40歳代	私の住んでる地域は車がないと生活できない場所。自分が高齢者になった時、今のような市の運営に不安を感じる。自分の生活で大変な人がたくさんいるのに公共施設を利用する暇などあるのか？何が一体必要なのかもう一度考えるべきではないか？
女性	50歳代	公共施設の利用者が少ないなら一度必要かどうかを再検討し、料理教室やいろんな催しを考えてはどうか。高齢者の方たちも参加しやすい行事や、近くでできることを考えて歩行でも行ける距離の施設配置を考えてはどうか。
女性	40歳代	主な施設は中央にし、他は月に一回や週に一回などの出張にする等してはどうか。高齢化が進む中、外に出ていけないため中心地を住みやすい便利なものにする事で人が留まると思う。
女性	40歳代	仕事をしているとなかなか公共施設を利用する機会や時間がないが、今後定年を迎えた時、やはり公共施設があるのは有り難いと思う。特に、これからは健康志向も高まってきて、運動や健康維持のできる場所は便利だと思うが、車に乗れなくなった時には、やはり交通の便が良い中心街に1つあったらいいと思うし、中心街にある場合はある程度まとまっていた方が利用しやすいのではないかなと思う。
男性	60歳代	少子化の中、車社会の見直しをして、あまり駐車場に力を入れないでバスやJRを利用できるような施設づくりを考えてほしい。
男性	40歳代	飯塚市の財政状況がかなり苦しいということは知っているが、だからといって市民のために設置されている故郷の施設を減らしたり、統合したりすることは結果的に飯塚市に住む市民の暮らしを不便にし、他の市町村に移住するなどの問題を引き起こして人口減少を招くと考える。そのことが、魅力のある飯塚市から魅力のない飯塚市へと変容を招き、結果的には税収も減少し、財政状況もより悪化するものと考えている。市民にとって、住みやすい市や子どもを育てやすい市を目指して行政を行ってほしい。そのためにも、公共施設の設置に関して地区によって不公平があってはならないと強く感じる。
女性	50歳代	これまで東京以外のさまざまな地域で暮らして来ましたが、飯塚市は、人口の割に対して公共施設(役所・支所を含む)が多いのではないかと感じる。維持費がかかり、勿体無いと感じている。それらの施設を統合し、浮いたお金で公共の交通機関に充ててもらいたい。現在、この地域は車が無いと大変不便であり、生活しにくいと感じている。これ程、バス路線の充実の無い土地ははじめてで、老後、車に乗れなくなったらどうしようかと不安になっている。生活の足の確保は充実した生活の基本だと思う。
男性	30歳代	子どもを持つ親としては、もっと子どもが遊べる屋内施設があったら助かる。有料でも利用する人は多いと思う。例えば、北九州市の「元気の森」のような施設をJRの駅とかの近くに作ってもらえるといいなと思う。
女性	50歳代	施設の情報をよく知っている人と知らない人の格差があり、私も、知らない所、行ったことのない所がたくさんある。どんなことをやっているか、利用料はどのくらいなのか簡単に知ることができたら良いなと思う。活用する人を増やしたいなら、足を運びたいくなる催しをするなどの工夫が必要と思う。特に工夫をやっていない、人も来ないという所があるのなら、存続するかしないかの検討を進めてもいいのかなという気がする。人が気軽に集まれる場所はまちづくりにおいて絶対必要。なんとか活気がでる工夫をしてもらいたいと思う。エコ工場の交通の便の悪さは残念。子どもだけで来れるようになればいいのにと思う。
女性	70歳以上	健康の森広場の周辺にソフトボールができる広場があればいいかと常々思っている。場所を予約するのに大変苦労している。あの周辺が整備されたらなーと感じている。
-	70歳以上	地域住民が利用する施設は、そこに行きやすいように配置する方がよい。
女性	30歳代	小さな子どもや高齢者が利用する施設は、移動の事を考えるとある程度行きやすいように近くにある方がよい。多少利用されているのなら、そのままの場所が良いと思う。車を使って移動する人が来る施設はある程度まとめて多少不便でも移動が可能であれば良いと思う。高齢者や小さな子どもとその親が利用しやすい事を1番に考えて欲しい。
男性	20歳代	市外、県外からの人も利用しやすいように、公共交通機関からアクセスしやすいようにできたら良いかなと思う。飯塚市の人口が減るのであれば、市外、県外の利用者を増やすようにしたら良いのではないかな。

性別	年代	意見
女性	70歳以上	公共施設を利用してみたいと思うが、高齢でもあり、近くのバス停まで歩いて30分かかかるので利用はできない。コミュニティバス等の公共交通をもう少し考えてほしい。
女性	60歳代	公共施設は今のままで良いが交通の便が悪く、高齢者には不便な地区もある。
男性	70歳以上	現存する施設、全てを維持するのは無理だろう。少子高齢化のため無くすものは切り、将来の展望をもって、例えば小年、老年が共に利用し、もしくは見守り合えるような施設を整備してはどうか。
女性	60歳代	穂波地区の秋松に公民館、体育館、平垣に体育館と運動場、ランニングコースがあるが、両方とも老朽化してバリアフリー化にもなっていない。旧町単位で1つの地区にまとめて空調のある体育館や屋内プール、公民館などを3～4階建てで建築。また、運動場もサッカー、野球、ジョギング機能を持ったものに。できれば同じ地域に保健福祉センター(風呂有り)も設置。1つにまとめて駐車場を広く確保すべき。小都市は陸上競技場、野球場と隣にイオンがありお互いに利用しやすくなっている。参考にしてもらいたい。
女性	60歳代	都市への集中を避けるよう、バスなど交通の不便な所に人が集まって楽しく過ごせるような施設が必要だと思う。
女性	40歳代	三世代家族だが、マイカーで施設の利用に行く世代には、場所のことよりも無料駐車場が必要になるが、小中高生や高齢者が利用する場合は場所が重要で乗継してまでは行かないと言っている。また、施設は分散させずアウトレットモールのように図書館、プール、温泉、文化、レジャー施設などを集約すれば世代間の目的も同じになり行きやすい。そこにお店があればもっと良いと思う。
男性	30歳代	教育や憩いの場は分散したほうが良いが、利用者が少ない施設や車での来場者の利用が多い施設は統廃合を検討していただきたい。不要な施設と判定されたものは企業誘致や住宅地として活用してもよいのではないか。
女性	30歳代	高齢者が増えるので、まずは行きやすい目的を作るというのが大切で施設数を減らすのも必要なことだと思う。利用者が少なく維持費がたくさんかかってしまえば基本としてやっていけなくなる。子育て支援センターも少子化と共働きの世の中なので、また車での移動も可能であったりするので数を減らして良いかと思う。実際利用していないし、以前利用した時もほとんど利用者はいなかった。高齢者や教育など、優先順位の見直しが必要ではないかと思う。就学前は意外と親同士で情報交換をしたり、互いの家を行き来するので集まる場所は要らない。大切なのは働く親が子どもが病気になる時の預け先の問題かと思うが、それが解決しないので働けず、納税に影響したり子どもを産まない状況もある。
女性	60歳代	公共施設は自宅近辺にあれば利用しやすいが、少し遠くなればよほどの必要がないと利用することはない。一箇所に集中すればその近辺の人は便利になるが大半の人にとっては不便になる。施設の縮小等がやむを得ないのなら施設を分散して残して欲しい。自宅近辺に自分の必要とする施設がなければ、今でも高い使用料を出して民間の施設を利用せざるを得ないのだから、本当に財政難ならば極端に使用料を抑える必要はないのではないか。官民の使用料があまりに差がある必要もないと思う。トータルな市の財政からこの公共施設の問題も考えてもらいたい。
女性	40歳代	バス停が近いなど公共交通機関の便利の良い場所に集めて欲しい。
女性	50歳代	昨年、地域の公民館活動に参加してその老朽化に驚いた。市役所に行くには交通の便が悪く困難であり、公民館に相談窓口があればと思う。たまに公民館でのサークル(料理教室・生け花教室)にも参加したいと思っている。
女性	60歳代	高齢者が行きやすい場所に施設があればよい。
男性	70歳以上	公共交通機関が多く利用しやすい場所、例えば飯塚駅前の空き地をJR等と共に新規の複合施設として整備し、1階に食品(銘菓、生鮮食品の野菜(地産品))の販売と、午前11時から午後2時まで営業できる定食、一品料理のレストラン、2階は学生等が利用しやすい大ホール、映画館、その他イベントのできるフロアを造り、万一水害等が発生したら防災施設に転用。将来は菟田中学校、嘉穂中央高校の跡地にアクセスするような利用と駅前ビルを第三セクターで運営するような検討をしてはどうか。

■統廃合について

性別	年代	意見
女性	30歳代	利用者が少ない施設、老朽化が進んだ施設、類似している施設は閉鎖し、国際大会等が開催されている筑豊緑地施設等に重点的に力を入れるべき。
男性	60歳代	利用価値の無い、もしくは少ない公共施設等は廃止すべき。特に公民館は現状多すぎるのではないかと。統廃合を早期にすべき。
女性	40歳代	多くの人が利用する施設は維持するべきだが、利用の少ない施設は老朽化を理由に閉鎖すべき。
女性	40歳代	新設はせず既存の建物を利用し、集約できる施設は集約すべき。
男性	30歳代	民間でも運営できる施設は委託し、民間が出来ない事を直営ですべき。保有、維持管理できない施設は廃止しスリム化すべき。県や市がそれぞれ広場やプールを市内に設置しているのはおかしい。どちらか一つでよく統一すべき。
男性	50歳代	利用人員が少ないため公共施設は今後統廃合すべき。
男性	70歳以上	公共施設等で経費が高いものは廃止し、民間にあるものは民間が運営していくべき。
女性	10歳代	現在学生のため公共施設をあまり利用していないが、今後利用する世代になった時、必要な公共施設等が廃止されていたら不便に感じるのではないかと。
女性	30歳代	公共施設の現状は今回の資料で初めて理解できた。公共施設の現状についてもっと積極的に広報すべき。公共施設の料金を値上げすると利用する人が減るため、施設の集約化を早期に検討し、なるべく値上げせずに多くの人に理解してもらうことが大事。
女性	30歳代	子育て支援センターをよく利用しているが、高齢者の方の支援施設と子育て施設が一体化し、トイレなど共有することで、子どもと高齢者のつながりを促進してはどうか。子育てしている人が地域の人と交流できる施設づくりを考えて欲しい。
女性	30歳代	利用者の少ない施設は統廃合すべき。
女性	40歳代	類似施設の統合を図って、分散する施設への移動手段を確保又は拡充する方が良い。広いエリア内では、複数の図書館があった方が便利だが、維持管理費等が多かるため、移動図書館など、統合するための方法を考えてはどうか。
男性	40歳代	合併前の市町村にあった重複した施設は除去・払い下げを行うべき。他市町村には少ない施設は存続すべき(オートレース場、公式戦ができるバレーボール場)
男性	70歳以上	利用者の少ない施設は廃止する。類似の施設は便利は悪くなるが無駄を考えると統廃合し経費削減を図る。学校のグラウンド・体育館を一般開放し、利用者の少ない地域のグラウンド・体育館は廃止する。行政と市民が協力し知恵を出し合うと必ず実現できる。
男性	40歳代	コスモス・図書館・公民館は一本化してはどうか。必要のない施設は廃止・一本化すべき。
女性	70歳以上	公共施設等は、利用が少ない施設は廃止すべき。健康の森施設を利用しやすく(交通機関を良くする等)して欲しい。
男性	60歳代	各地区公民館は使用目的を変えて、コミュニティセンター的な機能をもった施設として運営してはどうか。12地区それぞれに設置する必要はない。
男性	30歳代	レジャー施設は、一部の余裕のある人だけに限られて使用されていると思うので維持しなくてよい。市税を老人施設に使ってほしい。
男性	30歳代	民間の活用を積極的にしていくべき。
女性	30歳代	施設管理人等の人数を含め、すべての施設の見直しが必要。
女性	30歳代	古い施設を廃止。数が多すぎではないかと。
男性	30歳代	スポーツ施設に関しては、ライトユーザーが気軽に参加できるイベント(テニスでいえばクラス別市長杯等)を企画し、利用者とのつながりを作っていくべき。小規模で公共施設がたくさん点在しているので施設を統合すべき。
男性	50歳代	学生や若い人がもっと使いやすい施設にして欲しい。また、小中一貫校の開設で使用されなくなる学校の運動場などの広場は、地域の社会活動の場として是非残して欲しい。
男性	50歳代	今後飯塚市の人口に合わせ統廃合すべき。市民の意見を参考に公共施設のあり方について進めていくべき。
男性	70歳以上	スクールバスの充実と利用促進により、小中学校の統廃合を推進してはどうか。空き施設は専門学校を誘致し有効な活用をすべき。(寮施設等の民間委託を検討)。少子化を考慮し、外国人学生の受け入れを検討してはどうか。
女性	50歳代	体育館やグラウンドなどの運動施設はある程度統廃合したほうが良い。
女性	40歳代	高齢化に向けて年配の方への施設の充実をお願いする。ロコモティブシンドローム等予防の対策、健康でいられる年齢を上げていくようなプール、体操等の充実に加え、働く世代の運動施設、教室等開催できる施設は充実すべき。飯塚市は財政の割には施設が充実しているのではないかと。施設の統合が必要。
女性	60歳代	利用者の少ない施設は廃止してでも必要な施設は充実した利用しやすい施設として保持すべき。
男性	30歳代	全国的な少子高齢化の流れは短い期間で変えられないと思う。その状況の中で最優先すべきは、やはり子育てと福祉に関わる施設。文化的な施設や運動の為の施設を廃止してでも集中的に予算を組むべき。今は利用していないが、リストにある施設はほとんど利用したことがある。便利だと思うしありがたいが、なくても困らない施設もある。民間でやれるものもある。子育てや福祉は生命にかかわるので、賢明な切り分けをして欲しい。
男性	70歳以上	合併前の旧町意識を取り除き施設の統廃合を行い、使い易い施設を保持すべき。経費だけが嵩み機能していない施設は廃止すべき。公民館施設も同様。
女性	10歳代	似たような施設は一つの建物に集約すべき。
男性	70歳以上	公共施設等は市民に直接関係ある施設のため、市役所内部のみで検討するのではなく、第三者の専門家会議や識者会議等を設けて、公共施設等の維持、管理、統廃合等を検討されるよう希望する。

性別	年代	意見
-	70歳以上	今回の市民調査は本庁舎建設に伴い、その費用のしわよせが来て、他の公共施設等の縮小、廃止が浮上してきたものではないか。本庁建設決定前に本庁舎を含んで市民調査をして欲しかった。なお穂波総合福祉センターの様な施設を出張所単位で作り、他の福祉施設は廃止してはどうか。
女性	50歳代	利用の少ない施設は廃止する。沢山の人が利用している施設のみ残してはどうか。
女性	20歳代	公共施設で老朽化したものやバリアフリーでないもの(高齢者や障がい者に負担が生じるもの)から、統廃合などを考えるべき。
女性	10歳代	利用しやすい場所に集約し使用料を低額にしてほしい。
男性	60歳代	統廃合、複合化を今すぐすべき。使用料については収入がある人は使用料を高く設定し、子供と高齢者は現状を維持すべき。
女性	60歳代	必要な施設は残し、不必要な物は閉鎖すべき。
女性	60歳代	合併して飯塚市が広くなり、利用者が多い地域と少ない地域がはっきりしている。飯塚市の人口から考えると施設が多すぎるので減らすことはしかたがない。
女性	40歳代	市の財政が厳しい所に無理な施設維持は望ましくない。最優先を考えるべき。
男性	30歳代	利用者が少ないため支所は廃止すべき。類似施設は統廃合して、集約した方が良い(体育館、図書館などは除く)。類似施設を積極的に統廃合するかわりに、子育て施設を充実させたほうがよい。市のほかの計画(総合計画など)も考慮に入れて、統廃合を進めるべき。
男性	20歳代	必要のない公共施設はないと思うが、市の財源がこれ程苦しい状況である以上、減らせる所は減らし、そこで働く人の人件費も減らしていくべき。文化的施設は、生活に余裕があってこそ利用者も増えるもの。まずは、市民の生活の保障が優先ではないか。
女性	60歳代	無駄を省く事。見直しが必要。今までであったのかという考えをやめる。本当に意義ある施設なのかを検討する。
女性	40歳代	一つの機能を持った施設は箱物が増えるだけであり、また、関係者のみが集まる傾向になるのではないか。保育園児と老人ホームのお年寄りが同じ時間を過ごせる施設として、同じ施設の中に、子育て中の人とお年寄りが自然と交わることができる取りくみを推進してはどうか。利用者を増やす相乗効果があるのではないか。
男性	50歳代	公共施設は災害時における緊急避難場所として利用できればよい。民間が運営できるものは民間に任せ、最小限度の公共施設で良い。
女性	70歳以上	人口減で税収も増えないので、最小必要数で対応してもらいたい。
女性	20歳代	利用が少ない施設は廃止してもよいのではないか。残す施設については駐車場の確保をして欲しい。
女性	60歳代	アンケート用紙を見て、こんなに公共施設があったことに気付いた。ほとんど利用していない。統廃合、複合化を進め利用しやすい施設にして欲しい。
女性	60歳代	ムダな物件、使用頻度の少ない物件は廃止すること。
男性	20歳代	公共施設は統合し、効率的に運営することで人件費等が減らないか。
男性	70歳以上	合併により公共施設が増えた。高齢者にとっては近い公共施設が利用しやすいが、それもある程度の年齢になれば利用しなくなる方が多いと思われる。(介護施設のデイサービスのように送迎があれば別だが)若い人が利用する施設も少子化で利用者は減る。各地域に各種の公共施設が有ることは望ましいが結果的に維持管理は大変。財政上の財源問題も当然だが、人口と利用者数等出来る限り正確な数値を把握して今後運営していただきたい。体育館、武道館の利用日数、利用者数、その他の施設も同様。図書館は各公民館にも設けてある。季節的にしか利用しない施設もあると思われる。合併で類似の公共施設が増え、その維持管理が難しくなり、今後統廃合は避けられない。市民の反対や市議会議員の介入もあるため十分な説明や資料が必要。飯塚市と合併して良かったと、合併前の町民の方からも理解してもらえることが重要ではないか。施設等の場所についてはコミュニティバスの拡充によりある程度解決出来るのではないか。目先だけの改革ではなく超長期的計画ですすめて欲しい。自分達の地区にこの施設を建ててほしい、残してほしいと切望するのならば、それ相当の負担はするべき。
男性	60歳代	収益が上がらない施設はなくし、子育てがしやすい環境を作り、若者が子どもをつくり育てたいと思うような町にしないと益々厳しい環境になるのではないか。
女性	60歳代	公共施設はあまりにも分散しすぎ、無駄が多い。
女性	40歳代	子育て支援施設はなくさないでほしい。立派な施設でなくても、子育てをしている親子がつどえる場の提供を願う。今回のアンケートでこんなにたくさんの公共施設があるのかとびっくりした。統廃合は仕方ない。
男性	40歳代	今後維持できない、古い、利用の少ない施設は廃止やむなしと考える。
女性	40歳代	3の質問で、理想は1-2、2-4であるが改めてお金を必要とするならば、手を入れても利用者が少ない施設は廃業し、核となる施設のみ利用しやすくなる(利用しなくなる)施設にリニューアルする事を望む。
男性	70歳以上	だんだんと歳いく日々、楽しみも少なくなり、歳をとっても人との出会いの場があったらと思う。
女性	60歳代	1. いろいろな施設が1ヶ所に集まる。2. 人口減少のため規模のコンパクト化。3. 利用しやすい(手続き出来る限り簡単に)4. 運営を行政主体から住民主体へ移行する。(ボランティアのような力を育てうまく利用する方向へ)
男性	40歳代	市町村合併をした以上は、ある程度施設の合理化はするべきだと思うが、公民館、支所、図書館についてはある程度分散配置すべきです。テニスコート、野球場等、特定の人が使用する物件は合理化するしかないと考えます。旧飯塚市の一極集中だけはダメ!

性別	年代	意見
女性	60歳代	利用者の少ない施設などは、除く方が税金の無駄使いにならないと思う。
男性	60歳代	公共施設で運営が赤字の施設はなるべく民間に！または廃止するようと思う。菰田原に住んでいるが、小中一貫校で菰田小学校と菰田中学校が一貫校になるものと思っていた。飯塚駅辺りの中学生は一中まで朝通学が大変だと思う！中学校の統廃合も考えものだ。
-	30歳代	ある程度、統廃合していくのは止むを得ないと思うが、公共インフラだけはこれまで同等位を維持してもらった方がいいと思う。高齢化社会でバス等が少なくなると使用されなくなると本末転倒になりかねないと思うから。
女性	40歳代	利用が少ない施設は廃止すべきだと思うが、保健福祉施設や子育て支援施設等にはより力を入れて欲しい。
男性	70歳以上	東の端の住民が、西の端地区の施設を利用する事はない。老朽化の激しい施設は思い切って廃止、整理し(バランスを考える)交通アクセスで市民が動きやすく利用できる施設(既存の施設)を計画し市民に理解を求める。これからの市の現実を見定め、いつまでも過去の夢を追ってはいかん。これからの厳しい時代に向けての覚悟を市民にも持って頂く事だと思う。
男性	50歳代	職員で管理できないのであれば、民間に委託、それもできないなら廃止。若者が住みたくなる町づくりをしないと人口は減るだけ。無税で企業を誘致し、人が集まる環境作りをやって人口を増やすしかないのでは？
女性	70歳以上	公共施設の修理など維持管理が過大な所はメンテナンスをするより取り壊して別の利便性のすぐれた所に新しく建設する。
男性	20歳代	県外から飯塚に移り住んで2年程、こちらに来てから、確かに県外人の視点から見ても人口や年齢割合に比べ公共施設が多いと感じる。私は飯塚市が財政不足におちいる危険性が少しでも感じられるのであれば、必要分以外の施設は廃止していくべきである。
男性	70歳以上	私自身が高齢のため若いもの様に施設を利用していないが、税収の減少で、また市町村合併の目的を生かして施設の廃止、統合を決断すべき。古い施設・設備は捨て必要な施設・設備に投資すべき。
男性	70歳以上	集約・半減に向かうべき。
女性	50歳代	家の近くにいろんな施設がある方が良いとは思いますが、人口減の時代に集約化、一部廃棄はやむをえない。高齢化を考えると、交通機関の利便性の良いところに集約されるのがよい。公民館等は、常駐の職員等を出来るかぎり減らして、定年後の職員の再雇用や本庁で管理する部分(例:施設の予約等)を増やして人件費の削減をはかるべき。各支所も廃棄を考える必要もある。各種証明はコンビニ等の発行が可能になれば来庁する必要は少なくなる。
男性	20歳代	市民交流プラザの必要性がわからない。なくしてほしい。
男性	70歳以上	老朽した施設で利用者が少なく維持管理に費用がかかる施設は廃止する。
男性	20歳代	必要無い物はつぶしたり、統合すれば良い。
女性	20歳代	スポーツ施設を新しくしてほしい。粕屋ドームのような大きく利用者がたくさん入れるもの。古い施設は撤去し、維持費用を少なくするべき。
女性	70歳以上	飯塚市には市町合併によって多くの公共施設があると思う。財政面、利用度、高齢化などによる統廃合は仕方ないと思う。しかし、高齢になると、遠くの公共施設までは行けなくなるので近くの歩いていける所での公民館は残していただきたい。自治会の集まりや子ども会、山笠、いきいきサロン等の利用も多い。
女性	60歳代	公共施設をできるだけ1カ所で1つの建物にまとめる事ができたらと思う。
女性	60歳代	飯塚市は、合併による広域の各地域の施設等をまとめたり、廃止するなど困難なことなのか。早急な取り組みを希望する。税金の有効な使用をお願いしたい。
男性	20歳代	利用者負担の増加は仕方ないと思う。もちろん利用者が少ない施設や老朽化した施設は廃止、統合も仕方ないと思う。
-	-	市役所本庁舎を建て直すようだが、そんな予算があれば他にあってもらいたい。筑豊緑地や穂波福祉総合センター等のようにいろいろ入っている施設があれば、いろいろな世代や家族連れの方と会う機会も増えるので子どもも楽しめると思う。
男性	50歳代	所説の統合及び活用の少ない施設は廃止閉じると良い。市の財政・財源不足の緩和に努めるべきと思う。高齢化の進行により利用者も少なくなっているのであれば、理解してもらえと思う。土地・建物は企業及び開発会社に売って、財源の補充に充てると良いと考える。「市営住宅をつくって下さい」と考える人がいると思うが、後々を考えると両策だとは言えない。やはり企業が住宅(マンション他)をつくり、共働き世代の入居を促して、若い市民を増やすことが大切ではないか。それぞれの問題にも関係してくると思う。
女性	30歳代	車を所有していない市民が利用する施設の場合は分散している方が良いと思うが、公民館やグラウンドは集約しても良いのではないかなと思う。
-	70歳以上	社会保障の削減は困難と思われるので、少なくとも公共施設の床面積は全国平均程度に早急に引き下げて良いのではないかな。
女性	30歳代	公共施設は子育て中の親にとっても助かっている。だから税金を使って綺麗にしていだけると嬉しい。高い税金を払っているのに将来の子どもたちの遊び場、ふれあいの場を減らされるのは大変不愉快だ。他市にある施設のように屋内施設を2箇所程度整備したりするのなら利用の少ない古い施設や公園は減らしても良いと思う。
男性	60歳代	飯塚地区(旧飯塚市)の公民館は多すぎる。3箇所程度に減らして良いと思う。

■運営について

性別	年代	意見
男性	50歳代	市民が興味を引くイベントを考え公共施設に市民が集まる工夫が必要では無いか。
女性	40歳代	コスモスコモンはもっとコンサートや講演会など開催し利用者増を図るべき。また駅やバスセンターから遠すぎ不便である。
女性	30歳代	施設を利用してもらうようにPR又はイベントを随時開催すべき。年間の目標利用者数を設定し、それでも目標に達しない(採算の合わない)施設は廃止(統合)すべき。また、施設を利用したいが、機会がない、交通手段がない等利用できない方に対しニーズ調査を実施し、施設利用者の増に努めるべき。生涯学習として犬のしつけ教室、園芸講習会、スポーツ教室等を公共施設で開催すれば利用者が増えるのではないかと。
女性	50歳代	公共施設と民間とが一体となり、民間にも利益が入り、皆が利用しやすく楽しめる施設にすべき。今は特別な人でないと利用できないと感じている。具体的には、施設の中に入る本があったりお茶を楽しめる所があれば、それらの利益が入るのではないかと。
男性	60歳代	公共施設の利用者増を図るには、高齢者を対象とし各施設(文化、健康、スポーツなど)を有効利用する為の企画、運営、宣伝に力を入れるべき。
男性	50歳代	1. 笠城公園は、遊具の設置やキャンプ等ができるようにすべき。そして広く宣伝すべき。土地はあるのに非常にもったいない。2. コスモスコモンに一級クラスの有名人を呼びコンサート等多く実施し、福岡、長崎、大分等大きな県へ宣伝する。それによって利用者呼び込む事ができるのではないかと。又その機会を利用し飯塚の名物等をアピールし、また来てもらえるよう努力すべき。
女性	70歳以上	公共施設は、市民の文化・教養・体力向上等最小限度必要と思う。市の予算も大変な中、智慧を出し合って無駄を削減し、有効で健全な運営を希望する。
女性	40歳代	公共施設を利用するが、感じのいい方と感じの悪い方がいる。感じの悪い方がいると二度と来たくない！！
女性	60歳代	公共施設に携わる人が多すぎる。人件費の削減をお願いしたい。
女性	40歳代	図書館は、いろいろなイベントを企画されていてとても魅力的である。こういった企画は今後も続けてほしい。
男性	20歳代	公共施設を利用したイベントを盛んに行ってほしい。足を運びやすくして、活気が溢れる町がいいと思うので。公共施設はその町、その地区の顔である。立派でなくてもいいけど、どんな時にもたくさんの方がいてにぎわっている所がよい。バーベキューとかができる場所が欲しいです！！公共施設等の存続、応援しています！
女性	30歳代	市営球場は残してほしい。旌忠公園は人が少ないので、イベントなどをして人が集まる環境にしてほしい。
女性	50歳代	図書館を最も利用しているが、夏場はほとんど冷房がきかない為利用しづらく、近年は暑い時期は利用を諦めている。委託業者に聞いたら、設計上太陽光が直に入ってくる部分があるので、エアコンは普通に入れておきにくいとの答。しかし、以前はここまで館内が熱くなかったし、天井がガラスになっているところがあるのが原因というならば、夏場は日射をさげざるためのおおいをするなど、工夫できるはず。そういうことをせずに、利用者がいつらい、汗がふきでる図書館というのは、委託業者がエアコン代を節約するせいかもしれないと考えると。昨年、館内にこんな貼り紙があった。「館内が熱いので熱中症に注意して。・熱中症予防のため、飲み物を持参して。・飲み物で本を汚さないように注意して。もし汚した場合は弁償してもらう。」弁償などということばを出す前に、落ち着いて本を読んだり選んだり調べ物をしたりできる環境に整えられるべき。なんのために税金払ってる？
男性	30歳代	図書館に一回行った事があるが、本が少なすぎてびっくりした(コミュニティセンター内の図書館)
男性	60歳代	筑穂地区の入浴施設の件で、現在筑穂保健福祉センターで週一回利用できますが、週一回は少ない。健康管理の為にも最低週2~3回は利用できるように考えてほしい。
男性	40歳代	維持管理が大変になる(少子高齢化のため)のは分かっているので、必要最小限にした方が良くと思う。グラウンド、福祉施設、文化会館などは、公共施設として管理する。あとは、民間へ譲渡した方がいいと考えます。例えば、図書館はツタヤへ、つまり、人が集まりやすい(集客しやすい)施設は民間へ任せたい知恵もできると考える。
男性	60歳代	公民館サークルを始めたいが定員が少ないため利用を拒否される場合があるとのこと。書類上に集めた人員ではなく本当にサークルで学習したい人のために人数に制限なく開放していただければ利用者も増えるのではないかと。
女性	70歳以上	高齢になると出不精になり、家に閉じこもりがちになって運動もなくなる。したがって、せめて居住地の公民館くらいまでは出て歩き、リフレッシュしたいと思っている。そのためにはまずは足の確保だと思う。最近は街なかバスなど工夫されているようだが、公共交通機関を利用してより多くの方が公共施設に集まれるよう、また公共施設での行事等も多種多様な催しになるよう工夫が必要と思う。
女性	20歳代	もっと、公園の遊具を増やすなど整備してもらえたら嬉しい。アスレチック的なものとか、子どもが安全に楽しく親子で遊べるようなところがあつたらいいと思う。
男性	50歳代	公共施設はその地域の情報発信をする場であり、また、災害時の緊急避難場所にもなるので、それら設備も考えての活用と、子どもも大人も行きたくなるような行事の開催などをもっと考えてほしい。
男性	60歳代	高齢者が増加しているので趣味で利用する施設があれば良いと思う。今まで通り公民館等を利用しているが、時間が短いので物足りなく、時間を長く利用できるように見直しをお願いしたい。二瀬地区の老人センター等の経営も少し考えてみたらどうかと思う。風呂や休憩所等の利用方法を見直したらどうか。
男性	10歳代	公園の遊具が古くなり、子どもたちが怪我をするかもしれないので、新しい遊具の設置や、高齢者が軽い運動ができるような用具を公園に設置し整備したら良いと思う。

性別	年代	意見
女性	50歳代	いろいろな施設があった方がいいので外部委託とかの方法で維持して欲しい。
男性	30歳代	屋外運動施設について。私はランニングを趣味として行って、仕事帰りにランニングを行うが、夜でも明るい運動施設が増えると幸いだ。穂波グラウンドは明るくてよいが、福岡市の大濠公園のような場所になってほしい。夜間でも、多くの人が安心してランニングできるような場所で、その結果、多くの人がランニングすることになり、周囲にもよい影響があると思う。
女性	60歳代	各地区で一年間開催する体操教室があればと思う。今はあちこち分散して行われており、車を運転しない人は参加したくてもできないのではないかと。少しでも多くの人に参加できるような工夫をお願いしたい。
女性	50歳代	廃校になった小中学校舎を地域に開放して再利用したら良いと思う。カフェとかサークルとか、気軽に集まれる場所があれば駐車場もグラウンドも利用できると思う。
男性	10歳代	各運動施設の室内スポーツの備品充実が必要。
女性	60歳代	今の公共施設の問題は、今ある建物を有効に利用することが大切で、それは建物でなく、開催している内容や地域の組織や、リーダー、仲間関係の問題だと思う。
男性	10歳代	コスモスコモンでもっと人が集まるイベントやコンサートをしたらどうか。皆が利用したくなるものにしなしてもらいたい。
-	60歳代	高齢者の人口割合が多くなっており、若い人に比べて公共施設の利用度は少ないと思う。外へ出る機会づくり等、高齢者が参加できるプログラム等を考えていくのも一つの方向だと思う。
女性	10歳代	図書館に個室の勉強スペースを増やす等の環境整備をすると良いと思う。
男性	30歳代	車で動いていると広場がいくつも目につく。ゲートボール等の一部の人が利用している場所もあるが入口も入れないようになっている。そのような場所はおかしいと思う。皆に開放して欲しい。
女性	30歳代	陸上競技場のトラック等を整備したらもっと利用しやすいと思う。せつかく駐車スペースも広くあるのもつたいない。

■ 駐車場について

性別	年代	意見
女性	40歳代	第1体育館はよく利用しているが、建物が古く、駐車場が少ない。プールは郊外にあるため、子どもたちだけで行けず不便。運動施設について情報量が少なくアピール力が足りない。
女性	40歳代	公共施設を団体で使用する際には駐車場の広さや、周辺の駐車スペース有無などを考慮して利用するため、駐車場整備についても考えるべき。
男性	50歳代	施設を集約する場合駐車場等の問題が生じる。同じような施設を統合し、併せて駐車場の整備を考慮すべき。緑地にあるジム器具を健康の森に移し、室内テニス練習場(スカッシュ)やプールについては、リハビリ目的の使用(歩行用や足湯)に変更してはどうか。
女性	30歳代	各施設、駐車場を整備すべき。
女性	60歳代	駐車場をもう少し増やして欲しい。
男性	50歳代	市営駐車場(河川敷駐車場)になかなか置けない。多分無料だから殆どの車が置きっぱなし状態。民間駐車場よりやや低めくらいにすれば良いと思う。集まった料金は税金の足りない分に補うように。一部は民間に委託してもよいと思う。
女性	70歳以上	近くに無料駐車場があれば利用しやすい。
女性	60歳代	施設には、駐車場があると利用しやすいと思う。新飯塚駅前を利用したいと思うが駐車場がない。公共交通機関が自宅から不便で、近くの駐車場も空いているかわからないので利用していない。有料で良いので駐車場があると利用できる。
女性	70歳以上	東町駐車場を無人駐車場にして下さい。気を使いたくありません。
女性	20歳代	個人的な意見になるが、図書館は学生から高齢者まで多くの人利用するため、誰もが利用しやすいように駐車場の無料化など多くの人利用できるよう工夫してくれると利用率も増えるのではないかと。
女性	30歳代	勝盛公園をよく利用する。池があり、コイ・鳥がおり、ウォーキングしている人がいて、スベリ台などとてもいい所だと思う。もっとあの場所をイベントなどに利用すれば人が多く来るのではないかと。でも駐車場がせまい。
女性	50歳代	飯塚市民の交通手段は自家用車が不可欠だと思う。その状況の中で駐車場代を個人負担せねばならない施設は使用しづらいと良く話に上がる。コスモスコモンや飯塚市立図書館は、駐車場代のサービスがあっても利用の際はサービス以上の料金がかかる。立派な施設であっても市民が進んで利用できる施設でなければ、利用者は増えないと思う。もっと市民が使いやすくなるにはどうしたら良いかを、ハード・ソフトの両面から考え直してもらいたい。
女性	50歳代	市の中心部に、習い事やサークル活動、運動等利用できるシンボリックな公共施設があれば利用したい。また、市の中心部に無料の駐車場があると公共施設の他にも商店街の利用も増えるのではないかと。
女性	30歳代	新飯塚駅周辺の駐車場が少なくなり、利用できないことがある。マンション建設で駐車場が少なくなった。
女性	60歳代	無料駐車場が十分に確保できる場所や高齢化が進む中、高齢者も気軽に利用できる場所も条件になると思う。
女性	30歳代	多くの施設を数箇所まとめ、駐車場を広く準備した方が利用しやすい。
女性	20歳代	未就園児の子育て中であり、子育て支援施設とその他公共施設を頻りに利用しているが、イベント時に施設の駐車場が不足していることが多いと感じる。施設を集約するのなら駐車場の拡張と、イベント時の特に臨時バス等運行を行わなければよりよくなると思う。同じような広い施設が多く、頻りに利用されておらずもつたいないと思う施設が正直いくつもある。浴場施設が多いのも若者には不思議。大規模施設の数を減らし、各公民館(小規模施設)等を新たに利用しやすくしてはどうか。または、大規模施設と公民館を統合することはできないか。保健福祉施設の中に公民館があっても良いと思う。

■使用料について

性別	年代	意見
女性	60歳代	公共施設の維持管理が必要なら適切な利用料金を設定し、その範囲で維持・管理が出来なければ、すみやかに廃止すべきである。
男性	50歳代	利用料金はそのまま今まで通り利用したい。後世の人々のためにも存続すべき。
女性	30歳代	高額な費用を投資して新築するのはやめるべき。建築の際は利便性の高い(市街地等)ではなく、土地の安価な場所にすべき。施設利用料を無料から有料にしたり、若干の値上げをすることで維持していくべき。
男性	50歳代	健康の森の屋内トレーニングジムは、料金的に大変利用価値のある施設なのでこのまま維持して欲しい。
男性	20歳代	健康の森を無料化すれば利用者が増えるのではないかな。
男性	20歳代	飯塚市民だけじゃなく他の地域の方にも同じ金額で利用できるようにしてはどうか。
女性	30歳代	飯塚第1体育館は料金が高い。値段を下げ、回転を多くした方が良い。子供が安全に遊べる施設が増えると良い。
女性	50歳代	図書館の貸し出しは1冊10円程度の有料化でも良いのではないかな。他の施設は有料なのに図書だけ無料というのはおかしい気がするし、少しでも収入があれば増冊するにも負担が軽くなるのではないかな。
男性	50歳代	公共施設の利用料金が安すぎる。高く設定してもよいのではないかなと思う。無料の施設はなくし全て有料にする。
女性	40歳代	子どもたちが大きくなるにつれ、公共施設も使わなくなり、時間と余裕がない。利用するとしても無料施設じゃないと・・・
男性	70歳以上	趣味の為の利用は負担させた方が良い
男性	30歳代	野球・テニスなどは使用者が限定されているので、使用料など高くてもいいのでは？野球場とグラウンドは同じでもよさそうだし。使っていない場所も多いんじゃないかな。私自身、2-2の内で使用した事が有る場所の方が少ない。ある事すら知らない所も有る。
男性	40歳代	例えば、緑地プールは高齢者がかなり低料金、子供と親で行くと高いのは如何なものか。
女性	60歳代	定年後はいろんな施設を利用したい。使用料は少ない方がいいが、維持管理のための使用料は必要。ボランティア等でできることがあれば協力したい。
男性	10歳代	図書館は情報源や学習室として全部残してほしい。収入のある方の利用が多い施設は使用料を高くし、野球場、テニスコート、プール、歴史文化施設、公営住宅は民間に委託してもよいと思う。
男性	20歳代	コスモスコムの使用料が高い。本当に高い。
女性	30歳代	公共施設等はなるべく残してほしいが、税収が減っている中、それらの施設の維持管理費を捻出していく事は困難であるとも感じている。行政職員の方々の苦勞も大変で、そのためにパート・アルバイトなどを雇い、またその費用が発生するという循環が行われているように思える。よって、使用料を値上げしてまで残すのではなく、多少の施設縮小は止むを得ないのではないかと考える。
男性	40歳代	使用料の値上げと必要性の低い施設を廃止すべき。飯塚は土地が安く、マンションを安価で購入できる。新飯塚駅、飯塚バスセンター、飯塚駅周辺に公共施設を置き、福岡まで50分以内で住みやすい街をPRし、マンションを誘致する。人口を増加させ税収を増やすよう計画してはどうか。
女性	40歳代	子どもがサッカーをしているが、中学校のグラウンドが狭いため、自校で試合ができず、またいつも同じ相手と試合しても強くはないだろうという事で、遠くへ試合に行くか、有料グラウンドを取り遠くのチームを呼んでいる。遠出は、他の子どもを乗せて行くので親の責任も重く感じるし、有料グラウンドを取ればその分、部費でまかなえなくなるのではとも考える。子どものためにいろいろなチームと試合をさせ経験させたいので皆で協力しているが、学校のグラウンドが使えれば遠くから他チームを呼ぶ事もできお金もかからない。年代によっていろいろあると思うが、学校の整備してもらえば有料グラウンドの使用頻度も減りグラウンドを縮小できるのかなと思う。
女性	40歳代	使用料を上げる事は不可欠だが、かえって利用者に不満がでて利用も減ると思う。老朽化していくのに値上げは心情的に受け入れ難い。武雄市の図書館のような取りくみは検討できないか。せっかく市内に大学があるのに、学習施設や体育施設等の立地がバラバラで使いにくいと思っている。コスモスコムもJRや西鉄からのアクセスの良い場所でない、時間とお金にゆとりのある60代以上の人以外には使いづらいのではないかな。結果、乗客にも関わってくると思う。
-	70歳以上	スポーツ関係施設は利用料金が少し高くてもよいのではないかな。公民館や体育館の利用は、小・中高生は料金を低くし、成人からはもっと高い料金を貰って良いはず。バレーボール、バスケットボール、バドミントン等々での2時間くらいの利用で団体では1人100円程度とは考えられない。民間の施設と比較し検討すべき。
男性	40歳代	使用料が少し上がっても利用する人は利用すると思う。維持していくために市民税等が上がるのならば益々飯塚離れが進むと思う。
女性	70歳以上	公共施設の利用には、ある程度の受益者負担が必要だと思う。
女性	60歳代	税のムダ遣いをしないためにも公共施設はよく検討し、維持管理のためにも受益者負担の原則として使用料をある程度もらった方が良くと思う。公共施設は税金でつくっているのにタダとってる人が多い。啓発のためにも使用料の見直しが必要。
女性	60歳代	使用する側としては、使用料金が安い方がありがたい。いろいろな施設があるのなら、それをもっと使用してもらえるように宣伝するべきだと思う。合併して箱物といわれる建物が多くなったと思う。建てた以上は活用できるように市として努力すべきだと思う。
女性	60歳代	他自治体の歴史館では、駐車場が市民は無料で、市外の方のみ有料だったが、そのような方法も良いのではないかな。
女性	40歳代	コスモスコム駐車場の金額が高過ぎ。市営であればもっと安くすべきではないかな。
女性	40歳代	使用料が安すぎる。児童、学生は低料金でいいが、高齢者を含む社会人は民間より少し安い程度に設定し受益者負担を徹底してはどうか。人口流出を少しでも抑えるため、せめて義務教育までの子どもたちが利用できる施設はある程度残した方が良くと思う。リハビリや機能訓練教室等を除き、一律に高齢者、障がい者の割引をするのはどうかと思う。払える方は払ってもらって、そのつけを子どもや孫に残さないようにすべきではないかな。
女性	30歳代	図書館は頻繁に利用している。プールを利用したことないが今後利用してみたい施設でもある。使用料が安いというのがとても助かるが、値上げしてしまうと使用を控える方が増えると思う。
女性	40歳代	テニスコートやグラウンド等は子どもたちが使用することが多いと思うので残すべきだと思う。そのために一回の使用料を少し値上げすることは仕方ないと思う。

■情報提供について

性別	年代	意見
女性	40歳代	公共施設を利用しない理由は施設が存在やサービス内容を知らないため。施設の内容を分かりやすく、多くの人が施設を利用しやすいように広報すべき。利用していない公共施設は廃止すべき。
女性	50歳代	公共施設について宣伝不足。
女性	60歳代	どのような公共施設があるのか知らない。利用料が高いと利用しない。免許を持っていないので利用したくても行くのがたいへんで行けない。健康のためにと現在、他の市にあるプールを利用しているが、きれいで金額も比較的安い。歩く専用のプールがあり遠くても利用したいと感じる施設。このような施設が市内にあるといい。サークルなどコミュニケーションがとれるものであれば参加したいが、どのようなものがあるのか分からない。
男性	40歳代	利用価値の少ない物は建設しないで欲しい。また、施設の宣伝が大切。
女性	40歳代	テニスコートや野球場等の施設がこんなにあるとは知らなかった、利用したいのでマップや料金表を作成してほしい。
女性	50歳代	どのような所に施設があって、施設の利用内容が分かる広報をした方が良い。町内の回覧板が廻ってこない家では全く飯塚市の動きが分からない。
女性	30歳代	飯塚市に移り住んで1年以上経ちますが、公共施設がどこにあるのか、何があるのかいまいち分からない。もっと周知すべき。
女性	60歳代	施設の統合などをするのは良いが、無駄に税金を使用しないでほしい。各々の施設の取りくみなどをもう少しわかりやすくPRしてほしい。どの施設がどういう活動やイベントをしているかわからない！！飯塚市というくくりで施設を統合すると交通の便も悪くなるのでコミュニティバスやシャトルバス等の充実もはかってほしい。
女性	60歳代	公共施設はある程度分散している方が自宅の近くで活動できるので良いが、せっかくの施設を少人数で利用するのではもったいない。それならば、たくさんの方が利用できるようにまとめてしまうか。そうすると交通の便が大切。これからどんどん高齢化してゆく中、なかなか難しいと思うが、サービスの提供と同時に税制も考えていかないといけない。そして施設をしっかり活用するため、施設の事務所や活動内容等をもっと市民にアピールすることも大切なのでは！？そのためにはこのアンケートもGOOD！！
男性	30歳代	各施設における年間の利用者数、及び使用料など数値化した資料を知ってみたい。(年間に係る経費、維持費を含む)
女性	40歳代	飯塚市に公共施設が多いという印象はなかった。せっかくの施設を知らない人も多いと思う。より効果的な活用を市民と共に考えてほしい。老朽化した施設の維持は維持費がかかる上に危険だと思う。
男性	50歳代	図書館に対して。アピールが不足している。どこに図書館があるのか(場所がわかりにくい)。駐車場の件(有料で図書館使用したくない)
女性	30歳代	どんな人でも行けるように公共施設料や公共施設内容をもっと分かりやすく、身近に感じられるようにしてほしい。広報だけでなく、他にいろいろな方法で飯塚市民がみんな利用しやすい内容の物を考えれば、今まで利用してなかった人も利用するようになると思うし、料金を上げなくても利用者が増加すれば古くなった施設を少しずつでもきれいにしていけるんじゃないかと思う。
女性	30歳代	今までの全ての公共施設等を将来にわたって保有し、維持管理していく事が非常に困難になると想定されているにもかかわらず、100億円以上もかけて新しく市役所が建てられるのは、どういう事なのか。とても理解できない。その現状を知らない人も多く、知ろうとしない市民も悪いがそんな情報を知る場をもっと設けて説明してほしい。そして年に一度も行くかどうかかわからない市役所を立派に建てるお金があるのなら、福祉などに活用してほしいし、市役所よりもみんなが利用する筑豊ハイツや図書館、コスモスコモン等の維持に充ててほしいと思う。お金が必要な場所は他にもっとあるはず。それを見極め、的確に賢く費用を使ってもらいたい。飯塚市民みんなのお金なのだから。そして、このアンケート結果もちゃんと反映させてもらいたい。
女性	20歳代	地元の施設をもっと有効的に使いたいとは思いますが、どこに何があるか、どんな施設なのかをいまいち把握できていない。各施設の良さをもっと発信してほしい。
男性	30歳代	色々な施設があるようですが、利用したくても場所が分かりません。定期的に、公共施設の一覧Mapなどを配布したり、情報を周知していけば利用率も上がるのではないかと。
女性	50歳代	飯塚に住んで、合併等でどこまでが市の範囲なのかわかりにくいと思った。公共施設がどこに何があるのか未だによく分かっていない。これでは利用の仕方わからない。子どもが育ちあがった後に市に移り住んできたなら、情報もなかなか伝わって来ない。アンケートを見て、こんなに施設がどこにあるの？という印象だ。もう少し、市民が公平に市の施設等を利用できるように施設の場所や内容をわかりやすくしていただきたい。
女性	30歳代	文化・運動施設が多いのは心身の健康維持のために非常に良いことだ。他の市よりも多いことをもっと公言して人口を増やすことで利用者を増やせば、施設の維持にも繋がらないか。施設をコンパクト化することもムダを省くために必要であるが、ムダと決めつけるのではなく、住民のメリットとして皆に知られるように、また人口が増えるように努力することが必要だと思う。
女性	40歳代	公共という場を大切に使用している側としては、いろいろな面での迅速な対応をしていただけると助かる。老朽化した施設でも住民としては大切な施設。運営をまかせている人たちに責任を押しつけるのではなく、市としても顔の見えるような対応をしてほしい。もっと、市民の声を聞く場をつくってもらいたい。
男性	40歳代	市民の事を思ったの取組であれば良いと思うが、認知度の低い施設があるので、まずは知ってもらうことが大事。広く周知を行い利用者数の増減を把握してみてはどうか。例えば健康の森のジムやプールはとても利用しやすい施設だが、私のまわりでは2割程度の人が知らない。
女性	40歳代	どんな公共施設があるのか分からないので、もっと分かりやすく情報を周知すると利用者も増えるのではないかと。
女性	30歳代	公共施設を利用したいとは思っているがなかなか利用する機会がなく、実際どのようなものがあるのか分からない。(サービス内容等)どこに何があるか等をもっと分かりやすく周知してもらえたら、今後利用してみようという気になると思う。

■その他について

性別	年代	意見
女性	70歳以上	高齢者の健康のため空地にグラウンドゴルフ場を(桂川手本)作ってはどうか。
男性	10歳代	近所に2~3年前につくられた多目的グラウンドが2ヶ所あるが、門にカギがかけられているため使用することができない。公共施設の安全性を確保するためだと推測するが、朝の9時から夕方5時まで(日が暮れていない時間)グラウンドを開放してはどうか。
-	-	菰田にはグラウンドが少なく高齢者の人達に楽しく運動が出来るよう菰田総合グラウンドを設置してはどうか。
女性	40歳代	民間のレコード店(飯塚市にある)と図書館を融合してはどうか。
女性	50歳代	プールに行きたくても市役所に行きたくても、バスにも乗れずに買い物にも行けずに困っている。
男性	20歳代	公共施設の中でトイレが不衛生なところがあるので今後は各公共施設の「トイレ」を綺麗にし、それを維持してほしい。それぞれの地区ごとに路面が整備された小さな公園を増やすべき。おしゃれを意識した公園にし、コミュニティの場として活用する。若い世代の市民が落ち着いて利用できる公園にしてほしい。若い世代の人が暮らすために今後は「おしゃれ」を意識した公共施設にするべき。
男性	10歳代	ある程度の集約は必要。維持管理は利用者のことも考え修理及びメンテナンスが必要。そこにあるだけでは利用されない。車いすテニスの為だけにテニスコートの整備をするのであれば市民の使うコートと別々にしてほしい。車イスを基準にすると全てハードコートになり利用しにくい。
男性	60歳代	飯塚市の体育館の場所に飯塚オートのサテライトを設置してはどうか。市の体育館は別の場所へ移動すべき。
男性	60歳代	とりまとめる意見が出てきたら飯塚駅前の空地を利用して複合施設を作ってはどうか。
男性	40歳代	飯塚市に大きな武道場を設置してほしい。
女性	40歳代	公共施設を頻繁に楽しく利用している。
男性	70歳以上	後期高齢者が増えると思うので、グラウンドゴルフの施設が欲しい。
男性	70歳以上	美術館を設置してもらいたい。
-	-	公共施設を、飯塚駅通りや本町にも皆が気軽に利用できる物を考えて作ってもらいたい。
-	-	高齢の為、公共施設他利用していない。
女性	70歳以上	社交ダンスができるように体育館施設を整備してほしい。宗像、筑後方面2・3ヶ所、福岡(ふくとピア)、大刀洗(ドリーム)、小郡(七夕会館)、宗像(ゆりっくす)等他市では利用できる。
女性	50歳代	ドッグランを整備してほしい。
女性	20歳代	子どもが安心して利用できるようにしてほしい(清潔・安全)
女性	30歳代	子育て中なので、幼児に優しいところは行きたいと思う。「トイレなどがキレイ」「オムツ替え等で使いやすくなってる」等、今の私はそういった所に目がいく。
男性	10歳代	昔からコスモスコモンにはお世話になっていた。それがなくなるのは個人的にさびしいです。
-	60歳代	コスモスコモンに有る様な訳の分らんモニュメントは完全にいらぬ。その分予算を施設費に廻した方がよい。
女性	40歳代	公共施設をこれまで通り運営する為に市議会議員を減らしたらその人たちのお給料でまかなえるのではないかな。
女性	10歳代	飯塚市営テニスコートが地面がポコポコしていて試合に影響する。せつかく8面もあるのできちんと整備して使いやすくしてほしい。車イステニスもあっているし、市営コートでもできるようにしたらどうか。陸上競技場の奥なので知らない人はテニスコートがあることもわからない。わかりやすくしてほしい。テニスコートの上に駐車場を作してほしい。
女性	20歳代	駅周辺に色々な施設又は飲食店等があれば、飯塚住民だけでなく、他の市に住んでいる人にも利用してもらえる機会が増えると思う。広告等使ってもいいかもしれない。
女性	30歳代	子育て、老人福祉に関する施設は存続。
女性	10歳代	維持がんばってください。
男性	60歳代	筑穂地区にお風呂が有ればと思う。そうすれば高齢者の方の楽しみも増えて、友達もたくさん出来るような気がする。認知症の予防にもつながると思う。
男性	30歳代	コスモスコモンへの経費がかかりすぎではないか？音楽祭の為だけのコスモスコモンではないかとグチをこぼす人もいる。
男性	-	まったく意味のないおたずね。公共施設が大事ですか？
女性	20歳代	筑穂地区には、公民館(大きいもの)、体育館、図書館が1つずつしかありませんので、それらの公共施設が無くなってしまふのは困る。難しいこととは思いますが、なんとか維持してほしい。
女性	50歳代	飯塚市はグラウンドゴルフの出来る施設がない。今後の楽しみの1つになりえるグラウンドゴルフの施設を造ってほしい。
女性	40歳代	公園がもう少し多くあっても良いと思う。
女性	40歳代	飯塚市も、武雄市や北九州市のような大胆な改革が行われれば良いのにと。もっと全国展開して成功している民間企業を参入させてはどうか。コスモスコモンにスターバックスが入ったり、図書館の本にしても、センスのいいCDやDVDがセレクトされていたら嬉しい。図書館の視聴スペースは、ブースが少なく1日に利用できる人数もとても少なくて効率が悪いと思う。申込んでも使えないし、仕事が終わった時間に行っても閉館している。仕事を持つ人には役に立っていない。

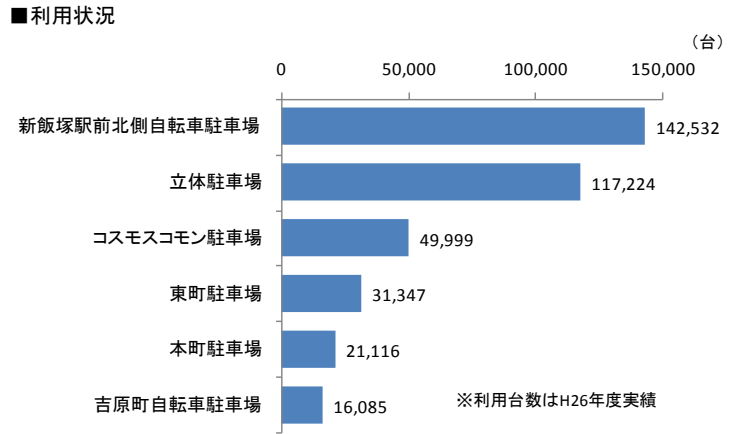
性別	年代	意見
男性	70歳以上	筑豊地区ではリーダーだった飯塚が今は田川や直方に押されている。例えば田川では美術館”夜の美術館”コーヒータ イムなどあり、県立大での公開講座など申込者多数。飯塚でも近大、九工大で公開講座があったがその比ではない。た だし歴史資料館での講座は人気があった。直方にはレトロな街なみや複合映画館があるのが強みで、集客もイオン人気 でアップしている。飯塚には3つの劇団があるのでコスモスコモンをもっと利用しやすくし、映画も多く上映するなど工夫し てはどうか。飯塚市在住者の文化度はダウン。
女性	40歳代	図書館・公民館などは身近で生活に密着しており、多くの世代が利用しているので、その地域で現状のまま維持してほし い。野球場やグラウンドは利用する世代に限られているが、健康維持や交流など、今後も必要な施設であるので維持し てほしい。特に子どものスポーツの場としてこれまでも利用してきたので、少子化ではあるが、子どもたちのために残して ほしい。合併したため、財政困難が特化されているように思える。他の行政サービスの見直しをお願いしたい。また、どう しても老朽化している施設に対しては、建設費を投入せず縮小してもよいと思う。
女性	10歳代	図書館は無くしてほしくない。
女性	40歳代	子どもが中学になり、現在はあまり利用していないが、小学生の頃までにはいろいろと利用していた。費用の面で維持が 難しいこともあると思うが、できれば残していただきたい。子どもはテニスコートやプールなど、いろいろなところを利用し ている。子どもだけでも安心して送り出せる施設が多いことはとても助かっている。
男性	60歳代	この調査は「公共施設を継続的に提供するため」なら、なぜ、所轄の課が調査しないのか。また、「別紙」を見れば、調査 は見せかけですでに統廃合を決めているのではないかと。「別紙」のように財政事情が悪化しているのなら、庁舎の新築を はじめ、「箱物」の新築が行われていることの理解に苦しむ。新たな箱物を維持する時にこそ、「市民調査」を行うべきだ と思う。
女性	70歳以上	他市にある美術館が市内にない。
男性	50歳代	公営住宅は、必要な戸数のみを維持すべき。
男性	50歳代	公営住宅を高齢者が利用しやすいように増築や整備をすべき。高齢者優先の物件があっても良いのではないかと。極力 高齢者や低所得者が優先的に入居できるシステムにするべき。
女性	40歳代	公営住宅をもっと整備してもらいたい。
女性	20歳代	子どもが安心して遊べる公園を増やしてほしい。最近は草がはえたり、ゴミも多く、安心して遊べないため外で遊ぶ子ども が減っている。
女性	20歳代	飯塚市は前に住んでいた場所に比べると、非常に子育てがしにくい。子どもが少し遊べる様な小さな公園が少ない。公園 を作り、子育てしやすい環境、人と人がふれあえる場所を増やしていく事が大切。
女性	30歳代	地域の公園の整備をマメにしっかりしてもらいたい。小学生等をねらった犯罪もあるので、外から見通しのよい公園作りを 早急に取り組んでほしい。また、草が生えていると子どもも遊べず、見た目もぶっそうでよくない。

第4章 施設の運営状況

1. 市民施設

(1) 駐車場

駐車場の利用状況をみると、新飯塚駅前北側自転車駐車場と立体駐車場については、年間10万台を超える利用があります。一方、吉原町自転車駐車場の利用は2万台以下にとどまっています。

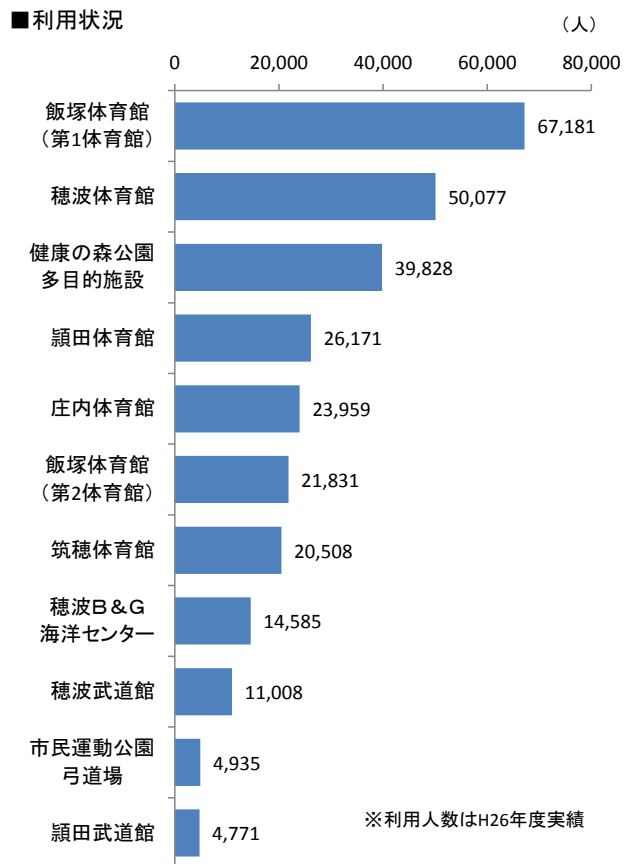


2. スポーツ・レクリエーション系施設

(1) 屋内運動施設

屋内運動施設の利用状況をみると、飯塚体育館（第1体育館）の利用が最も多く、武道館、弓道場の利用は少なくなっています。

稼働状況をみると、飯塚体育館（第1、第2とも）、庄内体育館、穂波体育館のアリーナは稼働率が高くなっていますが、会議室の稼働率は低くなっています。



■稼働状況

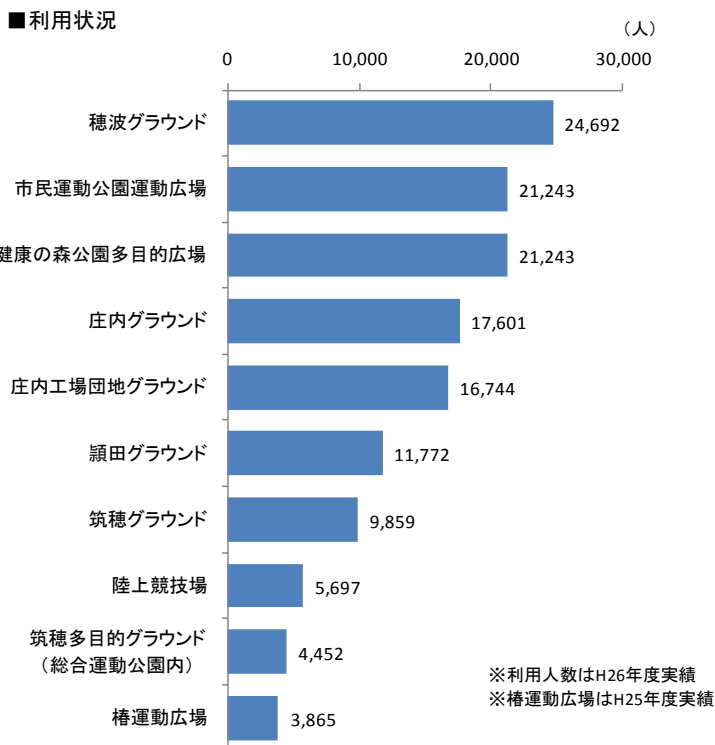
施設名	名称	開館日数	使用回数			稼働率			
			午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	平均
飯塚体育館 (第1体育館)	アリーナ	359	274	327	338	76.3%	91.1%	94.2%	87.2%
	舞台	359	2	2	13	0.6%	0.6%	3.6%	1.6%
	第一会議室	359	77	97	102	21.4%	27.0%	28.4%	25.6%
	第二会議室	359	64	75	71	17.8%	20.9%	19.8%	19.5%
	第三会議室	359	70	71	119	19.5%	19.8%	33.1%	24.1%
	和楽屋	359	153	47	28	42.6%	13.1%	7.8%	21.2%
飯塚体育館 (第2体育館)	アリーナ	359	337	338	350	93.9%	94.2%	97.5%	95.2%
庄内体育館	アリーナ	359	252	273	347	70.2%	76.0%	96.7%	81.0%
	卓球室	359	113	129	269	31.5%	35.9%	74.9%	47.4%
筑穂体育館	アリーナ	359	108	226	328	30.1%	63.0%	91.4%	61.5%
	多目的アリーナ	359	62	42	69	17.3%	11.7%	19.2%	16.1%
	会議室	359	13	16	18	3.6%	4.5%	5.0%	4.4%
穂波体育館	アリーナ	359	356	359	358	99.2%	100.0%	99.7%	99.6%
	多目的室	359	63	111	281	17.5%	30.9%	78.3%	42.2%
	会議室	359	21	21	18	5.8%	5.8%	5.0%	5.6%
	卓球室	359	270	276	323	75.2%	76.9%	90.0%	80.7%
穂波B&G 海洋センター	アリーナ	359	188	186	350	52.4%	51.8%	97.5%	67.2%
	会議室	359	52	45	49	14.5%	12.5%	13.6%	13.6%
穎田体育館	アリーナ	359	116	217	352	32.3%	60.4%	98.1%	63.6%
	会議室	359	3	1	0	0.8%	0.3%	0.0%	0.4%
	卓球室	359	252	168	187	70.2%	46.8%	52.1%	56.4%
健康の森公園	エアロビクススタジオルーム	308	218	218	188	70.8%	70.8%	61.0%	67.5%
	多目的室	308	48	44	16	15.6%	14.3%	5.2%	11.7%
穂波武道館	柔道場	359	51	37	258	14.2%	10.3%	71.9%	32.1%
	剣道場	359	158	60	201	44.0%	16.7%	56.0%	38.9%
穎田武道館	武道場	359	33	62	250	9.2%	17.3%	69.6%	32.0%

※使用回数はH26年度実績

※健康の森公園トレーニング室及び市民運動公園弓道場については調査不可

(2) 屋外運動施設

屋外運動施設の利用状況をみると、市民運動公園運動広場、穂波グラウンドの利用が多くなっています。施設の稼働状況をみると、市民運動公園運動広場、穂波グラウンド、庄内グラウンドで稼働率が高くなっています。



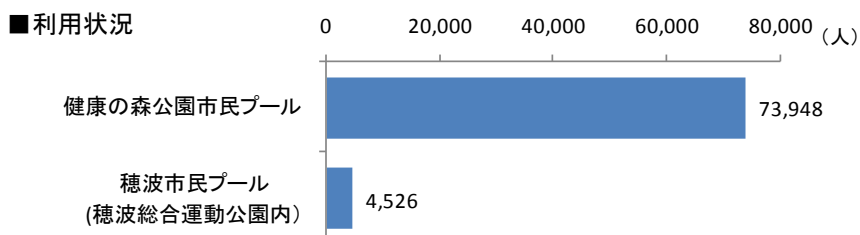
■稼働状況

施設名	名称	開館日数	使用回数			稼働率			
			午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	平均
健康の森公園多目的広場	多目的広場	359	83	82	31	23.1%	22.8%	8.6%	18.2%
市民公園	陸上競技場	359	91	87	58	25.3%	24.2%	16.2%	21.9%
	運動広場	359	202	143	214	56.3%	39.8%	59.6%	51.9%
庄内グラウンド	グラウンド	359	164	278	179	45.7%	77.4%	49.9%	57.7%
庄内工場団地グラウンド	サッカー場	359	123	186	98	34.3%	51.8%	27.3%	37.8%
筑穂多目的グラウンド	多目的グラウンド	359	67	65	36	18.7%	18.1%	10.0%	15.6%
筑穂グラウンド	グラウンド	359	101	101	92	28.1%	28.1%	25.6%	27.3%
穂波グラウンド	グラウンド	359	188	195	212	52.4%	54.3%	59.1%	55.2%
顕田グラウンド	グラウンド	359	164	103	162	45.7%	28.7%	45.1%	39.8%

※使用回数はH26年度実績

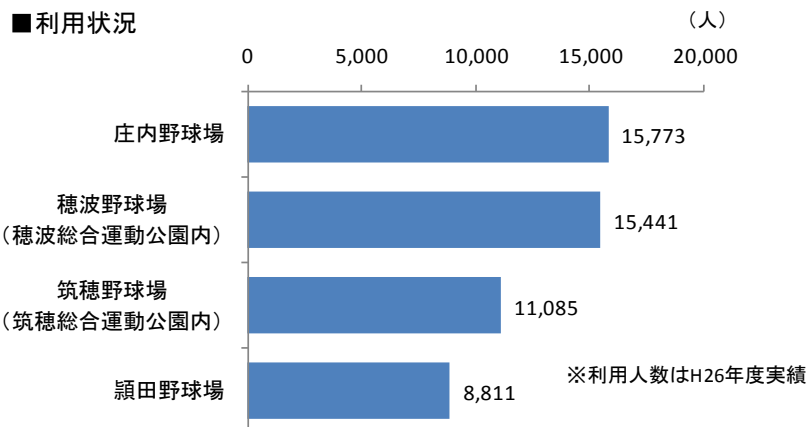
(3) プール

プールの利用状況をみると、健康の森市民プールは、温水プールで、年間を通じて解放していることから、利用が多くなっています。



(4) 野球場

野球場の利用状況をみると、庄内野球場の利用が多くなっています。稼働状況をみると、もっとも稼働している穂波野球場においても平均稼働率は50%以下となっています。



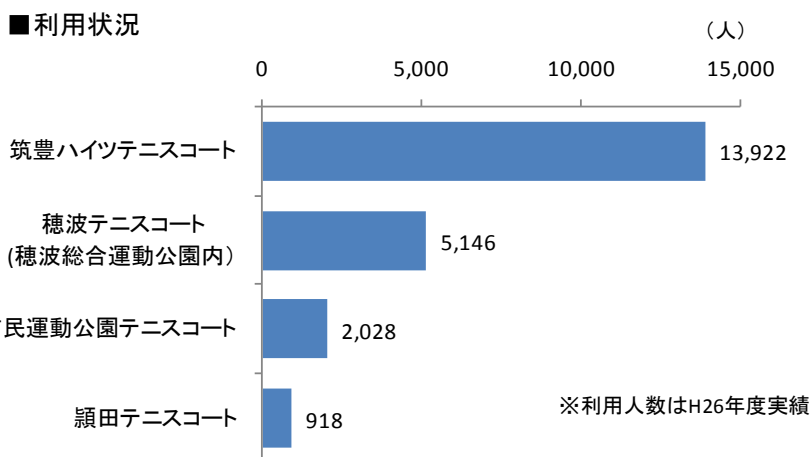
■ 稼働状況

施設名	名称	開館日数	使用回数			稼働率			
			午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	平均
庄内野球場	野球場	359	113	140	150	31.5%	39.0%	41.8%	37.4%
筑穂野球場	野球場	359	117	136	81	32.6%	37.9%	22.6%	31.0%
穂波野球場	野球場	359	163	172	149	45.4%	47.9%	41.5%	44.9%
穎田野球場	野球場	359	86	88	104	24.0%	24.5%	29.0%	25.8%

※使用回数はH26年度実績

(5) テニスコート

テニスコートの利用状況をみると、筑豊ハイツテニスコートの利用が突出して多くなっています。稼働状況をみると、市民公園テニスコート、穎田テニスコートの平均稼働率は20%を下回っています。



■ 稼働状況

施設名	面数	開館日数	使用回数			稼働率			
			午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	平均
市民公園テニスコート	8面	359	65	85	35	18.1%	23.7%	9.7%	17.2%
穂波テニスコート	4面	359	117	178	233	32.6%	49.6%	64.9%	49.0%
穎田テニスコート	2面	359	18	45	76	5.0%	12.5%	21.2%	12.9%
筑豊ハイツテニスコート	屋外3面	359	148	179	168	41.2%	49.9%	46.8%	46.0%
筑豊ハイツテニスコート	屋内4面	359	165	209	175	46.0%	58.2%	48.7%	51.0%

※使用回数はH26年度実績

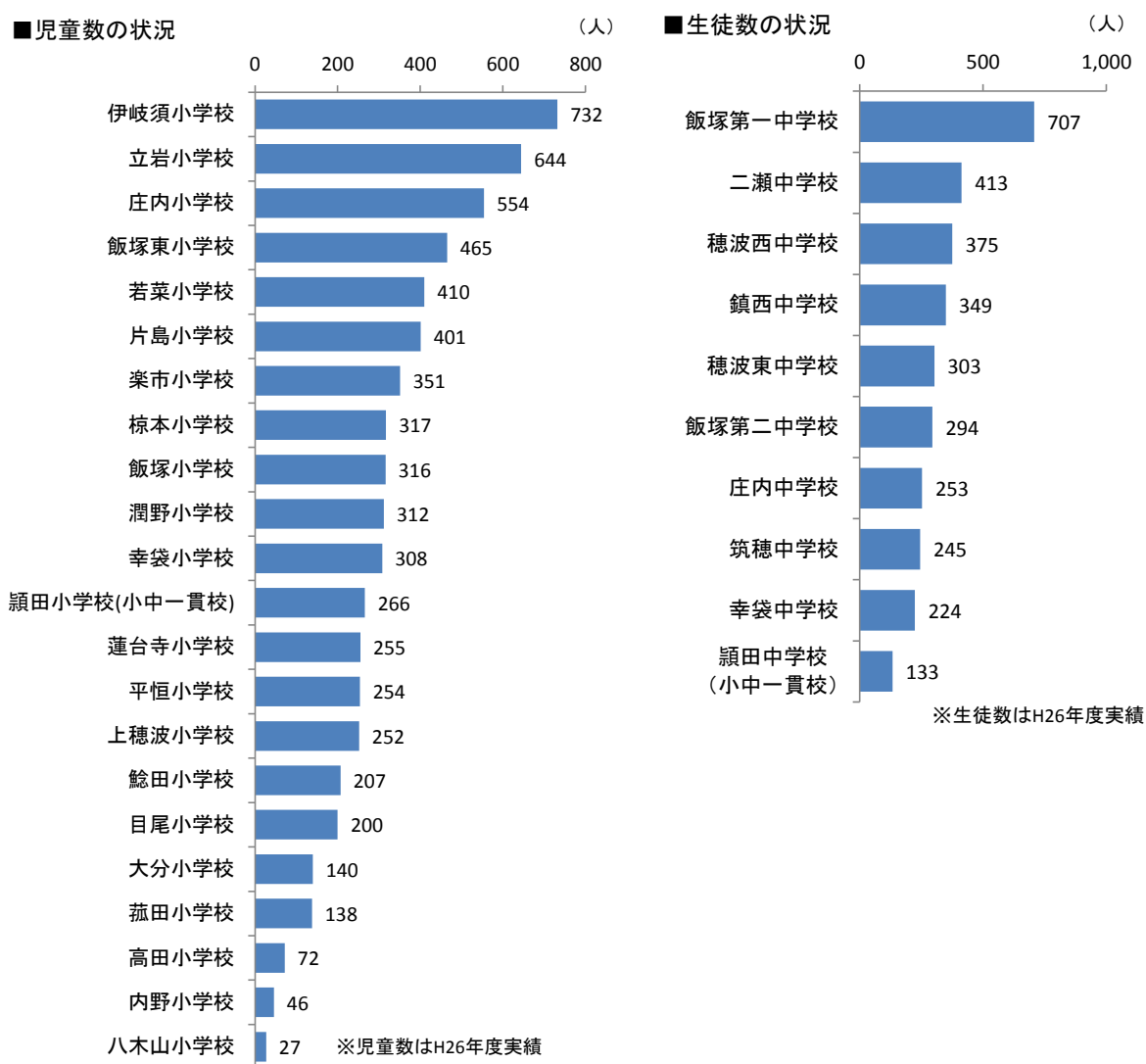
3. 学校施設

(1) 小学校（小中一貫校含む）

小学校の児童数をみると、伊岐須小学校の児童数をもっとも多く、八木山小学校がもっとも少なくなっています。

(2) 中学校

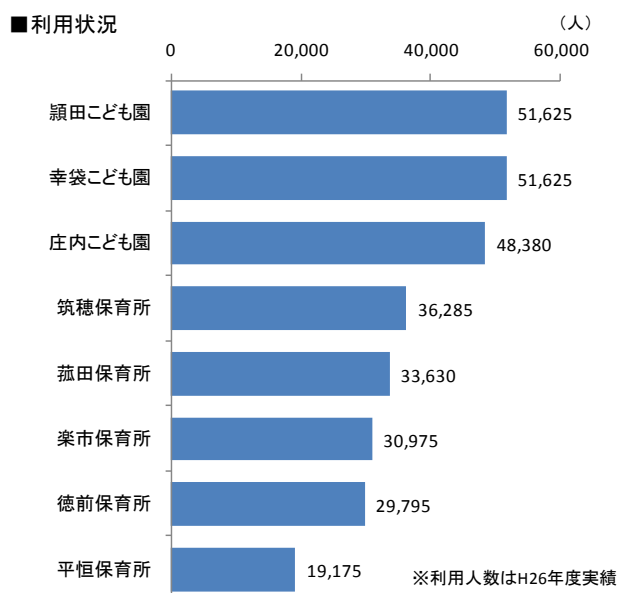
中学校の生徒数をみると、飯塚第一中学校がもっとも多く、穎田中学校（小中一貫校）がもっとも少なくなっています。



4. 子育て支援施設

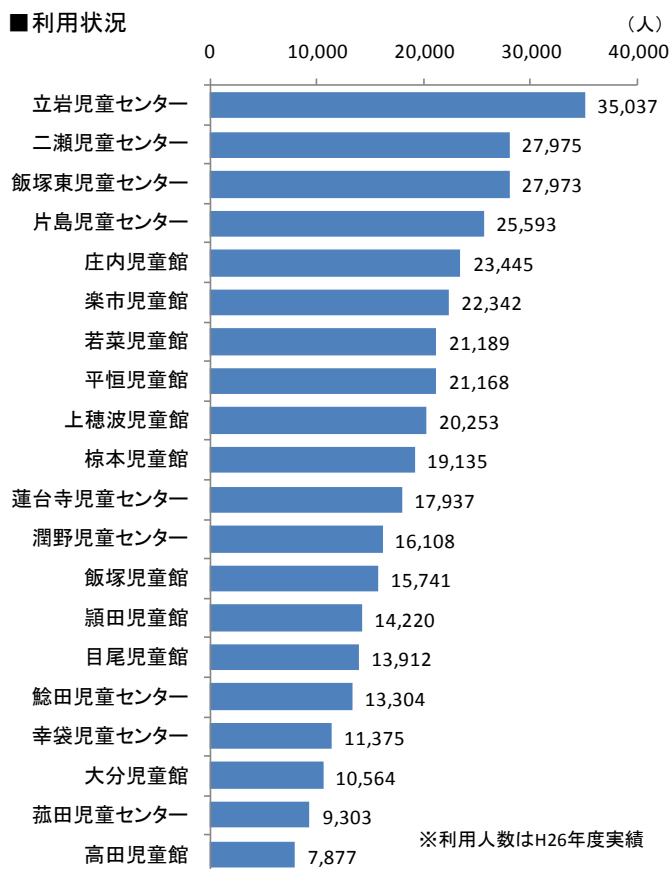
(1) 保育所・こども園

保育所・こども園の利用状況をみると、**颯田こども園**と**幸袋こども園**の利用がもっとも多く、**平恒保育所**がもっとも少なくなっています。



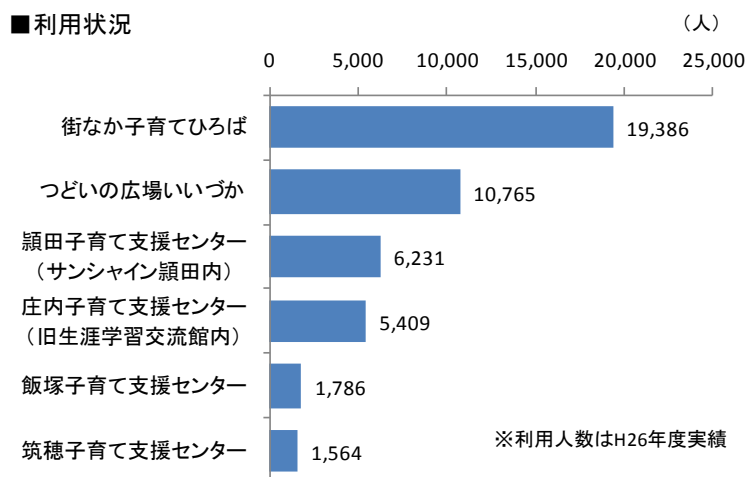
(2) 児童館・児童センター

児童センターの利用状況をみると、**立岩児童センター**の利用者がもっとも多く、**高田児童館**の利用が少なくなっています。



(3) 子育て支援施設

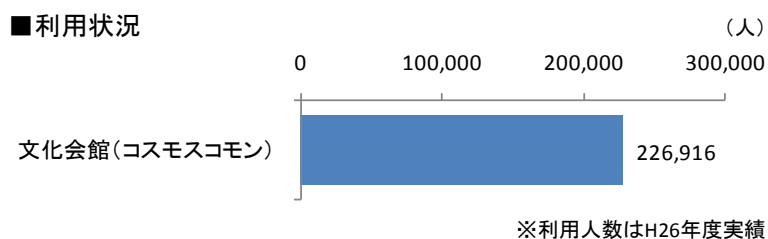
子育て支援施設の利用状況をみると、街なか子育てひろばの利用が多く、保育所内に併設している飯塚・筑穂子育て支援センターの利用が少ない状況です。



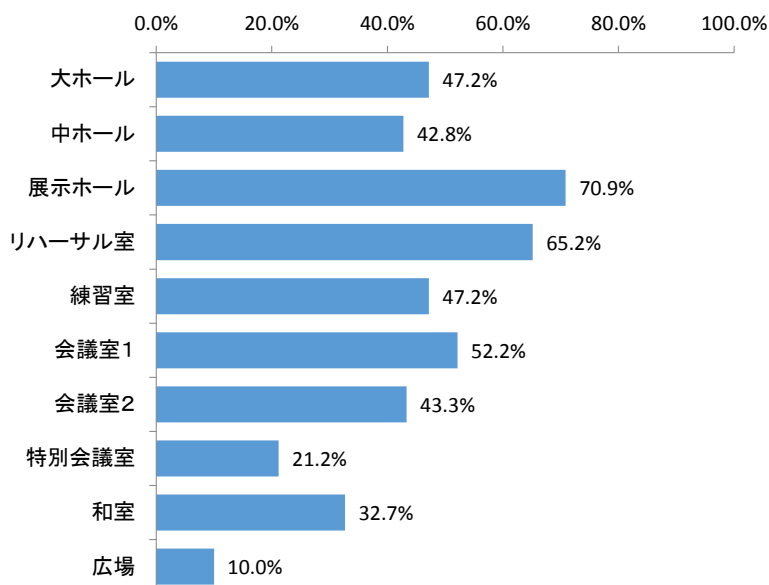
5. 市民・文化・社会教育系施設

(1) 文化施設

文化会館（コスモスコモン）の利用者数は年間 20 万人を超えています。稼働状況をみると、展示ホール、リハーサル室の稼働率は高くなっていますが、特別会議室や広場の稼働率は低い状況です。

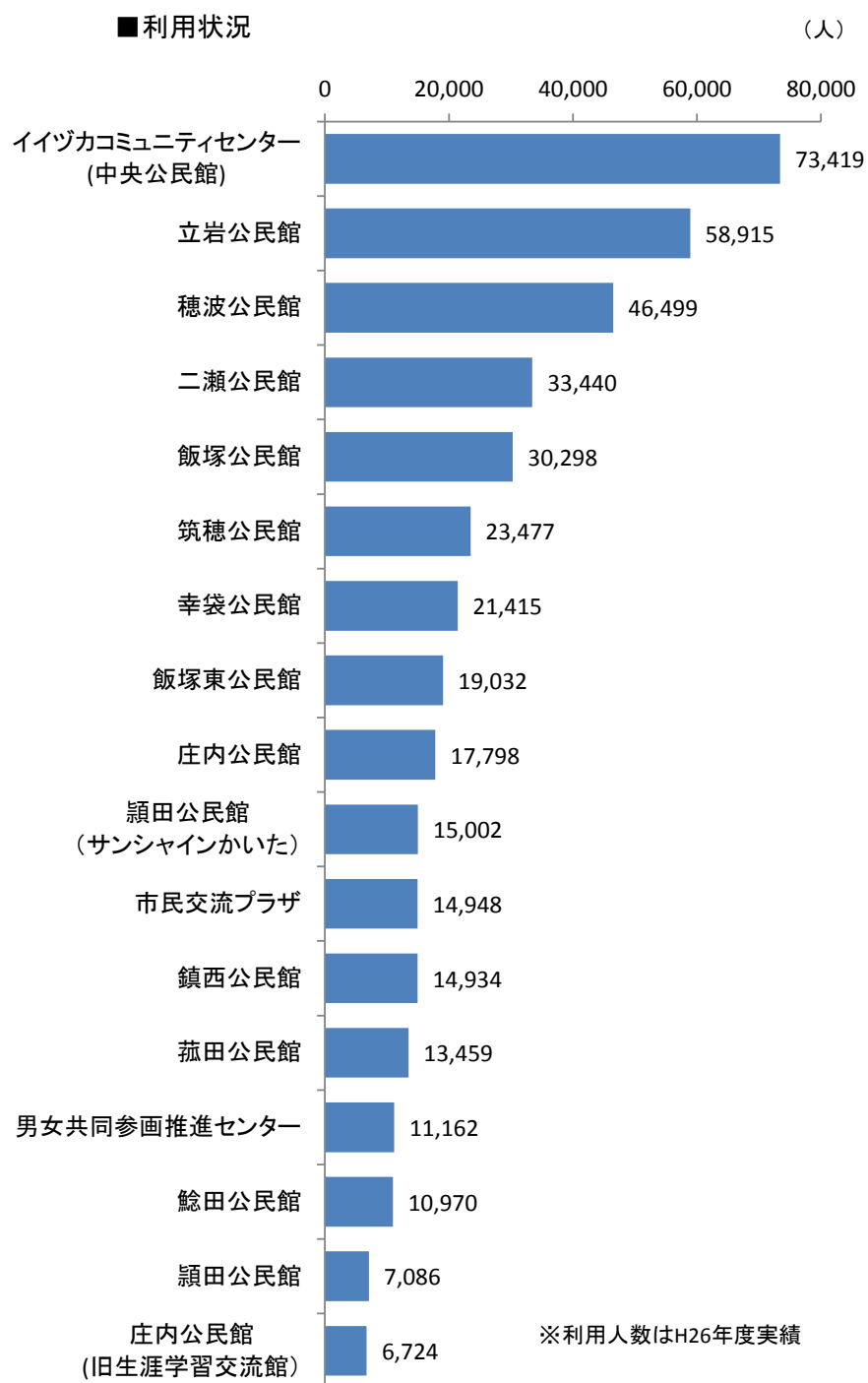


■ コスモスコモン稼働状況(1日3区分平均稼働率)



(2) 公民館（生涯学習施設）

公民館の利用状況を見ると、イイヅカコミュニティセンターが多く、庄内公民館分館である旧生涯学習交流館が、少なくなっています。旧生涯学習交流館はシアタールームの機能を有する施設であり、少ない要因のひとつに、利用の用途が限定されることが考えられます。



稼働状況をみると、中央、二瀬、立岩、飯塚、穂波公民館で高いのに対し、菰田、鯉田、筑穂、庄内公民館の稼働率は低くなっています。大ホール、大研修室の稼働率は高いものの、図書室や調理室の稼働率は低くなっています。和室の稼働率は公民館ごとで大きく異なっています。

■稼働状況

施設名	名称	開館日数	使用回数			稼働率			
			午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	平均
中央公民館	学習室202	341	172	193	121	50.4%	56.6%	35.5%	47.5%
	展示ホール	341	136	156	95	39.9%	45.7%	27.9%	37.8%
	特別室	341	49	64	44	14.4%	18.8%	12.9%	15.3%
	工芸工作室	341	64	75	36	18.8%	22.0%	10.6%	17.1%
	学習室301	341	164	186	124	48.1%	54.5%	36.4%	46.3%
	学習室302	341	176	176	84	51.6%	51.6%	24.6%	42.6%
	学習室303	341	144	180	99	42.2%	52.8%	29.0%	41.3%
	学習室304	341	150	174	86	44.0%	51.0%	25.2%	40.1%
	学習室305	341	87	97	60	25.5%	28.4%	17.6%	23.9%
	和室311	341	37	46	32	10.9%	13.5%	9.4%	11.2%
	和室312	341	39	65	34	11.4%	19.1%	10.0%	13.5%
	和室313	341	46	65	32	13.5%	19.1%	9.4%	14.0%
	和室314	341	47	59	44	13.8%	17.3%	12.9%	14.7%
	セミナー室	341	71	103	68	20.8%	30.2%	19.9%	23.7%
	調理実習室	341	107	90	38	31.4%	26.4%	11.1%	23.0%
	学習室401	341	135	157	89	39.6%	46.0%	26.1%	37.2%
	音楽室	341	205	194	149	60.1%	56.9%	43.7%	53.6%
	男女共同参画 推進センター	控室1	341	64	66	60	18.8%	19.4%	17.6%
控室2		341	39	44	25	11.4%	12.9%	7.3%	10.6%
軽運動室		341	155	123	85	45.5%	36.1%	24.9%	35.5%
技能向上室		341	45	82	52	13.2%	24.0%	15.2%	17.5%
二瀬公民館	学習交流室	341	2	36	27	0.6%	10.6%	7.9%	6.4%
	幼児室	341	34	57	3	10.0%	16.7%	0.9%	9.2%
	大研修室	335	193	204	86	57.6%	60.9%	25.7%	48.1%
	第1研修室	335	93	83	28	27.8%	24.8%	8.4%	20.3%
	第2研修室	335	160	217	129	47.8%	64.8%	38.5%	50.3%
	和室	335	83	204	56	24.8%	60.9%	16.7%	34.1%
	図書室	335	76	59	11	22.7%	17.6%	3.3%	14.5%
幸袋公民館	児童室	335	100	129	74	29.9%	38.5%	22.1%	30.1%
	調理実習室	335	65	66	22	19.4%	19.7%	6.6%	15.2%
	大研修室	335	157	153	232	46.9%	45.7%	69.3%	53.9%
	研修室	335	26	37	14	7.8%	11.0%	4.2%	7.7%
	和室1号	335	65	119	22	19.4%	35.5%	6.6%	20.5%
	和室2号	335	58	134	66	17.3%	40.0%	19.7%	25.7%
	図書室	335	68	78	16	20.3%	23.3%	4.8%	16.1%
鎮西公民館	児童室	335	168	181	65	50.1%	54.0%	19.4%	41.2%
	調理実習室	335	49	37	8	14.6%	11.0%	2.4%	9.4%
	大研修室	335	254	197	112	75.8%	58.8%	33.4%	56.0%
	研修室	335	55	77	17	16.4%	23.0%	5.1%	14.8%
	和室	335	99	140	21	29.6%	41.8%	6.3%	25.9%
菰田公民館	図書室	335	90	82	50	26.9%	24.5%	14.9%	22.1%
	調理実習室	335	56	48	31	16.7%	14.3%	9.3%	13.4%
	大研修室	338	108	67	106	32.0%	19.8%	31.4%	27.7%
	和室1号	338	72	37	49	21.3%	10.9%	14.5%	15.6%
	和室2号	338	72	36	49	21.3%	10.7%	14.5%	15.5%
	和室3号	338	34	129	6	10.1%	38.2%	1.8%	16.7%
	図書室	338	114	44	93	33.7%	13.0%	27.5%	24.8%
立岩公民館	児童室	338	48	26	36	14.2%	7.7%	10.7%	10.8%
	調理実習室	338	28	15	6	8.3%	4.4%	1.8%	4.8%
	大研修室	335	77	99	57	23.0%	29.6%	17.0%	23.2%
	中研修室	335	136	146	80	40.6%	43.6%	23.9%	36.0%
	第1研修室	335	206	224	127	61.5%	66.9%	37.9%	55.4%
	第2研修室	335	174	193	167	51.9%	57.6%	49.9%	53.1%
	第3研修室	335	108	190	141	32.2%	56.7%	42.1%	43.7%
	和室1号	335	168	200	193	50.1%	59.7%	57.6%	55.8%
	和室2号	335	165	200	178	49.3%	59.7%	53.1%	54.0%
	視聴覚室	335	130	206	137	38.8%	61.5%	40.9%	47.1%
図書室	335	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
児童室	335	97	182	117	29.0%	54.3%	34.9%	39.4%	
調理実習室	335	75	45	5	22.4%	13.4%	1.5%	12.4%	

※使用回数はH26年度実績

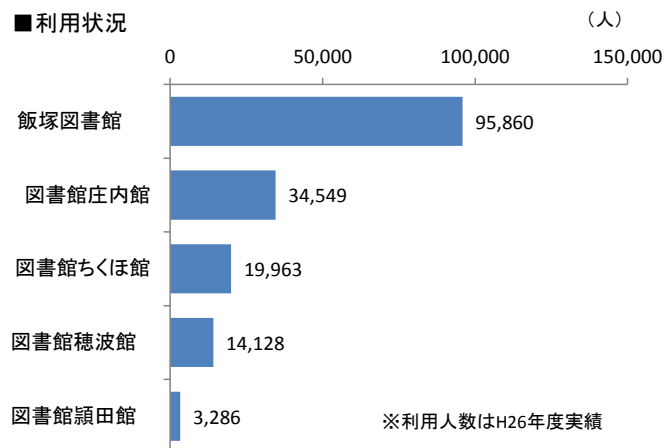
■稼働状況

施設名	名称	開館日数	使用回数			稼働率			
			午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	平均
飯塚東公民館	大研修室	335	99	111	146	29.6%	33.1%	43.6%	35.4%
	和室1号	335	92	120	5	27.5%	35.8%	1.5%	21.6%
	和室2号	335	92	114	2	27.5%	34.0%	0.6%	20.7%
	和室3号	335	9	58	0	2.7%	17.3%	0.0%	6.7%
	図書室	335	128	124	92	38.2%	37.0%	27.5%	34.2%
	児童室	335	55	140	58	16.4%	41.8%	17.3%	25.2%
	調理実習室	335	56	36	1	16.7%	10.7%	0.3%	9.3%
飯塚公民館	大研修室	278	159	198	175	57.2%	71.2%	62.9%	63.8%
	第1研修室	278	204	173	78	73.4%	62.2%	28.1%	54.6%
	第2研修室	278	126	166	76	45.3%	59.7%	27.3%	44.1%
	和室1号	278	110	177	83	39.6%	63.7%	29.9%	44.4%
	和室2号	278	57	144	42	20.5%	51.8%	15.1%	29.1%
	和室3号	278	89	119	27	32.0%	42.8%	9.7%	28.2%
	児童室	278	87	78	5	31.3%	28.1%	1.8%	20.4%
鯉田公民館	大研修室	337	63	42	5	22.7%	15.1%	1.8%	13.2%
	大研修室	337	130	136	137	38.6%	40.4%	40.7%	39.9%
	研修室	337	16	65	38	4.7%	19.3%	11.3%	11.8%
	和室1号	337	17	127	56	5.0%	37.7%	16.6%	19.8%
	和室2号	337	10	47	56	3.0%	13.9%	16.6%	11.2%
	図書室	337	6	15	12	1.8%	4.5%	3.6%	3.3%
	児童室	337	124	172	83	36.8%	51.0%	24.6%	37.5%
穂波公民館	調理実習室	337	33	35	4	9.8%	10.4%	1.2%	7.1%
	大ホール	340	215	211	220	63.2%	62.1%	64.7%	63.3%
	第1研修室	340	108	80	93	31.8%	23.5%	27.4%	27.5%
	第2研修室	340	105	76	89	30.9%	22.4%	26.2%	26.5%
	第3研修室	340	117	160	128	34.4%	47.1%	37.6%	39.7%
	第4研修室	340	57	66	59	16.8%	19.4%	17.4%	17.8%
	第5研修室	340	126	133	75	37.1%	39.1%	22.1%	32.7%
	和室1号	340	148	124	63	43.5%	36.5%	18.5%	32.8%
	和室2号	340	142	114	29	41.8%	33.5%	8.5%	27.9%
	視聴覚室	340	99	108	121	29.1%	31.8%	35.6%	32.2%
筑穂公民館	調理実習室	340	60	57	10	17.6%	16.8%	2.9%	12.5%
	大ホール	337	111	46	62	32.9%	13.6%	18.4%	21.7%
	中研修室	337	100	63	99	29.7%	18.7%	29.4%	25.9%
	第1研修室	337	39	19	42	11.6%	5.6%	12.5%	9.9%
	第2研修室	337	41	29	80	12.2%	8.6%	23.7%	14.8%
	和室1号	337	47	18	57	13.9%	5.3%	16.9%	12.1%
	和室2号	337	11	4	3	3.3%	1.2%	0.9%	1.8%
	視聴覚室	337	139	27	61	41.2%	8.0%	18.1%	22.5%
庄内公民館	調理実習室	337	46	53	23	13.6%	15.7%	6.8%	12.1%
	大ホール	338	78	85	132	23.1%	25.1%	39.1%	29.1%
	第1研修室	338	21	31	23	6.2%	9.2%	6.8%	7.4%
	第2研修室	338	27	34	49	8.0%	10.1%	14.5%	10.8%
	第3研修室	338	45	42	59	13.3%	12.4%	17.5%	14.4%
	第4研修室	338	92	147	150	27.2%	43.5%	44.4%	38.4%
	第5研修室	338	32	21	6	9.5%	6.2%	1.8%	5.8%
	第6研修室	338	60	14	11	17.8%	4.1%	3.3%	8.4%
	和室1号	338	63	107	87	18.6%	31.7%	25.7%	25.3%
	和室2号	338	82	12	52	24.3%	3.6%	15.4%	14.4%
	調理実習室	338	26	18	6	7.7%	5.3%	1.8%	4.9%
旧庄内生涯学習交流館	工芸工作室	338	70	90	4	20.7%	26.6%	1.2%	16.2%
	ミニシアター室	338	70	67	68	20.7%	19.8%	20.1%	20.2%
	ワーク室1	338	81	90	57	24.0%	26.6%	16.9%	22.5%
頼田公民館	ワーク室2	338	66	65	60	19.5%	19.2%	17.8%	18.8%
	第1研修室	335	47	63	32	14.0%	18.8%	9.6%	14.1%
	第2研修室	335	36	16	26	10.7%	4.8%	7.8%	7.8%
サンシャイン頼田	第3研修室	335	84	73	118	25.1%	21.8%	35.2%	27.4%
	多目的ホール	335	164	85	213	49.0%	25.4%	63.6%	46.0%
	第4研修室	335	90	62	178	26.9%	18.5%	53.1%	32.8%

※使用回数はH26年度実績

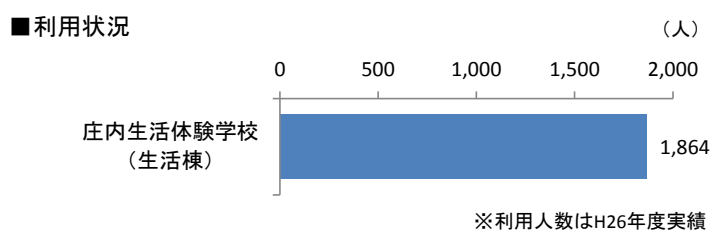
(3) 図書館

図書館の利用状況をみると、飯塚図書館が最も多く、規模の小さい穂波、潁田館は少なくなっています。



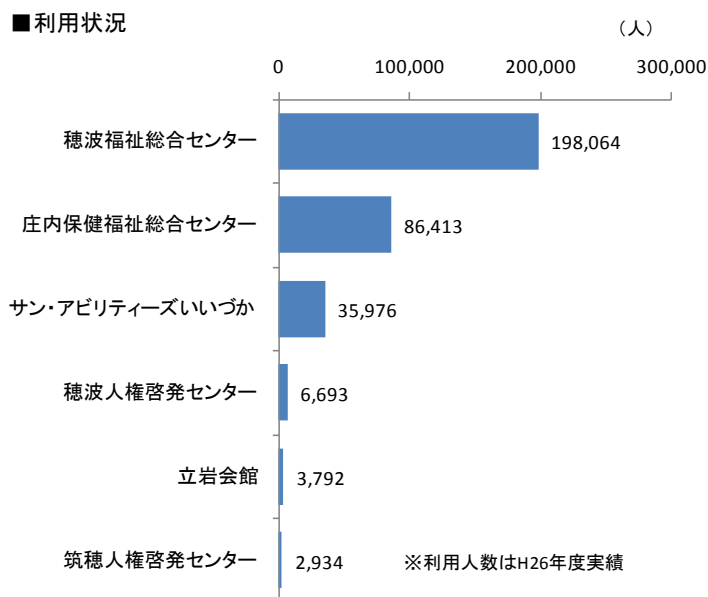
(4) 庄内生活体験学校

庄内生活体験学校は児童等が宿泊し、自炊や農耕体験等様々な生活体験活動を通じて、子どもの自立（律）などを図ることを目的として設置しており、利用人数は年間1,864人となっています。



6. 保健・福祉施設

保健・福祉施設の利用状況をみると、穂波福祉総合センターの利用が多くなっています。人権施設では、穂波人権啓発センターが多く、筑穂人権啓発センターは少なくなっています。



稼働状況をみると、立岩会館、穂波人権啓発センター、筑穂人権啓発センターの稼働率が低い状況です。庄内保健福祉総合センター、穂波福祉総合センター、サン・アビリティーズいづかには高い稼働率となっています。また、人権施設は、いずれも低くなっています。

■稼働状況

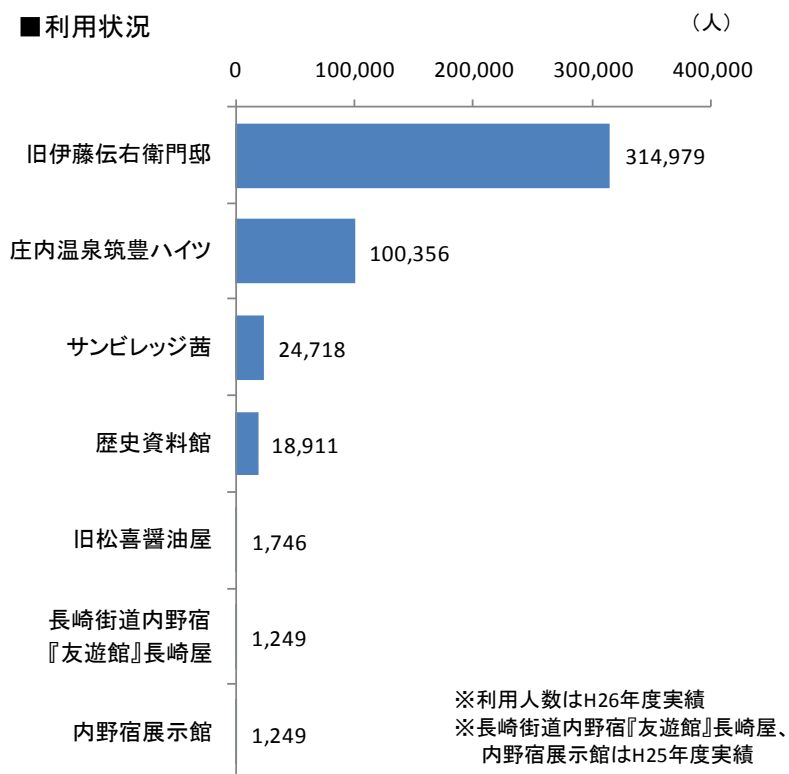
施設名	名称	開館日数	使用回数			稼働率			
			午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	平均
立岩会館	大会議室	244	17	24	4	7.0%	9.8%	1.6%	6.1%
	調理実習室	244	36	35	2	14.8%	14.3%	0.8%	10.0%
	教養娯楽室	244	66	100	19	27.0%	41.0%	7.8%	25.3%
	集会室	244	4	9	1	1.6%	3.7%	0.4%	1.9%
	学習室A	244	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	学習室B	244	4	12	1	1.6%	4.9%	0.4%	2.3%
	和室	244	6	0	0	2.5%	0.0%	0.0%	0.8%
穂波人権啓発センター	大会議室	258	34	60	158	13.2%	23.3%	61.2%	32.6%
	調理実習室	258	24	25	5	9.3%	9.7%	1.9%	7.0%
	会議室	258	15	15	25	5.8%	5.8%	9.7%	7.1%
	小会議室	258	7	5	5	2.7%	1.9%	1.9%	2.2%
	教養娯楽室	258	4	80	84	1.6%	31.0%	32.6%	21.7%
	和室1号	258	11	17	115	4.3%	6.6%	44.6%	18.5%
	和室2号	258	50	82	29	19.4%	31.8%	11.2%	20.8%
筑穂人権啓発センター	大会議室	247	13	13	75	5.3%	5.3%	30.4%	13.6%
	調理実習室	247	15	23	0	6.1%	9.3%	0.0%	5.1%
	和室1号	247	0	1	70	0.0%	0.4%	28.3%	9.6%
	和室2号	247	1	48	3	0.4%	19.4%	1.2%	7.0%
	研修室	247	0	2	48	0.0%	0.8%	19.4%	6.7%
庄内保健福祉総合センター	多機能室	347	263	293	313	75.8%	84.4%	90.2%	83.5%
	保健指導室	347	84	155	95	24.2%	44.7%	27.4%	32.1%
	ボランティア室	347	97	149	147	28.0%	42.9%	42.4%	37.8%
	栄養指導室	347	132	173	98	38.0%	49.9%	28.2%	38.7%
	栄養指導実習室	347	84	97	9	24.2%	28.0%	2.6%	18.3%
穂波福祉総合センター	多目的ホール	307	290	248	275	94.5%	80.8%	89.6%	88.3%
	調理室	307	147	25	7	47.9%	8.1%	2.3%	19.4%
	研修室1-1	307	208	185	183	67.8%	60.3%	59.6%	62.5%
	研修室1-2	307	161	217	181	52.4%	70.7%	59.0%	60.7%
	研修室2	307	249	249	255	81.1%	81.1%	83.1%	81.8%
	生涯学習室1	307	220	182	181	71.7%	59.3%	59.0%	63.3%
	生涯学習室2-1	307	158	150	133	51.5%	48.9%	43.3%	47.9%
	生涯学習室2-2	307	137	177	169	44.6%	57.7%	55.0%	52.4%
サン・アビリティーズいづか	音楽室	310	146	179	94	47.1%	57.7%	30.3%	45.1%
	和室	310	95	175	65	30.6%	56.5%	21.0%	36.0%
	研修室1	310	243	176	189	78.4%	56.8%	61.0%	65.4%
	研修室2	310	243	176	189	78.4%	56.8%	61.0%	65.4%
	多目的室	310	135	192	99	43.5%	61.9%	31.9%	45.8%
	体育室	310	254	302	233	81.9%	97.4%	75.2%	84.8%
	調理室	310	31	34	3	10.0%	11.0%	1.0%	7.3%
	プール	54	27	36		50.0%	66.7%		58.3%

※使用回数はH26年度実績

7. 産業系施設

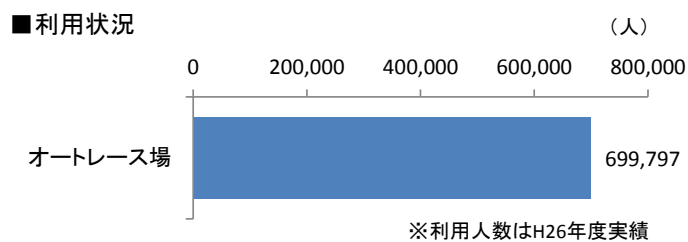
(1) 歴史・観光施設

歴史・観光施設の利用状況をみると、旧伊藤伝衛門邸の利用が多くなっています。



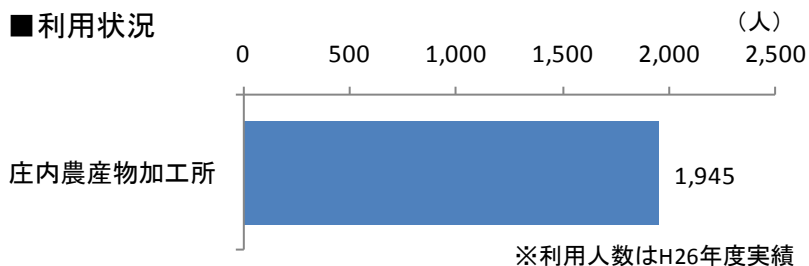
(2) オートレース場

オートレースの利用状況をみると、年間 70 万人近くが利用しています。



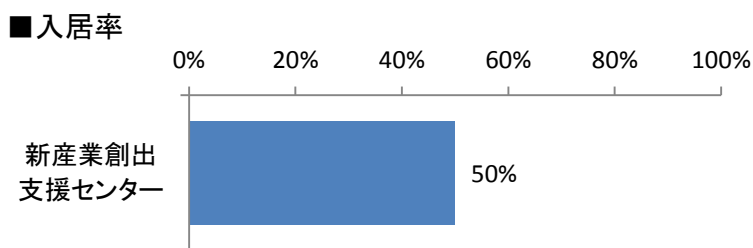
(3) 庄内農産物加工所

庄内農産物加工所は、地元農産物を有効に利用し、加工することによって付加価値を高め、新たな特産品を作り出すことを目的として設置しており、利用状況をみると、年間1,945件の利用があります。



(4) 新産業創出支援センター

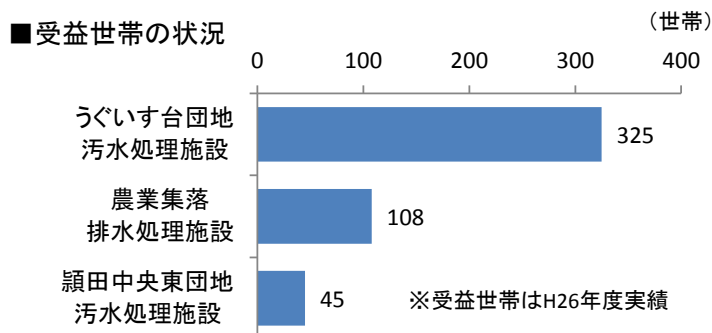
新産業創出支援センターは、e-ZUKA トライバレー構想に基づくベンチャー支援、産学官と連携した新産業創出等の拠点施設として設置しており、入居状況は、平成 27 年 4 月 1 日現在で 10 室となっており、入居率は 50%となっています。



8. 環境施設

(1) 排水処理施設

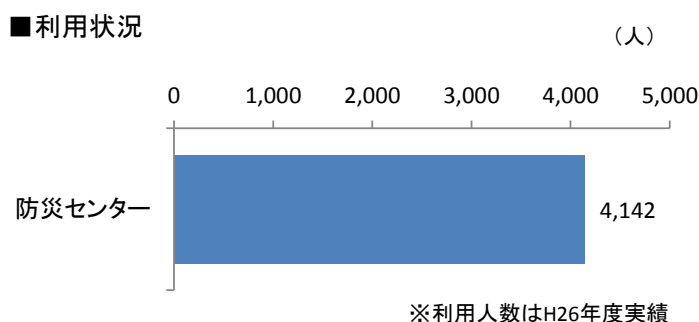
排水施設の受益世帯をみると、うぐいす台団地汚水処理施設が、325 世帯と多くなっています。



9. その他

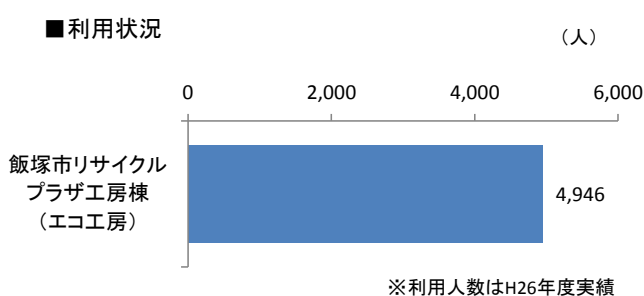
(1) 防災センター

防災センターは、遠賀川流域の洪水時における河川管理施設保全活動及び、復旧活動並びに平常時の防災意識の啓発を目的として設置しており、利用者数は年間 4,142 人となっています。



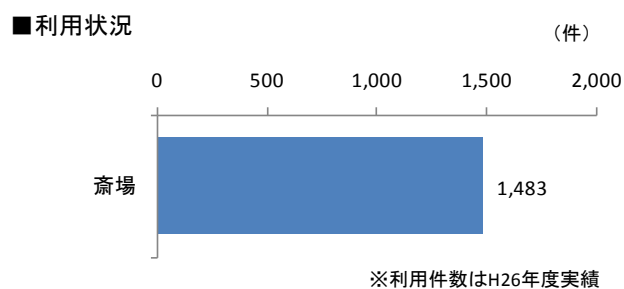
(2) 飯塚市リサイクルプラザ工房棟 (エコ工房)

エコ工房は、環境保全に関する情報提供及び、体験・学習の場として設置しており、利用者数は年間 4,946 人となっています。



(3) 斎場

斎場の利用件数は年間 1,483 件となっています。



第5章 施設の老朽化

建物は新築直後から劣化していくことから、建物を、長期間にわたって安全に良好な状態で使用していくためには、劣化や損傷の進行具合を把握し、適切に保全していく必要があります。

建物の劣化状態は、利用状況や設置された自然環境等に応じて変化することから、定期的な点検・診断により建物の状態を把握することが重要です。

そのため、これまで定期的な点検等が行われていない建築年の古い施設を中心に施設の老朽化状況を診断しました。

1. 対象施設

本市の保有する公共建築物のうち、主要な施設の延床面積が 200 m²を超える建物を対象として実施しました。

対象施設の延床面積は約 58.9 万 m²であり、全ての建築物の延床面積 78 万 m²の約 76%を占めています。

	用途分類	施設数	延床 面積 (m ²)	総合評価			
				A	B	C	D
公共 建 築 物	市民施設（駐車場）	2	10,927	1		1	
	社会教育系施設	20	45,932		11	3	6
	学校教育系施設	42	147,759	10	24	7	1
	スポーツ・レクリエーション系施設	16	26,539		7	4	5
	産業系施設（筑豊ハイツ等）	16	42,094		5	5	6
	子育て支援施設	14	6,752	3	8	3	
	保健・福祉施設	5	8,158		3	1	1
	医療施設	1	15,041		1		
	行政系施設（市役所庁舎等）	5	19,504		3	2	
	公営住宅	70	243,545	17	19	29	5
	供給処理施設 （汚水処理施設、環境センター等）	25	20,634	7	9	5	4
	その他	1	1,624		1		
	建築物合計	217	588,508	38	91	60	28

※延床面積は四捨五入のため、合計と一致しない場合があります。

2. 調査方法

施設の劣化度については、対象となる建物全般について屋上および建物内への立ち入りによる目視と、手の届く範囲の打診棒等や計測等で劣化程度の調査を実施しました。

目視、打診検査を踏まえ、各部位ごと（耐震化、躯体、防水、外壁仕上げ、軒天井・ひさし下端、その他）に以下の4段階で評価を行いました。

部位評価基準

評価		評価基準
a	良好	特に劣化が認められない良好な状況
b	軽度	部分的な修繕は必要だが、全体的には計画修繕で行えばよい状況
c	中度	劣化が進行し、早期に修繕が必要な状況
d	重度	劣化が著しく、早急な修繕が必要である状況

各部位ごとの評価を踏まえ、建物の総合評価として以下の4段階で評価を行いました。

総合評価基準

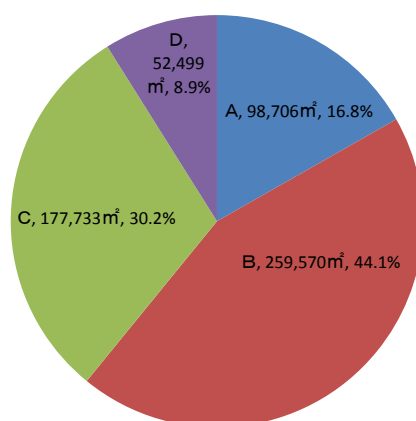
評価		評価基準
A	良好	特に劣化が認められない良好な状況。長期的な維持管理が可能
B	軽度	部分的な修繕は必要だが、全体的には計画修繕で行えばよい状況。長期的な維持管理が可能
C	中度	劣化が進行し、早期に修繕が必要な状況。修繕を行えば、比較的長期的な維持管理が可能
D	重度	劣化が著しく、早急な修繕が必要。長期的な維持管理を行うためには、かなりのコストが必要

3. 劣化状況の総合評価

公共建築物の劣化状況（延床面積）をみると、B判定が最も多く約26万㎡あり、4割を超えています。ついでC判定が17.8万㎡30.2%となっています。また、早急な修繕が必要なD判定の建築物も5.2万㎡8.9%存在しています。

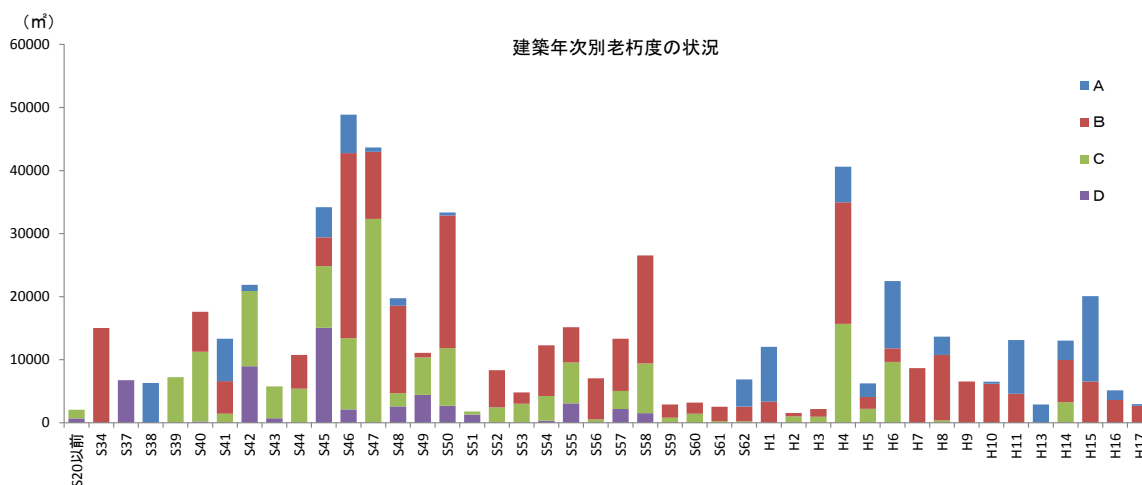
建築年次別の老朽度をみると、D判定は、昭和60年以前のものに集中していますが、C判定のものは、予防保全等が不十分であるため、近年のものにも見られます。

老朽度の判定結果



※四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

総合評価	施設数		延床面積(㎡)	
A	38	17.5%	98,706	16.8%
B	91	41.9%	259,570	44.1%
C	60	27.6%	177,733	30.2%
D	28	12.9%	52,499	8.9%
合計	217	100.0%	588,508	100.0%

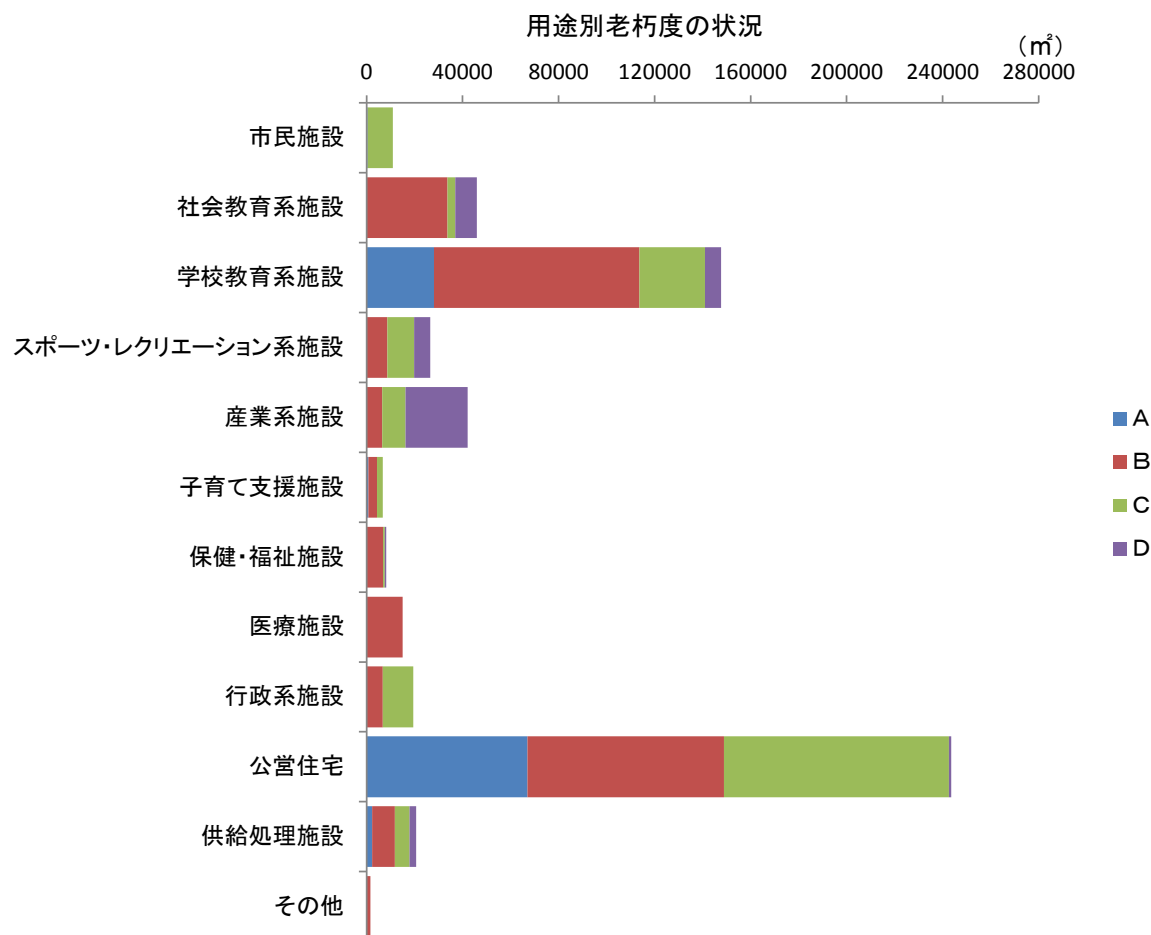


■用途別の老朽度

用途別の老朽度の状況を見ると、多くの学校施設は耐震改修と合わせて、大規模改修が実施されています。昭和56年以降に建築された建物の一部で老朽化が進んでいます。

公営住宅では、C判定の延床面積が多く、老朽化が進んでいます。

社会教育系施設（公民館等）、スポーツ・レクリエーション系施設（体育館等）、産業系施設などでC、D判定の延床面積が多く、老朽化が進んでいます。



総合評価 用途分類	A		B		C		D		合計	
	施設数	延床面積(㎡)	施設数	延床面積(㎡)	施設数	延床面積(㎡)	施設数	延床面積(㎡)	施設数	延床面積(㎡)
市民施設	1	347			1	10,580			2	10,927
社会教育系施設			11	33,685	3	3,302	6	8,945	20	45,932
学校教育系施設	10	28,117	24	85,509	7	27,383	1	6,750	42	147,759
スポーツ・レクリエーション系施設			7	8,665	4	11,204	5	6,670	16	26,539
産業系施設			5	6,511	5	9,711	6	25,872	16	42,094
子育て支援施設	3	803	8	3,606	3	2,343			14	6,752
保健・福祉施設			3	6,920	1	628	1	610	5	8,158
医療施設			1	15,041					1	15,041
行政系施設			3	6,807	2	12,697			5	19,504
公営住宅	17	67,069	19	81,842	29	93,759	5	875	70	243,545
供給処理施設	7	2,369	9	9,362	5	6,126	4	2,777	25	20,634
その他			1	1,624					1	1,624
総計	38	98,706	91	259,570	60	177,733	28	52,499	217	588,508

※延床面積は小数点以下を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。

第6章 公共施設等のあり方に関する基本的な考え方

1. 計画策定に向けて前提となる課題

(1) 今後30年間で人口は2割減、生産年齢人口は3割減

本市の人口は、平成22年から平成52年までの30年間で約2万7千人、約2割の減少が想定されます。生産年齢人口も同期間で約2万4千人、約3割減少する見込みです。そのため、人口規模や年齢構成、地区の状況に見合った施設規模、機能の見直しが必要となります。

(2) 地方交付税等への依存、硬直化した財政状況

平成25年度の普通会計では、歳入に占める市税の割合は約20%であり、類似団体の平均約40%と比べると少なく、地方交付税等への依存割合が高くなっています。また、歳出に占める義務的経費の割合も5割を超えています。社会保障の費用である扶助費は年々増加を続けており、財政的な自由度は年々低下しています。

高齢化の進行により、社会保障費の増加は避けられない状況であり、さらに合併特例措置である合併算定替の終了に伴い、平成28年度から地方交付税の逡減も始まることから、公共施設等の維持改修・更新を行うための普通建設事業費の確保は厳しくなります。

(3) 公共施設等の量が多く、老朽化が進行している

本市は平成18年の市町村合併に伴い、多くの公営住宅やスポーツ・レクリエーション施設を所有しています。人口一人あたり延床面積は類似団体の平均値よりも2倍近くになっています。また、建築後30年以上経過した公共施設等の延床面積は全体の6割近くに及んでいます。公民館や体育館など、耐震補強が行われていない施設も多く、老朽化判定で早期の大規模改修や更新が必要なC、Dと判定された施設は調査した施設の延床面積の4割に及んでいます。

(4) 市民利用の少ない施設

アンケートの結果によると、文化施設や図書館などの利用状況をみると、市庁舎等を除いた施設で半数以上の市民が利用する施設はみられませんでした。子育て支援施設の利用者は、対象となる世代や対象者が限定されることもあり、1割程度となっています。

また、アンケートとは別に、過去2か年分の公共施設等の稼働率をみると、時間帯ごとの稼働率に差異があることや、施設の中で多く利用されている部分と、あまり利用されていない部分があることがわかります。利用の少ない施設においては、利用者一人あたりのコストが非常に高いものもみられます。

(5) 普通建設事業費を大幅に上回る大規模改修・更新費用の発生

今後 30 年間の公共施設等の大規模改修・更新費用は、普通会計で約 2,596 億円（建築物約 1,791 億円、インフラ約 805 億円）であり、年平均で約 87 億円が必要となります。これは現在の普通建設事業費約 61 億円の約 1.4 倍であり、すべての施設を大規模改修・更新することは非常に困難な状況です。

※市立病院、卸売市場、オートレース場は除く

2. 課題の解決に向けた基本方針

公共施設等は、地域の実情にあった協働のまちづくりを推進するために必要であり、これまでも地域のお祭りやスポーツ活動、健康づくりなどに貢献してきたように、これからも、将来のまちづくりを考えていく上においては、必要不可欠なものです。しかしながら、人口の減少や少子高齢化社会の到来に加え、今後予想される財政状況の硬直化などの現状や課題を踏まえ、安全・安心で持続可能な市政運営を進めて行くためには、全市的、総合的な視点から効率的・効果的な公共施設等の運営および、維持管理をしていくことが重要になります。更に、総合計画や都市計画の視点や交通機能との連携など都市構造の観点から、その適正な規模や配置についても検討を行っていく必要があります。

そのため、本市では、以下の 10 の基本方針を定め、公共施設等の運営・維持管理の見直しを行います。

また、公共建築物の個別実施計画については、この基本方針に基づき、平成 28 年度中の策定を目指します。

(1) 市民参画による公共施設等の見直しを推進します

持続可能な公共施設等の維持・管理・運営を行うためには、人口減少などの理由から、公共施設等の縮減や民間活力の活用および、広域的な連携が必要であり、将来の本市のあり方を見据えた取り組みが重要です。

そのためには、本市における、公共施設等の維持管理等の現状の見える化（劣化状況、利用状況、取得・維持・補修にかかるコストなど）を行い、市民に広く公表することで情報を共有し、市民参画による公共施設等の見直しを推進します。

(2) 公共施設等の総量の最適化を推進します

●公共建築物

国が示す、「新しく造る」ことから、「賢く使う」ことを念頭に、今後の人口減少や財政状況の推移を見据えながら、施設等のダウンサイジングを図るなど、公共施設等の総量について縮減目標を定めて縮減を行います。

縮減にあたっては、市民のニーズ・施設機能の重要性・稼働状況・老朽化の状況・費

用対効果など総合的に判断しながら、複合化・多機能化・統廃合等の最適化を行います。

最適化により廃止となった公共施設の跡地、跡施設で、市として利活用策がない場合は、現状有姿による民間への譲渡（売却）を原則とします。民間への譲渡（売却）にあたっては、都市計画の方針に沿うことはもちろんのこと、今後本市の大きな課題である人口減少、財政縮小に効果がある利活用策を検討している民間事業者等への譲渡とします。

また、公共施設等を更新するにあたっては、利用者にとっての利便性、環境への負荷低減等の社会的要請を考慮しながら、ユニバーサルデザインの導入・省エネルギー対応等について推進します。

【最適化目標】

公共施設等の総量最適化を進めるため、公共建築物の総床面積を 30 年間で 19.3%縮減します。

<公共建築物の縮減目標>

- ・ 30 年間で延床面積約 70.0 万㎡（H26.3 時点）を約 19.3%（約 13.5 万㎡）縮減し、約 56.5 万㎡とします。
- ・ この計画期間の 10 年間で約 4.5 万㎡の延床面積を縮減します。

※延床面積は市立病院、卸売市場、オートレース場を除く

【目標達成のための手段】

- ・ アンケート結果にもあるように、利用が少ない施設や、老朽化した施設は廃止、若しくは類似施設との統合や複合化を原則とします。
- ・ 新しい機能を持つ公共施設等が必要となった場合は、原則として新たに建設はせずに、既存の公共施設等や、民間施設等にその機能を持たせて活用するものとします。
- ・ 施設等の更新・統廃合により建替えを行う場合は、更新・統廃合前の施設等の延床面積から、人口の将来推計および稼働状況を勘案し、原則として縮減して整備します。

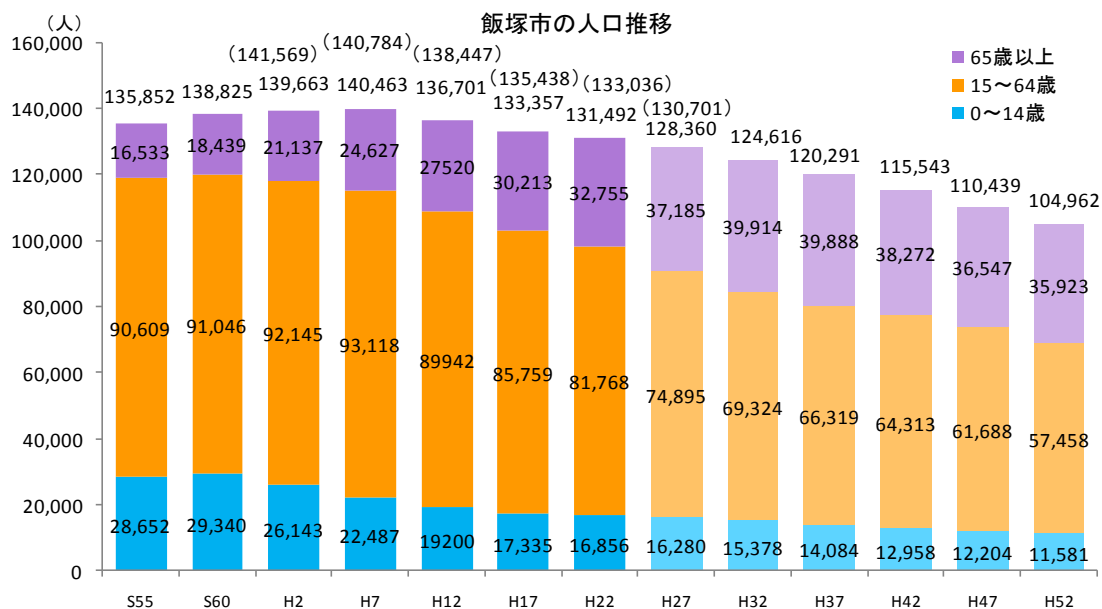
●公共インフラ

インフラ資産の整備にあたっては、平成 40 年以降に更新時期を迎える資産が多いため、中長期の視点に立ち、将来に負担を残さないように、整備や更新時には、将来の利用供給人口等を考慮し規模や面積の最適化を図ります。

【(参考) 縮減目標の設定根拠】

①将来人口の推移 今後30年間で20%減少

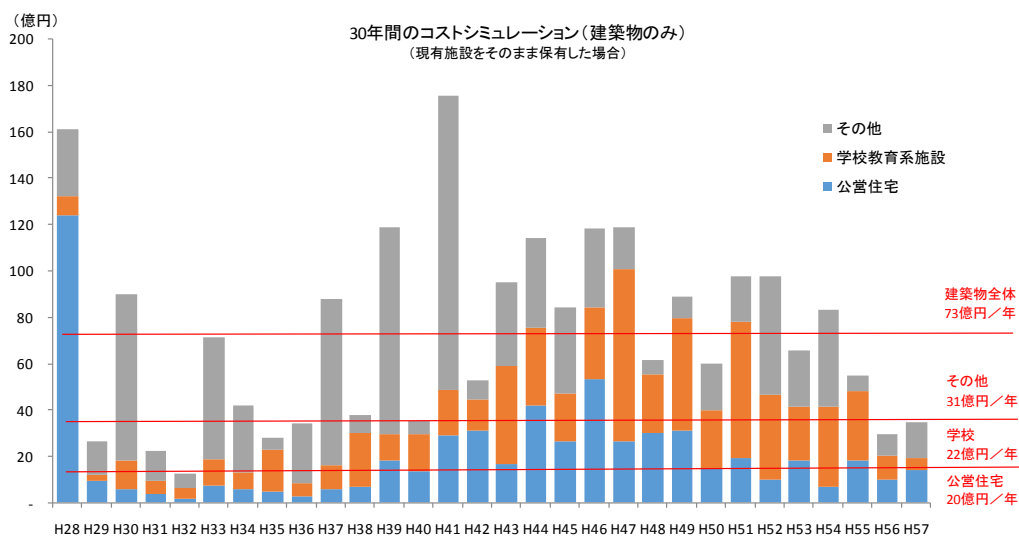
- ・今後30年間で年少人口(15歳未満)は40%減少、生産年齢人口(15~64歳)は30%減少
- ・高齢者(65歳以上)は30年間で10%増加



②将来維持更新費の試算 今後30年間の総額約1,791億円(約59.7億円/年)

<前提条件>

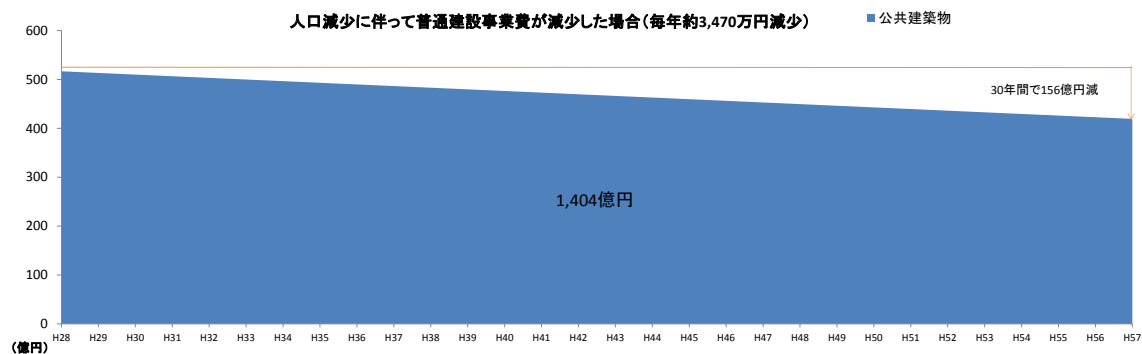
- ・現在保有する公共建築物をすべて保有し続ける
- ・建替更新周期を60年周期、大規模改修は30年周期とする
- ・維持更新費は、更新費及び大規模修繕費を含む



③確保可能な財源の試算 今後 30 年間の総額約 1,404 億円 (約 46.8 億円/年)

<前提条件>

- ・平成 15～26 年までの普通建設事業費のうち公共建築物に関わる費用の年平均約 52 億円をベース
- ・今後 30 年の人口減少 (約 2 割) を考慮し、年約 3,470 万円の減少を想定 (30 年間で 2 割減)
※災害復旧費や失業対策事業費を除く



④今後 30 年間で不足する費用 (②-③) 約 387 億円

<総務省簡易推計モデルの試算より>

- ・本市の公共建築物の建替・改修平均単価 約 28.6 万円/㎡ ※今後 30 年間での平均
- ・30 年間で削減が必要な延床面積 約 13.5 万㎡ (387 億円/28.6 万円)
- ・延床面積約 70 万㎡ (平成 26 年 3 月末時点) に占める割合 約 19.3% (13.5 万㎡/70 万㎡)

⑤地方交付税が、市町村合併の特例措置の終了により、加算分が平成 28 年度から段階的に減額されるため、その額によっては削減が必要な面積が変動します。

(3) 公共施設等の効率的で効果的な配置を推進します

●公共建築物

公共施設等は、地域のまちづくりや防災拠点としての機能を担っている地域拠点施設と市全体を対象とした高機能、大規模な公共施設等に分けられます。

今後人口が減少する中で公共施設等の縮減は避けて通ることは出来ませんが、地域コミュニティ維持のため、地域拠点施設は多機能化するとともに、各地域に配置し、一方高機能、大規模な公共施設等は交通の利便性を考慮し配置するなど、公共施設等の減少に伴う著しい市民サービスの低下を招かぬよう、公共施設等の役割機能に応じた効率的で効果的な配置を進めます。

(4) 公共施設等の運営の最適化を推進します

●公共建築物

公共施設等は、公共の福祉を増進するという基本理念に基づき、多くの市民が利用できる環境整備を図ることが重要であり、一方で多額の維持管理経費を要することから、運営においても最適化を図ります。

運営の最適化にあたっては、市民の利用率向上を念頭に置きながら、施設の利用実態に即して開館日数・開館時間の見直しを行います。

公益性の薄い公共施設等や、民間等で同様の市民サービスが提供できるものなどについては民営化を進め、更には地域のまちづくりに活用できるように、市民協働による運営など、運営の最適化を行います。これまで進めてきた指定管理者制度の導入についても引き続き推進します。

また、公共施設等の維持管理経費や設置目的、利用率などから施設利用に係る適正な受益者負担について、市民に公表し、市民意見等を踏まえながら、受益者負担の適正化・平準化の検討を行います。

●公共インフラ

道路、橋梁、上下水道などのインフラ資産については、これまで国の基準に従って整備しなければなりませんでした。が、「地方分権改革推進計画」（平成 21 年 12 月閣議決定）において、市町村の条例で基準を定めることが可能となっています。市道構造、市準用河川の管理施設等の基準については、市民生活における重要性や経済性を考慮しながら、実態に則した見直しを行い、運営の最適化を図ります。

(5) 公共施設等の長寿命化を推進します

●公共建築物

これまでの公共施設等の保全については、破損・故障等が発生した場合の「事後保全」が大半でありましたが、「予防保全」*など適切な維持管理・補修の時期を先延ばしすることで、劣化が進行し、利用可能年数の短命化につながる場合もあります。

すでに、本市が保有する様々な施設等においては、個別に長寿命化計画を策定しており、これらの計画に沿って施設の長寿命化を推進します。

また、長寿命化計画を策定していない施設等においては、施設等の現状と将来の費用負担を分析しながら、計画的に長寿命化を推進します。

●公共インフラ

公共インフラにおいても、個別に策定された長寿命化計画に基づき、予防保全を行いながら、長寿命化を推進するとともに、安全確保のための日常点検・定期点検を実施し良好な状態を保ちます。

※予防保全とは、建物に劣化現象や不具合が現れてから補修等を行う事後保全ではなく、施設特性を考慮した上で、あらかじめ劣化の進行を予測し、不具合の発生前や、損傷が軽微である早期段階に予防的な修繕等を実施し、機能の維持・回復を図ることです。計画的な予防保全により、トラブル等の発生予防や施設の維持改修に伴うトータルコストの削減を行います。

(6) 公共施設等の耐震化を推進します

公共施設等は、利用者の安全確保が最優先であり、指定避難所としての機能を有するものも数多くある中で、今後も維持しつづける公共施設等で耐震基準を満たしていないものについては、劣化状況や利用状況ならびに、耐震化等に係る経費等を総合的に判断しながら、計画的に耐震化を推進します。

(7) 公共施設等の適正な維持管理を推進します

●公共建築物

公共施設等の適正な維持管理や長寿命化のためには、日常的な点検が重要であることから、施設を管理する職員（指定管理施設を含む）の意識啓発や、施設管理技術研修の実施、および日常的な点検を行うためのマニュアル等の整備を行い、適切な施設管理を実施します。

今後、維持し続ける公共施設等については、施設ごとに一定の周期を定めて、定期的な診断を行い、その状態によっては外壁塗装、屋上防水、機能の改修などを実施し、長く有効的に施設利用ができる状態を推進します。

この診断の結果、高度な危険性が認められた場合は、供用廃止を行い、立入禁止措置等により安全確保に努めます。民間活用も含め今後とも利用する見込みのない施設については、速やかに解体します。

また、本計画で作成する、施設カルテを活用して、施設の維持管理・修繕等の履歴を正確に記録し、将来に亘って、その施設の状態を常に把握できる仕組みづくりを行います。

●公共インフラ

コストシミュレーションによると、平成 40 年以降に大規模改修や、更新の時期が重複しており、普通建設事業費を上回る可能性が高くなっています。そのため、改修時期については、基本的な考え方における、総合的な判断を行い、更新・改修等の優先順位を定め、改修時期をずらすことなどで、年間コストの削減や平準化を図ります。

(8) 広域的な連携を推進します

公共施設等は、それぞれの市町村の区域の住民へのサービス提供を前提として、市町村毎に同様の施設等を設置していましたが、施設建設や維持管理に係る多額な経費が財政を圧迫し、課題となっているのは、他市町村においても同様です。

また、市民が居住している地域によっては、他市町の公共施設等の方が近く、利便性が良い場合や、反対に他市町からの利用者も考えられることから、生活実態に即した相互利活用を行うことで、利用者の利便性向上と施設の利用促進の検討も必要であり、公共施設等のあり方を検討にするにあたっては、近隣自治体との広域的な連携を推進し、利用方法、利用料などの調整を行い、公共施設等の相互利活用についても検討を行います。

(9) 民間活力および、市民との協働により有効利活用を推進します

今後、存続を続ける施設等について、その施設等に空き(余裕)スペース等がある場合においては、地域コミュニティの促進やNPO 法人をはじめとする民間等の活力向上を図るなど、まちづくりと連携した有効利活用を検討し、利用の促進を図ります。

(10) PFI・PPP 等などの活用を推進します

公共施設等の整備・更新をするにあたっては、多額の財源が必要であり、また整備・更新後の管理・運営等にも後年に亘って費用が発生します。今後、整備・更新を行う場合においては、その運営等も含め、PFI や PPP などの手法による、民間活力の導入について調査・検討を行い、それらが活用可能なものについては積極的に活用し、サービス水準の向上や、財政負担の軽減を図ります。

3. 施設類型別の方針

「2. 課題解決に向けた基本方針」において定めている、10の基本方針を踏まえ、公共建築物の施設類型別の方針を以下のとおりに定めます。これらの方針に基づき公共施設等の個別実施計画を策定してまいります。

類型	対象施設区分	方針
市民利用型施設	市民施設文化施設、社会教育系施設、社会体育施設、スポーツ・レクリエーション系施設、産業系施設、医療施設等	<ul style="list-style-type: none"> (1) 市民参画による見直しを推進します (2) 総量の最適化を推進します (3) 効率的で効果的な配置を推進します (4) 運営の最適化を推進します (5) 長寿命化を推進します (6) 耐震化を推進します (7) 適正な維持管理を行います (8) 広域的な連携を推進します (9) 民間活力および、市民との協働により有効利活用を推進します (10) PFI・PPP等の活用を推進します
学校、保育所等の通所型施設	学校教育系施設、子育て支援施設等	<ul style="list-style-type: none"> (1) 市民参画による見直しを推進します (2) 総量の最適化を推進します (3) 効率的で効果的な配置を推進します (4) 運営の最適化を推進します (5) 長寿命化を推進します (6) 耐震化を推進します (7) 適正な維持管理を行います (9) 民間活力および、市民との協働により有効利活用を推進します (10) PFI・PPP等の活用を推進します
保健・福祉施設	人権センター、保健福祉センター等	<ul style="list-style-type: none"> (1) 市民参画による見直しを推進します (2) 総量の最適化を推進します (3) 効率的で効果的な配置を推進します (4) 運営の最適化を推進します (5) 長寿命化を推進します (6) 耐震化を推進します (7) 適正な維持管理を行います (9) 民間活力および、市民との協働により有効利活用を推進します (10) PFI・PPP等の活用を推進します
公用施設	行政系施設、供給処理施設等	<ul style="list-style-type: none"> (1) 市民参画による見直しを推進します (2) 総量の最適化を推進します (3) 効率的で効果的な配置を推進します (4) 運営の最適化を推進します (5) 長寿命化を推進します (6) 耐震化を推進します (7) 適正な維持管理を推進します (9) 民間活力および、市民との協働により有効利活用を推進します (10) PFI・PPP等の活用を推進します

類型	対象施設区分	方針
市営住宅	市営住宅	<ul style="list-style-type: none"> (1) 市民参画による見直しを推進します (2) 総量の最適化を推進します (3) 効率的で効果的な配置を推進します (4) 運営の最適化を推進します (5) 長寿命化を推進します (6) 耐震化を推進します (7) 適正な維持管理を推進します (10) PFI・PPP等の活用を推進します
産業系施設・ その他の施設	歴史・観光施設、産業 系施設等	<ul style="list-style-type: none"> (1) 市民参画による見直しを推進します (2) 総量の最適化を推進します (3) 効率的で効果的な配置を推進します (4) 運営の最適化を推進します (5) 長寿命化を推進します (6) 耐震化を推進します (7) 適正な維持管理を行います (9) 民間活力および、市民との協働により有効利活用を 推進します (10) PFI・PPP等の活用を推進します
公園	公園等	<ul style="list-style-type: none"> (1) 市民参画による見直しを推進します (2) 総量の最適化を推進します (3) 効率的で効果的な配置を推進します (4) 運営の最適化を推進します (5) 長寿命化を推進します (7) 適正な維持管理を推進します
その他公共 インフラ	道路、橋梁、上下水 道、農業用施設等	<ul style="list-style-type: none"> (1) 市民参画による見直しを推進します (2) 総量の最適化を推進します (3) 効率的で効果的な配置を推進します (4) 運営の最適化を推進します (5) 長寿命化を推進します (6) 耐震化を推進します (7) 適正な維持管理を推進します (8) 広域的な連携を推進します (10) PFI・PPP等の活用を推進します

第7章 推進体制及び今後の取組み

1. 推進体制

基本方針の推進にあたっては、全庁的な取組みと、施設の総量を把握し、全体を一元的に管理する公共施設等マネジメント統括部署を定めます。

2. 進行管理

飯塚市行財政改革推進本部を中心に、全庁的に推進します。

また、進捗状況については、飯塚市行財政改革推進委員会にも報告し、適切な進行管理を行いながら取り組むとともに、市報やホームページ等で広く公表します。

3. 具体的な取組み

(1) フォローアップ体制の構築

- ・公共施設等マネジメント統括部署では、施設整備や改修にあたっては、関係機関との事前協議や横断的な調整を行うこととします。
- ・計画策定後についても、事業等の進捗管理や目標等の達成状況の確認、計画内容の修正などのフォローアップを行う必要があります。そのため、公共施設等マネジメント統括部署が中心となり、関係機関との定期的な情報共有の場を設け、財政負担の平準化のための調整や中長期的な計画の見直しなどを行います。

(2) 計画的な維持管理

- ・公共施設等の維持管理には、多額の経費を要することから、今後の維持管理にあたっては、計画を立て財政状況を十分に考慮して行うものとします。

(3) 新たな公会計との連動

- ・現在、導入が求められている新たな公会計制度は、民間企業的な資産管理手法であり、自治体が保有する資産量や減価償却費等を含めたコスト構造の把握が求められます。公会計制度の導入に合わせて、維持管理については、資産の増減を伴うことから、連動を図るものとします。



**飯塚市第2次公共施設等のあり方に関する基本方針
(公共施設等総合管理計画)**

発行年月日：平成28年1月

発行：飯塚市財務部行財政改革推進課

〒820-8501 福岡県飯塚市新立岩5番5号

TEL 0948-22-5500 FAX 0948-21-2066